

一般社団法人 全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウィンドミル

第26号



一般社団法人
全日本大学ソフトボール連盟
Japan College Softball Federation



REACH BEYOND

前新世よ

「当たり前」の尊さや支えてくれる人たちの大切さに気付けた。

大抵のことなら冷静に向き合えるマインドも手に入れた。

だから、次へ行く。今、ちょうどいい風が自分の中に吹いている。

その風に身をまかせて、前に進む



ミズノ 前新世よ。 | Q

jpn.mizuno.com

0120-320-799



ご あ い さ つ

(一社) 全日本大学ソフトボール連盟

代表理事 児玉 公正

機関紙「ウインドミル」第26号の発行に際し、僭越ではございますが一言ごあいさつ申し上げます。当連盟は2022年5月に法人登記が完了し、一般社団法人として新たな1歩を踏み出しました。私どもの活動の目的は大学ソフトボールの普及・発展、振興及び競技力向上を図るとともに、ソフトボールを通して学生の心身の健全な発達及び我が国のソフトボールの発展に寄与することを掲げております。「ウインドミル」の発刊は、連盟が本年度に展開した活動の一端をご紹介することも目的の一つに含まれ、目次からも明らかなように連盟の事業報告から学生が関与した大会の結果記録、研究報告まで多岐にわたります。



依然として新型コロナウイルスが猛威をふるう状況の中、多くのスポーツ種目同様に大学ソフトボールも感染防止策を講じながら各方面のご支援を賜り、今年度に開催を予定した大会を全て終了することができませんでした。多くの皆様のお力添えをいただきましたこと、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。学連に所属する選手たちは、大学での学修に加えソフトボール活動を通じて新型感染症と対峙しながら多くのことを体験したことと思います。今後ももうしばらくの間はこのような環境下で踏ん張らなければなりませんが、これまでの取り組みは大きな糧となって、皆さんが社会に出られたときに必ずや大きな力となることでしょう。また、選手を支援する指導者各位におかれましても、飛沫感染防止策としてマスク着用によりコミュニケーションを取る方法が見直されるなど、ご負担もお掛けすることになりました。我々人類は無敵ではなくその弱さも体感する昨今ですが、この逆境を逆手に取りながら、お互いに手と手を携え、心を通わせ、力を合わせることによって障壁を乗り越えることができると信じています。

さて、本学連は1966(S41)年に設立され、その年の11月に第1回全日本大学選手権を開催し、本年度は57回を数えるまでに至っております。少子化に伴う人口減少が続いておりますが、ソフトボール振興の一助に貢献すること、次代の指導者養成も含めた大学連盟の位置づけが重要であることは申し上げるまでもございません。連盟に在籍する皆様やそれを外部からご支援いただく多くの団体様と連携をさせていただき、ソフトボール種目の益々の発展にご尽力を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、ご関係の皆様のご健勝をご祈念申し上げましてごあいさつに代えさせていただきます。

令和4年度 一般社団法人全日本大学ソフトボー連盟機関紙

ウィンドミル 第26号

目 次

ごあいさつ●代表理事 児玉 公正(大坂大谷大学)	1
〔巻頭言〕●前会長 中野 元(熊本学園大学)	4
●前 広報記録部長 水谷 博	5-6
〔事業報告〕●令和4年度の事業報告と今後の活動方針	
前理事長 岩間 英明(松本大学)	7-8
専務理事 木田 京子(園田学園女子大学)	9-10
〔卒業論文〕●大学女子ソフトボール選手における 体力的特性とスイングスピードの関係性 林 祐希(日本体育大学 体育学部)	11-13
〔主催大会〕●文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会	
大会概要 藤本 索子(金沢学院大学)	14-15
記録長 本部 亨	16-17
大会結果	18
大会記録	19-27
「2022 インカレ優勝についての感想」 環太平洋大学男子ソフトボール部 主将 谷口 将隆	28-29
●文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会	
大会概要 二瓶 雄樹(中京大学)	30
記録長 川辺 まり子	31-32
大会結果	33
大会記録	34-42
「努力が報われた瞬間」 金沢学院大学ソフトボール部 主将 遠藤 滯	43-44

〔共催大会〕 ●第 37 回東日本大学（男子）ソフトボール選手権大会	
大会結果 -----	45
大会記録 -----	46
●第 37 回東日本大学（女子）ソフトボール選手権大会	
大会結果 -----	47
大会記録 -----	48-49
●第 54 回西日本大学（男子）ソフトボール選手権大会	
大会結果 -----	50
大会記録 -----	51-52
●第 54 回西日本大学（女子）ソフトボール選手権大会	
大会結果 -----	53
〔後援大会〕 ●第 21 回大学男子ソフトボール東海オープン -----	54
●第 19 回北信越オープン（男子の部・女子の部） -----	55
●第 14 回 HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール大会 -----	56-57
●第 12 回藤原初男杯全国大学選抜女子ソフトボール大会 -----	58
●第 53 回関東大学ソフトボール選手権大会（男子の部・女子の部） --	59-60
〔全国大会〕 ●第 68 回全日本総合男子選手権大会 【台風のため中止】	
●第 74 回全日本総合女子選手権大会 -----	61
〔海外大会〕 ●第 3 回アジア女子大学選手権大会について -----	62-91
〔学連情報〕 ●インカレ成績一覧-----	92-95
●令和 4 年度男子加盟大学一覧 -----	96
●令和 4 年度女子加盟大学一覧 -----	97
●令和 4 年度（一社）全日本大学ソフトボール連盟役員名簿 -----	98
●2023 年度全日本大会日程	
●連盟機関誌「ウィンドミル」投稿規定	
●編集後記	

大学ソフトボールのさらなる飛躍への期待

前・全日本大学ソフトボール連盟

会長 中野 元

2022年3月、私は連盟会長を退任いたしました。1987年に熊本商科大学（1994年熊本学園大学に名称変更）の男子チームにかかわり、2000年に九州地区大学連盟理事長と全日本大学連盟常任理事に、2018年から4年間は会長職を仰せつかりました。足掛け34年間で大学ソフトボールとともに過ごしました。特に、2020年からの新型コロナウイルス感染症対策期には、ほんとうに皆さんにお世話になりました。全日本大学連盟は、独自開催という対応策でなんとか大会を継続することができました。改めまして、大学ソフトボール関係者をはじめ応援していただいている関係各位のご協力とご支援に、衷心より感謝申し上げます。



さて現在、最高教育機関である大学のソフトボール競技は大きな時代の転換点を迎えています。その背景には、全人口に対する65歳以上層の割合が約29%という超々高齢社会（21%で超高齢社会）に日本が突入し、他方低年齢層では少子化が着実に進行しているという事情があります。中学校や高校の生徒数減少は、各スポーツ競技での複数学校による合同チームの増加につながっています。大学における課外活動も文科省による教育システムの各種再編とともに影響を受けています。この影響はこの間の新型コロナウイルス感染症問題で加速したようにも感じます。その一端は、国公立大学のスポーツ課外活動の低迷（活動クラブ数の減少）として現れています。日本ソフトボール協会に関しても、競技を支えている審判員、記録員など各種運営スタッフの高齢化が目立ち始めています。

まさに問題は山積みです。ソフトボールを愛好する多くの学生からトップレベルの競技能力を目指す学生まで、広範囲に及ぶ学生の「満足度」をいかに実現させることができるか。大学ソフトボール競技の将来的発展を見据えた持続可能なシステムを構築するために、日本ソフトボール協会と連携しながら運営面での人材養成体制をどこまで整備できるのか。大学ソフトボール競技を観戦する人の「満足度」をかなえられる大会の試合方式を、さらに大会イベントでの財政的収入の確保をいかにして達成できるのか、等々。

全日本大学連盟は、「一般社団法人」という新たな組織体制のもとで大学スポーツ協会

（ユニバス）と緊密に連携しながらこうした諸課題に取り組むことになるでしょう。そのなかで、将来の日本を担う学生たちは様々な経験と多くの教訓を得るはずで、厳しい時代であればこそ、一丸となって果敢にチャレンジし、大学ソフトボール競技をさらに飛躍していかれることを心より念願し期待しています。



私が広報記録委員長（後に同部長）に就任したのは1996年アトランタオリンピックの年でした。会長に大内敬哉氏（中京大学）、理事長に末井健作氏（兵庫工業大学）が就任して新体制となった時です。下奥信也先生を初めとして学連を創設して育ててきた方々である岡田俊彦顧問（日本体育大学）・岩野次郎顧問（関西大学）・中平順顧問（四国学院大学）が次々に逝去され、学連執行部が第2世代に代わった時でもありました。インカレはすでに女子に予選が導入されてオープン参加がなくなって13年、31回を数えていました。

新体制は学連の活性化と課題解決のために、各地区に担当すべき「学連改革・インカレ改革・短期大学大会の運営・東西対抗の運営・広報記録など」の課題を割り当てました。この流れで東海地区が広報記録を担当することになりました。このとき、手元にあった学連の記録資料はインカレのトーナメント表を主とする「25周年記念記録要覧」と「30周年記念誌」及び14回から参加していたインカレのプログラム及並びに「ソフトボールマガジン」だけでした。学生委員会で決定された機関誌名「ウインドミル」はすでに決まっており、会長と理事長から学連機関誌の編集を依頼されたとき、はたして可能なのか大きな不安がありました。

しかし、1997年度の男子登録校は149校、女子90校、計239校のうち、インカレに出場できるのは男子32校、女子24校のみでした。4分の3以上の大学がインカレに出場できず、登録費のみを納入しているのは健全な状況とは思えませんでした。また、「ゲームができればいい。」という風潮もあり、実施された試合の多くが勝ち負け以外は何の記録もなく、その大部分が時の彼方に失われていました。それぞれの試合の中には大きなドラマがあったはずです。いや、1球1球に青春のすべてをかけた汗と涙のドラマがあったはずです。何とかそれらを残しておけないかという思いもありました。幸い、当時東海地区の理事であった山本英弘先生（朝日大学）と矢澤久史先生（東海女子大学）のご理解ご協力と励ましがあつた、発刊にこぎ着けることができました。しかし、しばらくすると御両名のチ

ームとも登録できなくなり、結局は一人で続けることになりました。

当時の大内会長・末井理事長のご意向は学連の活動を記録に留めるとともに、それを全登録チームが共有するところがありましたので、まずは各地区でインカレ予選会やリーグ戦など、どのような大会が開催されているのかの把握から始めました。幸い、各地区のすべての常任理事の皆様からインカレ予選会のトーナメント表や春秋のリーグ戦対戦結果表を送っていただきましたので、インカレ・東西対抗・短期大学大会・東日本大会・西日本大会に加えて各地区の活動を創刊号に掲載して発行することができました。ただ、地区から送られてきたものをスキャナーでデジタル化したものばかりで統一性がなくきわめて拙い誌面になってしまいました。

また、機関誌ウインドミルには大会の記録以外に、ソフトボールに関する情報や研究論文の発信（紹介）も期待されていました。「大学」連盟の機関誌である以上、学術と教育に関する情報の発信はその核心でなければなりません。第2号以降はこれに注力して編集作業を進めました。まずは、松永尚久先生（東海大学）にご相談すると、国会図書館のデータベースを調べていただき、「野球型スポーツに関する研究の動向」として投稿していただきました。そこには1998年までの14年間に「野球やソフトボールに関する研究は、130件以上あるにもかかわらず、ソフトボールを扱った研究は、わずか13%に過ぎない。」との指摘がありました。最後に先生はこうも記述されています。「現場に埋もれている“ダイヤモンド”を掘り起こす作業をしていくことを期待したいと思う。」と結ばれています。第2号にはこれ以外に末井理事長が巻頭言として、「ソフトボールを科学する」など研究報告・紹介4編、提言2編、卒論抄録1編を掲載できました。これは森田啓之研究調査委員長（兵庫教育大学）のご尽力によるものでしたが、第2号にして早くも機関誌の方向性を見いだしてこれを確立させたいという思いに駆られました。

なお、第2号からはインカレの大会打撃ベスト10、

第3号からはこれに加えて大会上位チームの投手成績と大会新記録を掲載できるようになりました。さらに、5号からはイニングスコア表、7号からは全試合の戦評も掲載事項に加わりました。最近では、全国大会であっても戦評の記載は必須事項ではなくなったので、インカレだけは開催地協会の記録員の皆様にご無理をお願いしております。

このように機関誌ウインドミルに掲載している記録事項の増加によって、単に勝った負けただけではなく、試合展開の確認や勝因・敗因の探求もできるようになりました。これらによって、記録を楽しむこともできるようになったのではないのでしょうか。

ところで、試合記録の集計は面倒なものです。監督に就任した頃には、Excelで表を作り、打率・守備率・防御率などを計算していました。しかし、(公財)日本ソフトボール協会から1997年に活用が開始されたHiball、その改良版で2012年から活用が開始されたWindmillは、これに画期的な変革をもたらしました。まさに、ソフトボールのDXでした。これによって登録選手名とUNを事前に入力し、試合開始前に打順表のデータを入力すれば、スタートリスト(打順表)と選手の氏名とポジションが記載されたスコアシートが打ち出せ、試合終了後にスコアカード両端の集計数字さえ入力すれば、個人とチームの打率・守備率・防御率などはもちろん、数クリックでイニングスコアと勝利投手・敗戦投手、長打なども大会速報として出力されます。手作業で集計していた者にとって、初めて使用したときの感動は未だに忘れられません。各チームやリーグ戦等での使用をお勧めします。インカレ開催地の記録員の皆様に対しは、この細かい作業を見えないところでご尽力いただき感謝に堪えません。また、過去のインカレのスコアカードとそのWindmillデータを可能な限り収集してご提供いただいた(公財)日本ソフトボール協会記録委員会には特に感謝申し上げます。そのほか様々な形でインカレを支えている皆様に対し、ここに記して衷心より御礼申し上げます。

学連機関誌ウインドミルには、創刊号と9号の40周年記念号を除き、何らかの研究論文や報告・紹介等を掲載してきました。しかし、創刊号で掲げた「ソフトボール界の発展に貢献」するまでにはまだ至っていないと考えます。現場の指導者が日々体験している事柄は貴重な財産でもあります。勝負にこだわるだけでな

く、その財産を活字にして共有し、先に記した松永先生の思いを体現していくことは、学連の責務でもあります。そして、その存在価値を高めます。さらなる科学的な情報の発信に対してのご理解とご協力を祈念し、結語とします。

全日本大学ソフトボール連盟 法人化までの道のり

全日本大学ソフトボール連盟

前理事長 岩間英明（松本大学）

全日本大学ソフトボール連盟（以下、本連盟）法人化の契機となったのは、UNIVAS への加盟入会である。UNIVAS の定款及び入会基準によって、それまで任意団体であった本連盟は 2022 年 2 月 28 日（UNIVAS 設立日から 3 年）までに、法人格を取得する必要があった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大（以下、コロナ）による諸手続きの遅れもあり、実際に本連盟の法人登記が完了したのは法人設立日と同じ 2022(令和 4)年 5 月 11 日であった。

本連盟が法人化に向けてスタートを切ったのは久保田元理事長（大阪国際大学）であったのだが、2020（令和 2）年 7 月にコロナによるインカレ中止により生じた混乱の責任をとる形で辞任されたことに伴い、後を受けた岩間が引き継ぐこととなった。しかし、インカレ中止処理とともに、その代替大会となる全日本大学選抜男子・女子ソフトボール選手権大会の準備・運営・総括に忙殺され、法人化にむけた諸手続きは 2021（令和 3）年 5 月に開催された UNIVAS 法務部の小塩様、組織運営部の笹原様、事業企画部の千葉様とのオンライン会議が実質上の第一歩となった。

それまでの連盟規約に基づき法人化の根本を司る定款の草案を作成したのを手始めに、TMI 総合法律事務所の丸山弁護士のご指導を仰ぎながら定款の確定を含めた法人化への歩みを進めたわけだが、一番のネックとなったのは事務所の所在地であった。当初、UNIVAS、日本ソフトボール協会などの関連機関内での事務所設置を検討したものの結果的には設置は困難との結論となった。そこで、各方面との連絡の取りやすさ、本連盟の歴史等も踏まえ日本体育大学へお願いする予定で進んでいたが、確定直前に様々な事情からそれも難しくなり、定款作成が停滞してしまった。そのため、設立時代代表理事にもなっていた丸山副会長（日本福祉大学理事長）に無理をお願いし、日本福祉大学に事務所の設置をご了解いただき定款の確定に漕ぎ就くことができた。また、私を筆頭に法的知識など皆無の中で丸山弁護士には定款をもちろん、法人化に必要な事項に関して、細部までご指導を頂いたことは感謝の言葉しかない。

法人化への取組みは UNIVAS の入会条件であったからであるが、それ以外にも本連盟にとってはあるようなメリットを考えていた。

（１）法人は公益性があると思われることが多く、任意団体よりも社会的信用力があるため、企業協賛など寄付行為が容易となる条件が整う。

（２）法人名義で貸事務所を借りる、銀行口座を開く、不動産を所有する、自動車などの動産を所有するといった法律行為を行うことが可能になり、法律上の権利関係が明確になる。

特に、今後は選手数、チーム数の減少が進んでいくことは避けられず、登録料のみで運営し財政基盤の弱い本連盟は、組織の維持さえ難しくなる可能性があり、将来的には後援企業

などによる寄付資金収集が必要となると考えられるが、その際、法人化は必要条件となるであろう。実際、選抜大会の大会運営費の寄付を募った際、学連が任意団体であったことから、企業の寄付行為はかなり難しく、法人化の必要性を痛感した。

また、学連事務全般はこれまで役員が司ってきたが、全国が対象となる理事長、事務局長は極端に過重負担の状態、大学の本務にも支障をきたしている。そのため、連盟として事務員を雇用した上で、法人化を踏まえて事務室を開設しなければならない、その費用が必要となる。

さらに、日本ソフトボール界への貢献方法の一つとして、大会を協会に全面的に運営してもらうのではなく、本連盟が中心となって審判員、記録員、放送係ができる学生を養成し、大会運営に直接参画するとともに、そうした経験を得た学生諸君が、卒業後はプレーヤーとしてだけでなく、全国各地の役員として活躍することを目指したいと考えており、その費用の確保も重要である。

加えて、国公立大学をはじめとしたインカレとは無縁なチームに、インカレ出場（可能性のある）チームと同額の登録料負担を強いるだけでなく、学連登録をすることでメリットがあると思えるように、そうしたチームを対象とした新たな大会の創設と運営のための費用などの工面も必要となる。

他にも大学ソフトボール OB でもあらせられる日本ソフトボール協会の三宅会長は、今後の日本ソフトボール界浮沈のカギを握るのは大学であるという視点から、「大学組織構築プロジェクト」を立ち上げられた。本連盟理事長がその責任者となって、各大学の OB・OG を巻き込んだソフトボール界を支える組織構築に当たることとなり、そのための費用なども考える必要がある。

以上のような本連盟の将来設計を掲げた時、やはり財政的な問題は避けて通れないものであり、その意味でも法人化による組織改革は必要になるであろう。

一方、法人化することにより法的な手続きが必要となり、連盟の運営が煩雑になるという意見もある。しかし、任意団体の法人化は社会の趨勢であり、公的組織として存在する本連盟の責任でもある。だとすれば、法人化のメリットを最大限生かしていくことが大切であり、本連盟に課せられた課題であるとも言える。そのためにも、役員だけでなく加盟大学、学生が一丸となって取り組んでいきたいものである。

令和4年度の事業報告と今後の活動方針

(一社) 全日本大学ソフトボール連盟

専務理事 木田 京子 (園田学園女子大学)

岩間英明理事長(現顧問)の後任として令和4年7月18日に専務理事を拝命しました。大役で戸惑うことばかりの半年でしたが、関係各位に多大なご支援とご協力を頂きながら、令和4年度の活動が終わりました。この場をお借りして皆様に厚く御礼申し上げます。

令和4年度は全日本大学ソフトボール連盟として大きな変化の年となりました。岩間顧問のご尽力のもと、令和4年5月11日に法人登記が完了され、年度途中より、「一般社団法人 全日本大学ソフトボール連盟」としての活動となりました。法人の目的として、全国の大学ソフトボール団体を統轄し、大学ソフトボールの普及・発展・振興及び競技力向上を図るとともに、ソフトボールを通して学生の心身の健全な発達及び我が国のソフトボールの発展に寄与することを掲げて発足されました。

主催事業である文部科学大臣杯全日本大学男女ソフトボール選手権大会(インカレ)は、多くのご理解とご協力を賜り、無事に終えることが出来ました。スポーツ活動がコロナに影響されて3年目となりましたが、With コロナを目指した大会となりました。

男子は富山県岩瀬スポーツ公園での開催、富山県協会のご理解もあり、観客や応援の許可も行えました。優勝は環太平洋大学(6年ぶり3回目)、準優勝に京都産業大学が輝き、3位には早稲田大学・岐阜聖徳学園大学が入賞しました。スピードとパワー勝負の試合は一瞬にしての攻防があり、見ごたえのある試合が多く繰り広げられました。特に決勝戦の思いのこもったプレーのシーンは観戦する人に感動与えたことが印象的でした。大会通じて天候にも恵まれ、参加した選手たちの良い思い出となる大会となりました。

女子は安城市総合運動公園内のデンソーブライトペガサス球場を中心に安城市のご協力もあり、お祭りのような雰囲気の中、熱戦が繰り広げられました。金沢学院大学が初優勝を飾り、準優勝に東北福祉大学、3位にはIPU環太平洋大学・中京大学が入賞しました。金沢学院大学については充実した戦力が最後まで力を発揮、東北福祉大学については緻密なソフトボールを展開し決勝まで駒を進めた形となりました。入場時の健康チェック・マスク着用等のコロナ対策を行いながらでしたが、数年ぶりに多くの観客動員することが出来ました。また、台風直撃により1日順延となりましたが、関係者の「最後まで試合をさせてあげたい」との熱意により無事に大会を終えることが出来ました。男女共にUNIVASによる全試合ライブ配信(中京テレビご協力)や感染対策の為に物品提供など頂きました。最終日配信に男子は平林金属より吉村啓監督・小山玲央選手、大阪・堺グローバルより長秀一総監督を、女子はトヨタ自動車より伊藤幸子監督及び渡辺華月氏とトップで活躍される指導者や選手をお招きし解説をお願いし、好評でありました。

共催事業である東・西日本大学選手権大会は、一部コロナ感染の影響での棄権もありましたが大会を無事に終えております。東日本男子は石川県小松市、女子は石川県金沢市、西日

本男子は山口県宇部市、女子は三重県熊野市で開催されました。結果、東日本は優勝が日本体育大学（男子）と早稲田大学（女子）が、西日本は環太平洋大学（優勝）と東海学園大学（女子）が頂点に立ちました。後援大会についても、関東・北信越・東海・近畿などで開催され、コロナ前の大会に戻りつつあります。次年度については、さらに後援大会が開催出来る状況になればと考えます。

国際関係では、大学女子日本代表チームをタイのパタヤに派遣され（日本ソフトボール協会派遣）、3回アジア大学選手権大会で初優勝の成績を収めました。今後、ユニバーシアードの正式種目を目指すためにも国際大会の派遣も積極的に行う必要があります。

今後の活動としては、法人株を取得した今、法令に基づいた団体運営及び事業運営を行い、組織として社会的な信用度が高められる、適正なガバナンス強化を行います。そのためには学連組織強化を行い、設立時の目的を遂行できるように目指します。

さらに大学ソフトボールのブランディングの為に協賛金等の財源獲得、広報活動、研究活動、国際派遣等の強化事業、普及活動を充実させると共に、学生にとってソフトボールが学生生活の良い経験となり、将来に繋がるよう取り組みたいと思います。

最後になりましたが、本連盟の主催・共催・後援大会の開催にあたっては（公財）日本ソフトボール協会、都道府県協会、支部協会をはじめ多くの関係各位のご支援を賜りましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。来年度もより一層の発展の為、全力で取り組む所存でございます。今後とも皆様の絶大なるご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

大学女子ソフトボール選手における体力的特性とスイングスピードの関係性

林 祐希¹⁾, 近藤 佑希¹⁾, 河野 向日葵¹⁾, 齋藤 雄介²⁾,
西藤 優美³⁾, 筒井 崇護³⁾, 高橋 流星³⁾

¹⁾日本体育大学体育学部体育学科

²⁾NPO 法人 Spitzen Performance

³⁾日本体育大学 (野球・ソフト) 研究室

Relationship between physical characteristics and swing speed in female college softball players

HAYASHI yuki, KONDO yuki, KAWANO himari,
SAITO yusuke, SAITO yumi, TUSTSUI takamori, TAKAHASHI subaru

Abstract : The purpose of this study was to clarify the physical factors that increase the swing speed of college female softball players from the new physical fitness test and the competition characteristics test. 34 N university softball players participated in this study. The measurement is a new physical fitness test (grip strength, back strength, sit up, flexible, side jump, long jump), competition characteristics test (push-up, backward medicine ball throw, ball throw, 30m sprint, bat swing speed measurement). The bat swing speed and correlation were shown, backward medicine ball throwing $r=0.684(p<0.01)$, 30m sprint $r=0.394(p<0.5)$, and back strength $r=0.383(p<0.5)$. From the above, it is effective to incorporate medicine ball throwing into the physical training to improve the bat swing speed. In addition, it is one of the effective abilities for improving the bat swing speed in the back strength and 30m sprint.

要旨：本研究の目的は、新体力テストおよび競技特性テストから大学女子ソフトボール選手のスイングスピードを高める体力的要素を明らかにすることであった。N大学女子ソフトボール選手34名がこの研究に参加した。測定は、新体力テスト（握力・背筋力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・立ち幅跳び）・競技特性テスト（腕立て伏せ・後方メディシンボール投げ・遠投・30m走・バットスイング速度計測）を行った。バットスイング速度と相関関係が示されたのは、後方メディシンボール投げ $r=0.684(p<0.01)$ 、30m走 $r=0.394(p<0.5)$ 、背筋力 $r=0.383(p<0.5)$ の3項目で優位な相関関係が認められた。本研究測定結果から、バットスイング速度と後方メディシンボール投げにおいて、0.1%水準で有意な相関関係が認められたことから、メディシンボール投げをトレーニングとして取り入れることは、効果的であると考えられる。その他にも、低い水準ではあるが、背筋力、30m走において5%水準で優位な相関関係が認められたことから、背筋力や疾走能力においても、スイングスピード向上に有効な運動能力の一つとして、トレーニング指標や選手選考の指標にも役立つ有益な情報になり得る。

Key word: swing speed, physical characteristics, female university softball players

キーワード：スイングスピード, 体力的特性, 大学女子ソフトボール選手

1. 背景

ソフトボール競技は、1996年のアトランタオリンピックから正式種目として公認され、2008年の北京オリンピック・2020年東京オリンピックで女子ソフトボールチームが金メダルを獲得した。その中でも、東京オリンピックではNTTコミュニケーション科学基礎研究所がバッティング強化のサポートにあたり、視線や運動、認知課題などの計測を行い、研究データとして解析するとともに、選手にフィードバックするなどの取り組みも行われてきた。このようにソフトボール競技において、バッティング技術は重要視され、著者らも重点的に練習を行ってきた。

バッティング技術にも、様々な先行研究がなされている。大藪ら²⁾の報告によるとスイング速度と打球速度には、極めて高い相関関係があることが報告され、ボールを強く打つことやより遠くに打つためには、スイングスピードを高めることが重要であることが述べられている。さらに、光川ら³⁾の報告でも、打球飛距離を伸ばすことを第一の目的として練習する場合、ス

イングスピードを少しでも向上させることに専念すべきであると述べられている。しかし、スイングスピードの向上に焦点を当てたトレーニング、技術練習については十分に検討されておらず、練習内容が曖昧である。本研究では、体力的要素とスイングスピード向上の関係性を研究し、有効的な練習やトレーニングの指標を発見したいと考えた。

2. 目的

新体力テストおよび競技特性テストから大学女子ソフトボール選手のスイングスピードを高める体力的要素を明らかにすることで、ソフトボール競技を指導する際のトレーニング指標を得ることを目的とした。

3. 方法

3-1 被験者

被験者は、N大学女子ソフトボール選手34名であり、年齢 20.0 ± 1.1 歳、身長 162.7 ± 5.2 cm、体重 60.6 ± 5.0 kg であった(Tabell1)。被験者の中には、各カ

テゴリーの代表選手をはじめ、国体代表選手など、競技力は非常に高い被験者であった。

被験者には、測定の内容を十分に説明した後、充分なウォーミングアップをさせた。

Tabel1.Characteristics of women’s players (mean±SD)

	n	Age(year)			Height (cm)			Weight (kg)		
		mean	±	SD	mean	±	SD	mean	±	SD
women’s softball player	34	20	±	1.1	162.7	±	5.2	60.6	±	5.0

3-2 測定および調査内容

- 1) 新体力テスト (計 6 種目)
握力・背筋力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・立ち幅跳び
- 2) 競技特性テスト (計 5 種目)
腕立て伏せ・メディシンボール投げ・遠投・30m 走・バットスイング速度計測

4. 結果

Tabel2.3 はそれぞれ新体力テスト、競技特性テストの測定結果 (平均値±標準偏差) およびバットスイング速度と関係のある測定項目を統計処理した結果である。
相関関係が示されたのは、メディシンボール投げ $r=0.684(p<0.01)$ 、30m 走 $r=0.394(p<0.5)$ 、背筋力 $r=0.383(p<0.5)$ の 3 項目で優位な相関関係が認められた。

Tabel2. Characteristics of women’s softball players (mean±SD)

		mean	±	SD	Significant difference	
Grip strength	Left	(kg)	33.3	± 4.5	0.139	ns
	Right	(kg)	35.3	± 4.4	0.238	ns
Back strength	(kg)	110	± 19.2	0.383	*	
Sit-up	(time)	36.1	± 3.3	0.252	ns	
Flexible	(cm)	47.0	± 9.5	0.142	ns	
Side jump	(time)	61.3	± 3.1	0.300	ns	
Long jump	(m)	2.02	± 0.2	0.283	ns	

*** $p<0.01$ * $p<0.5$

Tabel3. Characteristics of women’s softball players (mean±SD)

	mean	±	SD	Significant difference	
Pushup	(1time/3sec)	29.4	± 10.2	0.002	ns
Medicine ball throw	(kg)	9.2	± 1.1	0.684	***
Ball throw	(m)	50.0	± 5.0	0.151	ns
30m sprint	(m/s)	4.7	± 0.2	0.394	*
Bat swing speed	(km/s)	97.7	± 5.0		

*** $p<0.01$ * $p<0.5$

Fig.1 は、women’s softball player(n=34)におけるバットスイング速度と後方メディシンボール投げとの相関関係である。両者は、 $r=0.684(p<0.01)$ で有意な相関関係が認められた。

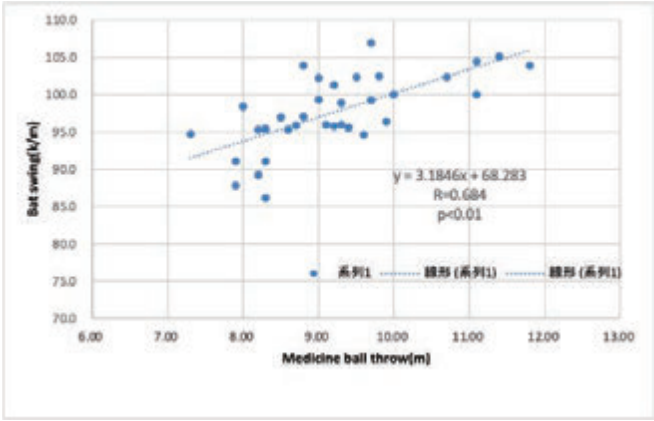


Fig.1 Relationships between Bat swing and Medicine ball throw

5. 考察およびまとめ

本研究測定結果から、バットスイング速度とメディシンボール投げ ($r=0.684$) において、0.1%水準で有意な相関関係が認められた。

窪ら 4) の報告によると、メディシンボール投げの技術トレーニングを行うことで、力学的エネルギーを身体中心部から末端部へ有効に伝達できる動作が獲得できると報告している。

一方、勝亦ら 5) の報告によると、打撃動作は下肢から上肢に向けて運動が連鎖的に起こることで遂行されることが報告されている。このことから、バットスイング速度の向上には身体の連動性が重要であると考えられる。

しかしながら、本研究では、3 kg のメディシンボールを後方に投げる測定を行ったため、選手の体格や身体組成、投げ方など、因果関係を正しく推論し、結論づけるには交絡因子を適切に調整した研究が必要になるが、メディシンボール投げをトレーニングとして取り入れることは、効果的であると考えられる。

その他にも、背筋力、30m 走においても 5%水準で優位な相関関係が認められた。笠原ら 6) は、スイング速度と背筋力に関係があると述べており、スイング速度の向上のためには背筋力も重要な筋力の一つと言える。

また、30m 走などの疾走能力において、澤村ら 7) は、30m 走とバットスイング速度の相関から、スイング速度が下肢の筋力に大きく影響されることを報告しており、疾走能力においても、スイング速度向上に有効な運動能力の一つと言える。

本研究結果から、大学女子ソフトボール選手におけるバットスイング速度を向上する体力的要因の関係性を明らかにでき、トレーニング指標を得ることができた。また、選手選考の一指標にも役立つ有益な情報になり得る。

しかしながら、バッティング技術の向上には、スイング速度向上以外に、ボールへのミート力をはじめ、バットコントロール、選球眼、配球を読む経験値など様々な要素の検討が必要である。今後も、バッティング技術向上に焦点を当て、自身の競技力向上および指導法の発見に取り組んでいきたいと考えている。

6. 参考文献

- 1) NTT 技術ジャーナル,55-57,2018-3
- 2) 大藪由夫,高橋邦郎,須藤芳樹,佐藤宣紘,和田忠 : 野球におけるバッティングの動作分析, 日本体育学会大会号 (31), 648, 1980-10-11
- 3) 光川眞壽,河村剛光,佐賀典生,澁谷智久 : 野球のティー打撃における打球飛距離とスイング特性の関係 (簡易型スイング特性分析器による検討), 野球科学研究 3,46-56,2018
- 4) 窪康之,阿江通良,藤井範久 : 技術トレーニングによる動作の変化に関するバイオメカニクスの研究(3),170-178,1999
- 5) 勝亦陽一,高井洋平,大田めぐみ,佐久間淳,川上泰雄,福永哲夫 : 大学野球選手にみられる筋量および筋量分布の特徴が投球スピードに与える影響, スポーツ科学研究,4,75-84,2007
- 6) 笠原政志,山本利春,岩井美樹 : 大学野球選手のバットスイングスピードに影響を及ぼす因子,日本ストレング&コンディショニング協会機関誌,19(6),14-18,2012
- 7) 澤村省逸,鎌田安久,栗林徹,清水茂幸,上濱龍也,黒川國児,福士宏紀 : 野球の投球速度・バットスイング速度に影響をもたらす体力因子,岩手県大学教育学部付属教育実践総合センター研究紀要,5,53-62,2006

文部科学大臣杯第 57 回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

日時：2022 年 9 月 10 日(土)～9 月 12 日(月)

場所：富山県富山市

(一社) 全日本大学ソフトボール連盟

男子会場担当理事 藤本 索子 (金沢学院大学)

【大会概要】

第 57 回全日本大学男子ソフトボール選手権大会 (以下:男子インカレ) は、9 月 10 日(土)～12 日(月)の 3 日間にわたり、男子インカレの聖地「富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール場」において開催された。3 年ぶりに監督会議が対面で実施され、全国各地の予選を勝ち抜いた精鋭が一堂に会し、大会前日から各チームの大会への意気込みが窺えた。

決勝戦は IPU 環太平洋大学 vs 京都産業大学という顔合わせとなった。その結果、IPU 環太平洋大学が 6 年ぶり 3 回目の優勝を飾り、大学日本一となった。IPU 環太平洋大学は優れた投手陣を有し、どの打順からも点数が取れる打撃陣と堅実な守備力、機動力を兼ね備えたチームであった。圧倒的な戦いぶりで、まさに『王者 IPU 環太平洋大学』となった。準優勝の京都産業大学もそれと同様に決勝まで勝ち進み、惜しくも力が及ばず準優勝となったが、多くの感動を与えてくれるプレーが印象的であり、チーム力の高さが際立っていた。

この 2 校に加えベスト 4 には早稲田大学、岐阜聖徳大学が進出し、準決勝も白熱した好カードとなった。両チームともそれぞれ稲垣拓朗投手、山本愛闘投手を中心とした力のある投手陣を誇り、安定した守備とそつのない攻撃で勝ち進み、存分に力を発揮していた。

2 回戦で、昨年の覇者である日本体育大学と劇的な熱戦を繰り広げた末、勝利した早稲田大学。攻守にまとまりのあった国士舘大学・神戸学院大学。粘り強く攻め続けた中京大学などの好チームが目についた。大会を通して合計 29 本の本塁打が打ち込まれ、男子インカレならではの魅力あるゲーム展開がどの会場でも繰り広げられた。

また、今大会は昨年に引き続き UNIVAS (一般社団法人大学スポーツ協会) のご協力により、全試合を Live 配信することができた。多くの視聴者の方に画面を通して観戦していただけたのは、大学ソフトボール、とりわけ活性化が大きな課題となっている男子ソフトボールの魅力を発信することにつながったのではないかと思う。準決勝からの解説には、長秀一 氏 (大阪・堺グローバル総監督)、吉村 啓 氏 (平林金属監督・男子日本代表監督)、小山 玲央 氏 (平林金属・男子日本代表) の男子ソフトボール界の先頭を走り、普及に尽力されている 3 名にお越しいただき大変貴重な機会となった。

以上のような素晴らしい面も多かった一方、大会出場の手続きに不備・不手際が多々あり、大学ソフトボール界の頂点を決める最高峰の大会に出場するにはそぐわない学生、あるいはそれを指導する指導者の問題も少なからずあった。大学選手権だからこそ、大学生自らが作り上げる由緒ある大会にしていきたいと切に願う。大学生アスリートにとって出場することはもちろんのこと、大会マネジメントにも率先して参加し、価値ある人生経験となるよ

うな大会運営を目指し、今後も男子インカレのあり方を模索していかなければならない。今後もより一層ソフトボールやソフトボールを通して出逢った仲間を大切に思える、大切にできる社会性のあるマナーを守れる大学生であってほしいと考える。

今年度は with コロナの生活が続く中での大会であったが、主管協会と大学連盟は様々な工夫と労力をかけ、でき得る限り最大限の感染対策を行って有観客での大会実施が実現した。

最後になりましたが、本大会を開催するにあたり、富山県、富山市の自治体や地域の皆様、UNIVAS 関係者の皆様、公益財団法人日本ソフトボール協会関係者の皆様、そして、試合会場で献身的に動いていただいた一般社団法人富山県ソフトボール協会関係者の皆様、松本大学並びに金沢学院大学女子ソフトボール部員の各位には本当にお世話になりました。皆様のお力添えにより無事大会を終了することができましたこと、改めて心より御礼申し上げます。

【個人賞】

- ・最優秀選手賞 谷口 将隆 (環太平洋大学)
- ・優秀選手賞 景山 蓮 (環太平洋大学)
- ・優秀打撃賞 水川 翔太郎 (京都産業大学)
- ・敢闘賞 内谷 陽輝 (京都産業大学)



大会概要 (J S F 456 号から転載)

大会記録長 本部 亨

本大会は今年も富山県富山市の岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場を会場に開催され、全国9ブロックの代表チームが「大学日本一」の座をかけ、3日間にわたる熱戦を展開した。

未だ新型コロナウイルスの影響が懸念される中ではあるものの、(一社)全日本大学連盟、(一社)大学スポーツ協会 (UNIVAS)、富山県協会、地元自治体、地元関係各位のご支援・ご協力により、無事全日程を終了することができた。

天候にも恵まれ、「さすが、男子ソフトボール!」と感じさせるスピーディーかつ迫力満点の熱戦・激闘を勝ち上がり、ベスト4に名乗りを上げたのは早稲田大(東京)、環太平洋大(岡山)、岐阜聖徳学園大(岐阜)、京都産業大学(京都)の4チーム。それぞれが最終日、大学男子の「頂点」をかけた最終決戦に挑んだ。

<準決勝>

早稲田大学 0 0 0 0 0 : 0

環太平洋大学 0 1 0 5 2x : 8 ※大会規定により5回得点差コールド

環太平洋大学は2回裏、3連続四死球等で満塁と攻め立て、一死後、9番・木之本がレフト前タイムリー。三塁走者を迎え入れ、1点を先制すると、1点をリードしたまま迎えた4回裏にも四球、ヒットで無死一・二塁とし、代打・植田がレフト線へ走者一掃のタイムリースリーベース。さらにワイルドピッチで一死三塁と再びチャンスを作り、3番・奥間がレフト前タイムリー。その奥間も盗塁を仕掛け、これに捕手の悪送球が絡み、三塁まで進塁。4番・谷口のライトへの犠牲フライで生還し、この回一挙5点を追加した。

環太平洋大学は続く5回裏にも一死二塁から8番・大城がトドメの左越ツーランを叩き込み、ここで大会規定により5回得点差コールドが成立。試合は予想外ともいえる「一方的な展開」となり、8-0で圧勝した環太平洋大学が6年ぶりの決勝進出を決めた。

<準決勝>

岐阜聖徳学園大学 0 0 0 0 2 0 0 : 2

京都産業大学 0 1 0 0 3 0 x : 4

京都産業大学は2回裏、一死から連続四球で一塁・二塁とすると、8番・南埜のセカンドへの当たりが相手守備の乱れを誘い、この間に二塁走者が一気に生還。1点を先制した。

5回表に自らの守備の乱れで2点を失い、京都産業大学だったが……迎えたその裏、四球、内野安打で無死一・二塁とし、一死後、3番・三澄が三遊間を破るタイムリーを放ち、同点。なお一・二塁の好機が続き、ダブルスチールで二・三塁と攻め立てると4番・清水はショートゴロに倒れたが……この間の一瞬の隙を突いて三塁走者が本塁突入。この思い切った走塁に焦った一塁手の本塁悪送球となり、二塁走者もホームインし大きな2点を追加。結局この回に挙げた得点が決勝点となって京都産業大学が4-2で勝利を収め、27年ぶりの決勝へ駒を進めた。

<決勝>

環太平洋大学 0 1 0 0 2 1 4 : 8

京都産業大学 0 0 0 1 0 0 1 : 2

環太平洋大学は2回表、二死三塁から7番・岩松の三遊間を破るタイムリーで1点を先制。4回裏に同点に追いつかれたが、その直後の5回表、四球、バントヒット、送りバントで一死二・三塁とし、代打植田の一・二塁間を破るタイムリーで勝ち越しに成功。続く4番・谷口にも三遊間突破のタイムリーが飛び出し、リードを2点に広げた。勢いに乗る環太平洋大学は6回表にもこの回先頭の7番・岩松が「会心の当たり」の左越ソロホームランを叩き込み1点を追加。7回表には相手守備の乱れと代打・福山の走者一掃のタイムリーツーベースで一挙4点を加え、勝利を決定づけた。

守っては、井上、景山の投手リレーで京都産業大学の反撃を2点に抑え6年ぶりの「歓喜」爆発！環太平洋大学が8－2で快勝し、3回目の「大学日本一」に輝いた。



文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

チーム名	日程	代表 地区	出場 回数	9月10日(土)	9月11日(日)	9月12日(月)
				1回戦	2回戦・準々決勝	準決勝・決勝
1 日本体育大学	東京	(56)	1A②	9	3	
2 関西大学	近畿	(45)		3	17B①	2
3 徳島大学	四国	(9)	2A①	0	4	
4 早稲田大学	東京	(56)		11	25B③	0
5 東北大学	北海道 東北	(6)	3A④	3	4	
6 大阪体育大学	近畿	(18)		10	18B②	1
7 中京学院大学	東海	(18)	4A③	2	9	
8 神戸学院大学	近畿	(31)		5		29A①
9 福島大学	北海道 東北	(19)	5B②	0		8
10 同志社大学	近畿	(35)		7	19A①	0
11 中京大学	東海	(51)	6B①	13	12	
12 広島経済大学	中国	(20)		1	26A③	8
13 城西大学	関東	(26)	7B④	3	0	
14 九州共立大学	九州	(8)		2	20A②	5
15 国士舘大学	関東	(56)	8B③	0	7	
16 環太平洋大学	中国	(15)		5		31A③
17 信州大学	北信越	(12)	9C③	0	2	
18 大阪産業大学	近畿	(4)		8	21D②	1
19 広島国際学院大学	中国	(3)	10C④	1	4	
20 中央大学	東京	(31)		11	27D③	2
21 岐阜聖徳学園大学	東海	(13)	11C①	7	9	
22 熊本学園大学	九州	(33)		0	22D①	8
23 愛知学院大学	東海	(13)	12C②	6	6	
24 愛媛大学	四国	(12)		2		30A②
25 国際武道大学	関東	(27)	13D③	2		2
26 立命館大学	近畿	(39)		1	23C②	9
27 東海大学	関東	(47)	14D④	0	2	
28 京都産業大学	近畿	(43)		4	28C③	4
29 東京理科大学	関東	(19)	15D①	3	0	
30 九州産業大学	九州	(17)		5	24c①	0
31 富山大学	北信越	(17)	16D②	0	1	
32 福岡大学	九州	(46)		11		

環太平洋大学

早稲田大学

岐阜聖徳学園大学

京都産業大学

個人表彰

最優秀選手賞：谷口将隆、優秀投手賞：景山蓮（環太平洋）

優秀打撃賞：水川翔太郎、敢闘賞：内谷陽輝（京都産業）

※（ ）内は出場回数で、旧校名での出場を含み、選抜大会を含まない。

※数字は試合番号、丸数字は試合順、青字をクリックすると大会速報を表示します。

※A：富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場A球場、B：同B球場、C：同C球場、D：同D球場

大会名： 文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

打撃・守備の記録（全選手の個人成績） 規定打席数 11打席以上

順位	補殺	刺殺	失策	守備率	氏名	チーム名	打席	打数	安打	得点	打点	犠牲打		四球	死球	三振	盗塁	残塁	打撃妨害	出塁	打撃率	本塁打	三塁打	二塁打	出塁率	試合数
												バント	フライ													
1	0	6	0	1.000	徳永 大輝	岐阜聖徳学園大学	14	9	5	4	5	0	0	4	1	1	4	5	0	10	0.556	1	0	1	0.714	4
2	9	7	0	1.000	藤田 隼平	岐阜聖徳学園大学	13	11	6	4	2	0	0	2	0	1	2	4	0	8	0.545	0	1	1	0.615	4
3	0	2	0	1.000	荒川 健祐	早稲田大学	13	10	5	3	3	0	0	2	1	0	3	5	0	8	0.500	1	0	0	0.615	4
3	4	2	1	0.857	齋藤 向陽	早稲田大学	12	10	5	2	4	0	0	1	1	1	0	6	0	7	0.500	1	0	0	0.583	4
3	4	3	0	1.000	高草 昂大	環太平洋大学	13	10	5	4	3	0	0	3	0	3	0	4	0	8	0.500	1	0	0	0.615	5
6	9	0	0	1.000	水川 翔太郎	京都産業大学	17	15	7	3	2	0	0	2	0	4	3	7	0	9	0.467	0	0	0	0.529	5
7	0	0	0		奥間 海人	環太平洋大学	13	12	5	2	3	0	1	0	0	2	1	3	0	5	0.417	0	1	0	0.385	5
8	1	8	2	0.818	山口 尋斗	岐阜聖徳学園大学	13	10	4	2	2	1	0	2	0	2	2	3	0	6	0.400	0	0	0	0.500	4
9	7	6	3	0.813	木之本 和也	環太平洋大学	11	8	3	3	1	0	0	3	0	2	5	5	0	6	0.375	0	0	0	0.545	5
10	2	7	0	1.000	三澄 優陽	京都産業大学	17	14	5	6	2	0	0	3	0	4	2	3	0	8	0.357	0	0	0	0.471	5
11	10	6	2	0.889	樋本 康生	京都産業大学	17	17	6	3	0	0	0	0	0	3	2	2	0	6	0.353	0	0	1	0.353	5
12	0	17	0	1.000	谷口 将隆	環太平洋大学	17	15	5	2	3	0	1	1	0	2	1	5	0	6	0.333	0	0	0	0.353	5
12	1	28	2	0.935	淀川 瑛澄	岐阜聖徳学園大学	12	9	3	4	1	0	0	3	0	1	0	0	6	0.333	0	1	1	0.500	4	
14	5	5	0	1.000	井上 裕太郎	環太平洋大学	17	16	5	2	1	1	0	0	0	8	2	3	0	5	0.313	1	0	0	0.313	5
15	5	4	0	1.000	安孫子 徹	早稲田大学	13	13	4	2	0	0	0	0	0	4	0	2	0	4	0.308	0	0	0	0.308	4
15	7	11	0	1.000	高橋 速人	京都産業大学	14	13	4	2	3	0	0	1	0	3	1	2	0	5	0.308	0	2	0	0.357	5
17	0	5	0	1.000	谷口 美国	環太平洋大学	17	10	3	4	3	2	0	5	0	1	0	2	0	8	0.300	1	1	0	0.533	5
18	0	2	0	1.000	大城 周人	環太平洋大学	14	14	4	5	4	0	0	0	0	1	0	0	4	0.286	2	0	1	0.286	5	
18	0	0	0		南埜 晃伸	京都産業大学	14	14	4	1	1	0	0	0	0	6	0	5	0	4	0.286	1	0	0	0.286	5
20	3	52	0	1.000	岩松 近良	環太平洋大学	15	11	3	3	3	0	1	3	0	1	0	1	0	6	0.273	1	0	0	0.400	5
21	3	1	1	0.800	中澤 準也	岐阜聖徳学園大学	13	12	3	2	3	0	0	1	0	0	1	2	0	4	0.250	0	1	0	0.308	4
21	1	1	0	1.000	西川 詩琉	岐阜聖徳学園大学	13	8	2	4	2	0	0	5	0	3	2	3	0	7	0.250	0	0	0	0.538	4
23	2	39	1	0.976	妹背 健信	京都産業大学	16	14	3	1	5	0	0	1	1	1	0	4	0	5	0.214	0	1	1	0.313	5
24	0	4	0	1.000	韓法輪 侑孝	環太平洋大学	19	19	4	2	0	0	0	0	0	4	0	1	0	4	0.211	0	0	1	0.211	5
25	1	25	1	0.963	尾松 大輝	早稲田大学	13	10	2	3	2	0	0	3	0	2	1	2	0	5	0.200	0	0	0	0.385	4
26	0	0	0		山本 竜之介	岐阜聖徳学園大学	13	13	2	0	1	0	0	0	0	5	0	2	0	2	0.154	0	0	0	0.154	4
27	10	29	2	0.951	清水 昂大	京都産業大学	16	15	2	1	1	0	0	1	0	6	0	1	0	3	0.133	0	0	0	0.188	5
28	0	5	0	1.000	駒谷 理央	早稲田大学	12	10	1	0	2	0	1	0	1	4	0	4	0	2	0.100	0	0	0	0.167	4
28	1	0	0	1.000	稲垣 拓朗	早稲田大学	11	10	1	1	2	0	0	0	1	5	0	0	2	0.100	1	0	0	0.182	4	
30	6	1	0	1.000	内谷 陽輝	京都産業大学	14	12	1	3	1	0	0	2	0	4	0	1	0	3	0.083	0	0	0	0.214	5

大会名： 文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

投手の記録（全選手の個人成績） 規定投球回数 11回以上

順位	氏名	チーム名	投球回数	打者	打数	被安打	失点	自責点	犠牲打		与四球	与死球	奪三振	被本塁打	暴投	不正投球	打撃妨害	投球数	防御率	勝利数	敗戦数	勝利率	試合数
									バント	フライ													
1	景山 蓮	環太平洋大学	19 2/3	69	67	8	1	1	0	0	2	0	32	1	0	0	0	285	0.36	4	0	1.000	4
2	内谷 陽輝	京都産業大学	32	125	113	22	10	4	4	0	8	0	33	1	4	0	0	455	0.88	4	1	0.800	5
3	谷口 隆正	九州産業大学	13	51	48	12	4	3	0	0	3	0	18	1	2	0	0	212	1.62	1	1	0.500	2
4	中島 翼	国際武道大学	12	52	48	11	3	3	0	0	3	1	18	0	0	0	0	216	1.75	1	1	0.500	2
5	山本 愛闘	岐阜聖徳学園大学	19	76	66	12	8	6	0	0	9	1	20	0	2	0	0	304	2.21	3	1	0.750	4
6	稲垣 拓朗	早稲田大学	21 1/3	89	79	18	12	11	0	1	8	1	25	3	6	0	0	372	3.61	3	1	0.750	4
7	上鶴 大聖	中京大学	13 2/3	59	51	12	10	10	1	0	4	3	18	3	0	0	0	232	5.12	2	1	0.667	3

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地：富山県

《大会速報》 試合番号 1

第1日	2022年09月10日	1 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場A球場
開始時間 : 10時30分	終了時間 : 12時57分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 02時間27分

チーメ名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
日本体育大学	0	0	7	0	1	0	1								9
関西大学	2	0	0	0	1	0	0								3

日本体育大学	関西大学	日本体育大学	関西大学
(投 手) 藤 原 琢磨 ○ 福地 夢 大郎 芝 平 暗 彦 本 吉 田 和 央 (捕 手) 藤 原 琢磨	(投 手) 龍馬 優太 ● 和田 杉 本 (捕 手) 山 口 葵 育	(本) 新井 優太 浪 谷 岳 岳 (二) 堀 壮馬 名 倉 寛 太 古 敷 数 宗	
バ ッ テ リ		長 打 (本塁打・二塁打・三塁打)	

戰評

日本体育大学 貫禄勝ち！

球審	山口 哲央	副審 1	金平 恭一
一塁塁審	野尻 隆史	副審 2	
二塁塁審	村上 伸夫	記録員	森 喜久男
三塁塁審	荻原 正二	放送員	牧野 理香奈

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地：富山県

《大会速報》 試合番号 3

第1日	2022年09月10日	1 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場A球場	
開始時間 : 16時29分		終了時間 : 18時02分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 01時間33分

[illegible]

東北大学 (投 手) ●藤田 敬志 (捕 手) 新妻 和大 パンテリール	大阪体育大学 (投 手) ○鈴木 大 (捕 手) 南山 弘大	東北大学 長 打 (本塁打・二塁打・三塁打)	大阪体育大学 (本)佐藤 慈恩 (二)佐藤 慈恩② 新田 一真

戦評

大阪体育大学 10本の長短打で2回戦進出

球審	野尻 隆史	副審 1	二塚 敦
一塁塁審	山口 哲央	副審 2	
二塁塁審	荻原 正二	記録員	森 喜久男
三塁塁審	村上 伸夫	放送員	牧野 理香奈

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県

《大会速報》 試合番号 2

第1日	2022年09月10日	1 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場A球場
開始時間 : 08時31分	終了時間 : 09時46分	中絶時間 : 00時間00分	試合時間 : 01時間15分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	得点差コールド
早稲田大学	1	0	3	7											11	
徳島大学	0	0	0	0											0	

早稲田大学	徳島大学	早稲田大学	徳島大学
(投 手) ○稲垣 拓朗 川崎 晴 (捕 手) 尾松 大輝	(投 手) ●玉岡 直樹 (捕 手) 熊谷壮次郎	(本)稲垣 拓朗 (二)畠山 陸	
バ ッ テ リ	長 打 （ 本 塁 打 ・ 二 塁 打 ・ 一 塁 打 ）		

戰評

早稲田大学 圧勝で2回戦進出

球審	二塚 敦	副審 1	村上 伸夫
一塁塁審	坂口 勇	副審 2	
二塁塁審	佐竹 紀雄	記録員	林 雅子
三塁塁審	篠原 和夫	放送員	武田 菜々

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県

《大会速報》 試合番号 4

第1日	2022年09月10日	1 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場A球場	
開始時間 : 13時32分	終了時間 : 16時00分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 02時間28分	

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
神戸学院大学	1	1	0	1	0	0	2								5
中京学院大学	0	0	1	0	1	0	0								2

神戶学院大学	中京学院大学	神戶学院大学	中京学院大学
(投 手) ●谷本 聖也 ○内海 慈音 (捕 手) 松上 智輝	(投 手) ●宮崎 真空 安部 竜真 宮崎 豊真 神尾 拓真 (捕 手) 三島 隆輝	長 打 (本塁打・二塁打・三塁打) (本)大川 竜志 (二)北木 竜志	(二)有吉 愼馬
バッテリー			

戦評

神戸学院大学 最終回の加点で逃げ切る。

球 審	篠原 和夫	副審 1	佐竹 紀雄
一塁塁審	二塚 敦	副審 2	
二塁塁審	坂口 勇	記録員	林 雅子
三塁塁審	金平 恭一	放送員	武田 菜々

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県														《大会速報》 試合番号 6		
第1日	2022年09月10日			1 回戦		富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場 B球場										
開始時間 : 08時30分			終了時間 :09時52分			中断時間 :00時間00分			試合時間 :01時間22分							
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
広島経済大学		0	0	0	1											1
中京大学		5	8	0	x											13

広島経済大学				中京大学				広島経済大学				中京大学			
(投 手) ●藤井 翼 (捕 手) 武田 泰聖				(投 手) ○上鶴 大聖 植村 和希 藤原 祥真 佐々木 大知 (捕 手) 産屋敷 尚哉				(二)辻田 恭吾				(本)佐々木 玄輔 安形 恭悟 (二)上鶴 大聖 押兼 悠馬 濱口 鯉来			
バッテリー								長 打 (本塁打・二塁打・三塁打)							

戦評

中京大学 序盤の猛攻で1回戦突破

球審	田辺 敬晶	副審 1	中川 外明
一塁塁審	富田 慎二	副審 2	
二塁塁審	荒木 政雄	記録員	大津 賀美雪
三塁塁審	武内 文男	放送員	石黒 千鶴

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県

《大会速報》 試合番号 7

第1日	2022年09月10日	1 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場B球場												
開始時間 : 13時19分	終了時間 :15時32分	中断時間 :00時間00分	試合時間 :02時間13分												
チーム名															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
城西大学	0	0	1	0	0	0	1	0	1						3
九州共立大学	0	0	0	0	0	2	0	0							2

城西大学				九州共立大学				城西大学				九州共立大学			
(投 手) ○加藤 雄大 大竹 雅也 藤本 明也 (捕 手) 池田 亮介				(投 手) ●田中 太理 (捕 手) 福島 特竜				(本)木太久 直樹 (二)井澤 郁也				(三)吉田 翔太 (二)田中 太理			
バッテリー								長 打 (本塁打・二塁打・三塁打)							

戦評

城西大学 タイブレークを制す。

球審	笹原 日出男	副審 1	山本 秀夫
一塁塁審	武内 文男	副審 2	
二塁塁審	富田 慎二	記録員	山本 晃代
三塁塁審	田辺 敬晶	放送員	石黒 千鶴

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県

《大会速報》 試合番号 8

第1日	2022年09月10日	1 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場B球場												
開始時間 : 10時29分		終了時間 :12時48分	中断時間 :00時間00分		試合時間 :02時間19分										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
環太平洋大学	0	0	0	0	0	0	0	0	5						5
国士館大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0

環太平洋大学				国士館大学				環太平洋大学				国士館大学			
(投 手) 井上 裕太郎 ○景山 遼 (捕 手) 岩松 近良				(投 手) ●大坪 優也 揚村 大誠 (捕 手) 井関 綾人				(本)植田 樹生 井上 裕太郎 (二)大城 周人							
バッテリー								長 打 (本塁打・二塁打・三塁打)							

戦評

環太平洋大学 延長戦を制す。

球審	笹野 雄治	副審 1	荒木 政雄
一塁塁審	中川 外明	副審 2	
二塁塁審	濱田 宏一	記録員	松本 明夫
三塁塁審	丸田 信夫	放送員	石黒 千鶴

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県														《大会速報》 試合番号 9		
第1日	2022年09月10日	1 回戦		富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場C球場												
開始時間 : 12時46分		終了時間 :14時31分		中断時間 :00時間00分		試合時間 :01時間45分										
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
大阪産業大学		1	1	2	4	0										8
信州大学		0	0	0	0	0										0

大阪産業大学				信州大学				大阪産業大学				信州大学			
(投 手) ○岩谷 友朗 工藤 大空 藤倉 忠士 (捕 手) 松本 絳裕				(投 手) ●中山 隼也 小川 大貴 (捕 手) 高橋 諒真				(本)東元 慶輔 増田 啓太 (三)新居 郁弥 (二)新居 忠士							
バッテリー								長 打 (本塁打・二塁打・三塁打)							

戦評

大阪産業大学 長打を連ねて2回戦進出

球審	利田 敏夫	副審 1	寺田 修康
一塁塁審	下越 正人	副審 2	
二塁塁審	松井 光雄	記録員	石田 稔
三塁塁審	丸山 幹男	放送員	籠井 美佳

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県

《大会速報》 試合番号 14

第1日	2022年09月10日	1 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場D球場	
開始時間 : 15時09分		終了時間 : 16時44分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 01時間35分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
東海大学	0	0	0	0	0	0	0								0
京都産業大学	2	0	2	0	0	0	x								4

北海道大学 (投 手) ● 森本 聡汰 (捕 手) 渡邊 樹生	京都産業大学 (投 手) ○ 内容 陽輝 (捕 手) 清水 昂大	東海大学 長打 (本塁打・二塁打・三塁打)	京都産業大学 (三) 妹背 健信
--	---	---	--------------------------------

戦評

京都産業大学 1 安打完封勝利

球審	田中 一昭	副審 1	臼井 芳雄
一塁塁審	岡田 清人	副審 2	
二塁塁審	山岸 秋雄	記録員	金子 恵子
三塁塁審	太田 智之	放送員	河内 詩雨子

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地：富山県

《大会速報》 試合番号 15

第1日	2022年09月10日	1 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場D球場	
開始時間 : 08時31分	終了時間 : 10時22分	中絶時間 : 00時間00分	試合時間 : 01時間51分	

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
東京理科大学	2	0	0	0	0	1	0								3
九州産業大学	0	0	5	0	0	0	x								5

バ ッ テ リ	東京理科大学 ●(投 手) 遼太郎 菅木 拓真 藍田 真 (捕 手) 尊 鷲澤 和也 三浦	九州産業大学 ○(投 手) 隆正 谷口 (捕 手) 小樋井 勇斗	東京理科大学 (本)高延 悠太	九州産業大学 (二)小樋井 勇斗
		長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)		

戦評

九州産業大学 好機を活かし逆転、2回戦へ

球審	中村 清志	副審 1	山岸 秋雄
一塁塁審	竹田 亮成	副審 2	
二塁塁審	坂田 均	記録員	林 昌美
三塁塁審	安本 典弘	放送員	井村 小百合

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地：富山県

《大会速報》 試合番号 16

第1日	2022年09月10日	1 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場D球場	
開始時間 : 10時54分	終了時間 : 11時50分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 00時間56分	

[illegible]

新山大学 (投 手) ●森 康希 中島 佑輔 (捕 手) 堂谷内 康生	福岡大学 (投 手) ○青木 琉真 (捕 手) 野上 幸希	長 打 (本塁打・二塁打・三塁打)	富山大学 (三)成崎 想 平山 純也② 宮平 大星 (二)宮平

戦評

前年度優勝の福岡大学 快勝で2回戦へ

球審	太田 智之	副審 1	坂田 均
一塁塁審	山岸 秋雄	副審 2	
二塁塁審	臼井 芳雄	記録員	金子 恵子
三塁塁審	岡田 清人	放送員	河内 詩雨子

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地：富山県

《大会速報》 試合番号 17

第2日	2022年09月11日	2回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場B球場
開始時間 : 09時01分	終了時間 : 11時20分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 02時間19分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
日本体育大学	2	0	0	0	1	0	0								3
早稲田大学	0	0	1	0	0	1	2x								4

バ ッ テ リ	日本体育大学	早稲田大学	日本体育大学	早稲田大学
	(投 手) 誠土 ● 野本 夢太郎 (捕 手) 藤原 琢磨	(投 手) ○ 稲垣 拓朗 (捕 手) 尾松 大輝	(本) 西本 奈生 (二) 古敷谷 宗	(本) 齋藤 向陽
		長 打 (本塁打・二塁打・三塁打)		

戦評

早稲田大学 サヨナラ逆転本塁打で準決勝へ！

球審	丸田 信夫	副審 1	丸山 幹男
一塁塁審	笹野 雄治	副審 2	
二塁塁審	梅田 利弘	記録員	林 雅子
三塁塁審	松井 光雄	放送員	石黒 千鶴

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県

第2日	2022年09月11日	2 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場 B 球場
開始時間 : 11時54分	終了時間 : 13時30分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 01時間36分

[illegible]

大阪体育大学	神戸学院大学	大阪体育大学	神戸学院大学
(投 手) ●鈴木 大 (捕 手) 南山 弘大	(投 手) 谷本 聖也 ○東野 洋平 谷本 聖也 (捕 手) モサツファコママミ紗武 松上 智輝	長 打 (本塁打・二塁打・三塁打・四塁打)	(三)新田 一真 (本)津野 稜也 濱村 一嵐 (二)大川 竜志 モサツファコママミ紗武
バッテリー			

戦評

神戸学院大学 で準々決勝へ圧勝

球 審	坂口 勇	副審 1	梅田 利弘
一塁塁審	下越 正人	副審 2	
二塁塁審	森 克己	記録員	安達 和輝
三塁塁審	吉崎 廣司	放送員	石黒 千鶴

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

《大会速報》 試合番号 20

第2日	2022年09月11日	2 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場A球場	
開始時間 : 11時16分	終了時間 : 13時04分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 01時間48分	

[illegible]

ペデリー	城西大学 (投 手) ●加藤 雄大 山内 惟久夏 (捕 手) 池田 亮介	慶応大学 (投 手) ○濱崎 哲人 安藝 大地 (捕 手) 岩松 近良	城西大学 長 打 (本塁打・二塁打・三塁打)	慶応大学 (本)高草 昂大 (三)奥間 海人

戦評

環太平洋大学 2安打完封で準決勝へ

球審	富田 慎二	副審 1	岡田 清人
一塁塁審	中川 外明	副審 2	
二塁塁審	寺田 修康	記録員	
三塁塁審	荒木 政雄	放送員	武田 菜々

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

《大会速報》 試合番号 19

第2日	2022年09月11日	2 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場 A 球場	
開始時間 : 09時00分		終了時間 : 10時39分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 01時間39分

[illegible]

バ ッ テ リ	同志社大学	中京大学	同志社大学	中京大学
	(投 手) ● 鷗田 直己 (捕 手) 高橋 大地	(投 手) ○ 上鶴 大聖 (捕 手) 産屋敷 尚哉	(本) 高橋 堯大 (二) 高橋 大地 長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)	(本) 舟橋 倫生 濱田 広生 (三) 越智 大祥 (二) 出嶋 聖治

戦評

中央大学 猛打爆発で圧勝

球審	利田 敏夫	副審 1	荒木 政雄
一塁塁審	池田 計幸	副審 2	
二塁塁審	岡田 清人	記録員	金子 恵子
三塁塁審	行平 憲一	放送員	牧野 理香奈

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

《大会速報》 試合番号 21

第2日	2022年09月11日	2 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場D球場	
開始時間 : 11時50分	終了時間 : 13時14分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 01時間24分	

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
大阪産業大学	0	0	0	2	0	0	0								2
中央大学	0	0	4	0	0	0	x								4

パ ン テ リ	大阪産業大学 (投 手) ● 岩谷 友朗 (捕 手) 松本 祐裕	中央大学 (投 手) ○ 橋本 新太 菊岡 哉優 (捕 手) 神谷 周吾	大阪産業大学 (二) 松本 祐裕	中央大学 (二) 深田 晋之輔
		長 打 (本塁打・三塁打・二塁打・一塁打)		

戦評

中央大学 見事な集中打で勝利

球審	安本 典弘	副審 1	篠原 和夫
一塁塁審	野尻 隆史	副審 2	
二塁塁審	臼井 芳雄	記録員	村井 慎吾
三塁塁審	金平 恭一	放送員	井村 小百合

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県

《大会速報》 試合番号 22

第2日	2022年09月11日	2 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場D球場	
開始時間 : 09時00分		終了時間 : 11時21分	中絶時間 : 00時間00分	試合時間 : 02時間21分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
愛知学院大学	3	0	0	0	0	0	3								6
岐阜聖徳学園大学	2	2	1	0	3	1	x								9

バ ッ テ リ	愛知学院大学	岐阜聖徳学園大学	愛知学院大学	岐阜聖徳学園大学
	(投 手) ●藤井 翔太郎 早川 瑞哉 梅村 陸矢 (捕 手) 太基 神谷	(投 手) ○山本 愛闊 高木 優希 (捕 手) 淀川 瑛澄	(二)小川 悠太	(三)藤田 隼平 中澤 準也

戦評

岐阜聖徳大学 逆転逃げ切りで準々決勝へ

球審	作道 國幸	副審 1	山本 秀夫
一塁塁審	山口 哲央	副審 2	
二塁塁審	篠原 和夫	記録員	石田 稔
三塁塁審	田中 一昭	放送員	井村 小百合

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地：富山県

《大会速報》 試合番号 23

第2日	2022年09月11日	2 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場C球場	
開始時間 : 11時10分		終了時間 : 13時34分	中断時間 : 00時間15分	試合時間 : 02時間09分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
京都産業大学	0	0	0	0	2	0	0								2
国際武道大学	0	0	0	0	0	0	0								0

バ ッ テ リ	京都産業大学 (投 手) ○内谷 陽輝 (捕 手) 清水 昂大	国際武道大学 (投 手) ●中島 翼 室川 幸太 (捕 手) 菅野 博和	京都産業大学 (三)高橋 速人	国際武道大学
		長 打 (本塁打・二塁打・三塁打)		

戦評

京都産業大学 少ない好機を生かし勝利する

球毒	竹田 亮成	副審 1	村上 伸夫
一塁塁審	太田 智之	副審 2	
二塁塁審	笹原 日出男	記録員	稲垣 美佐代
三塁塁審	田辺 敬晶	放送員	笠井 美佳

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地：富山県

《大会速報》 試合番号 24

第2日	2022年09月11日	2 回戦	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場C球場	
開始時間 : 09時00分	終了時間 : 10時36分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 01時間36分	

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
九州産業大学	0	0	0	0	0	0	0								0
福岡大学	0	1	0	0	0	0	x								1

九州産業大学	福岡大学	九州産業大学	福岡大学
(投 手) ●谷口 隆正 (捕 手) 小幡井 勇斗	(投 手) ○豊村 晃平 (捕 手) 野上 幸希	長 打 (本塁打・二塁打・三塁打)	(三)山川 陽樹 (二)田中 佑樹

戦評

福岡大学 虎の子の1点守り切る。

球審	花木 勲	副審 1	田辺 敬晶
一塁塁審	二塚 敦	副審 2	
二塁塁審	村上 伸夫	記録員	曾田 朋子
三塁塁審	濱田 宏一	放送員	滝井 美佳

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地：富山県

《大会速報》 試合番号 25

第2日	2022年09月11日	準々決勝	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場B球場
開始時間 : 14時01分	終了時間 : 16時18分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 02時間17分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
神戸学院大学	0	0	0	0	0	0	1								1
早稲田大学	2	0	0	0	0	0	x								2

バ ッ テ リ	神戸学院大学	早稲田大学	神戸学院大学	早稲田大学
	(投 手) ●内海 慈音 (捕 手) 松上 智輝	(投 手) ○稲垣 拓朗 (捕 手) 尾松 大輝	(本)大川 竜志	(本)荒川 健祐
	長 打 (本塁打・二塁打・三塁打)			

戦評

早稲田大学 接戦を制し準決勝進出

球審	笹野 雄治	副審 1	吉崎 廣司
一塁塁審	九田 信夫	副審 2	
二塁塁審	松井 光雄	記録員	森 喜久男
三塁塁審	梅田 利弘	放送員	石黒 千鶴

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県				《大会速報》 試合番号 26			
第2日	2022年09月11日	準々決勝	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場A球場				
開始時間 : 13時43分		終了時間 : 15時51分		中断時間 : 00時間00分		試合時間 : 02時間08分	

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計				
中京大学	0	0	0	0	0	0	0								0				
環太平洋大学	1	2	0	0	2	0	x								5				

中京大学	環太平洋大学	中京大学	環太平洋大学
(投 手) ●上嶋 大聖 (捕 手) 産屋敷 尚哉	(投 手) 井上 裕太郎 ○京山 蓮 (捕 手) 岩松 近良	長 打 (本塁打・二塁打・二塁打)	(本)大城 周人 (三)谷口 美国
バッテリー			

戦評
環太平洋大学 投打が冴え、準決勝へ！

球審	原井 清和	副審 1	寺田 修康
一塁塁審	岡田 清人	副審 2	
二塁塁審	行平 憲一	記録員	金子 恵子
三塁塁審	利田 敏夫	放送員	牧野 理香奈

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県				《大会速報》 試合番号 28			
第2日	2022年09月11日	準々決勝	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場C球場				
開始時間 : 14時05分		終了時間 : 15時52分		中断時間 : 00時間00分		試合時間 : 01時間47分	

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計				
京都産業大学	6	0	0	1	2										9	得点差コールド			
福岡大学	0	0	0	0	0										0				

京都産業大学	福岡大学	京都産業大学	福岡大学
(投 手) ○内谷 陽輝 清水 昂大 (捕 手) 清水 昂大 井元 諒	(投 手) ●青木 琉真 豊村 晃平 (捕 手) 野上 幸希	長 打 (本塁打・二塁打・二塁打)	(三)高橋 速人 (二)中井 喬平 樋本 康生
バッテリー			

戦評
京都産業大学 圧勝でベスト4へ

球審	二塚 敦	副審 1	笹原 日出男
一塁塁審	花本 勲	副審 2	
二塁塁審	濱田 宏一	記録員	曾田 朋子
三塁塁審	村上 伸夫	放送員	籠井 美佳

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県

《大会速報》 試合番号 27

第2日	2022年09月11日	準々決勝	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場D球場		
開始時間 : 01時50分		終了時間 : 15時17分	中断時間 : 00時間00分		試合時間 : 13時間27分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計				
中央大学	0	0	1	0	0										1	得点差コールド			
岐阜聖徳学園大学	1	1	2	4	x										8				

中央大学	岐阜聖徳学園大学	中央大学	岐阜聖徳学園大学
(投 手) ●菊岡 哉優 橋本 新太 (捕 手) 神谷 周吾	(投 手) ○山本 愛闘 高木 優希 (捕 手) 淀川 瑛澄	長 打 (本塁打・二塁打・二塁打)	(本)徳永 大輝 (二)淀川 瑛澄
バッテリー			

戦評
岐阜聖徳学園大学 毎回得点で初の4強入

球審	山口 哲央	副審 1	臼井 芳雄
一塁塁審	作道 國幸	副審 2	
二塁塁審	田中 一昭	記録員	石田 稔
三塁塁審	篠原 和夫	放送員	井村 小百合

文部科学大臣杯第57回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 富山県

《大会速報》 試合番号 29

第3日	2022年09月12日	準決勝	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場A球場																
開始時間 : 09時00分		終了時間 : 11時06分		中断時間 : 00時間00分		試合時間 : 02時間06分													

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計				
早稲田大学	0	0	0	0	0										0	得点差コールド			
環太平洋大学	0	1	0	5	2x										8				

早稲田大学	環太平洋大学	早稲田大学	環太平洋大学
(投 手) ●稲垣 拓朗 (捕 手) 尾松 大輝	(投 手) ○京山 蓮 (捕 手) 岩松 近良	長 打 (本塁打・二塁打・二塁打)	(本)大城 周人 (三)植田 樹生 (二)轉法輪 佑孝
バッテリー			

戦評
環太平洋大学 圧勝で決勝の舞台へ

球審	花本 勲	副審 1	笹原 日出男
一塁塁審	岡田 清人	副審 2	森 克己
二塁塁審	作道 國幸	記録員	松本 明夫
三塁塁審	中川 外明	放送員	井村 小百合

《大会速報》 試合番号 30

第3日	2022年09月12日	準決勝	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場A球場
開始時間 : 11時49分	終了時間 : 13時39分	中絶時間 : 00時間00分	試合時間 : 01時間50分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
岐阜聖徳学園大学	0	0	0	0	2	0	0								2
京都産業大学	0	1	0	0	3	0	x								4

バ ッ テ リ	岐阜聖徳学園大学 (投 手) ●山本 愛嗣 (捕 手) 淀川 瑛澄	京都産業大学 (投 手) ○内谷 陽輝 (捕 手) 清水 昂大	長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)	岐阜聖徳学園大学	京都産業大学

戦評

京都産業大学 接戦を制し27年ぶりに決勝の舞台へ

球審	九田 信夫	副審 1	金平 恭一
一塁塁審	二塚 敦	副審 2	山本 秀夫
二塁塁審	山田 昌輝	記録員	石田 稔
三塁塁審	山岸 秋雄	放送員	

会場所在地: 富山県

《大会速報》 試合番号 31

第3日	2022年09月12日	決 勝	富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場A球場
開始時間：14時30分	終了時間：16時56分	中断時間：00時間00分	試合時間：02時間26分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
環太平洋大学	0	1	0	0	2	1	4								8
京都産業大学	0	0	0	1	0	0	1								2

バ ッ テ リ	關太平洋大学	京都産業大学	關太平洋大学	京都産業大学
	(投 手) 井上 裕太郎 ○景山 遼	●(投 手) 内谷 陽輝	(本)岩松 近良 (二)福山 馨	(本)南楚 晃伸 (二)妹背 健信
	(捕 手) 岩松 近良	(捕 手) 清水 晶大		
			長 打 (本塁打・二塁打・三塁打)	

戦評

環太平洋大学 6年振り3回目の栄冠！

球審	笹野 雄治	副審 1	荻原 正二
一塁塁審	竹田 亮成	副審 2	手島 康博
二塁塁審	利田 敏夫	記録員	林 雅子
三塁塁審	原井 清和	放送員	井村 小百合

2022 インカレ優勝についての感想

環太平洋大学男子ソフトボール部

主将 谷口 将隆

今回のインカレ優勝についての感想は、本当に苦しく辛い一年でした。自分がキャプテンになり、初めのオフシーズンはまさか、日本一になるチームだとは想像もしなかったです。もちろん、チームの目標は「日本一」ですし、それに向かって行くのは初めのミーティングで明確になりましたし、それに何が足りないかと話し合っ



て、課題を出しました。しかし、このチームは僕が思うに、「日本一練習する事が苦手」なチームだと思います。例えば、オフシーズンは大会や試合がなく、日本一の目標は掲げましたが、时期的にも遠い目標ですし、先の見えない日々が続いていました。監督やコーチの方がなかなか練習に来られる事が少なく、学生主体で練習する事が、ほとんどで、どうしても、長時間になるとサボってしまったり、だらけたり、私語など練習へのモチベーションが無くなり、本当にこのチームは「日本一」を目指しているのかなと思う時もありました。でも、根底にはソフトボールが大好きなのは分かっていますし、練習が嫌いなわけない事も感じていました。それをどう、モチベーションを持って練習を取り組み、日本一に向けて、練習するかが本当のチーム目標だったんじゃないかなと思います。

まず、始めたのが、練習時間を短くして、自主練習の時間を増やしました。なぜなら、試合は1時間半から2時間ほどなので、平日は3時間ほどの練習時間なので、一つのメニューを集中して行うように、声をかけて共通意識をもって行って欲しかったからです。初めのメニューが何時に終わると伝えその時間まで、集中してやってくれと、言うとその時間は本当にみんなが協力してくれてやってくれました。そこで、思ったのが、ここぞという時の集中力はかなり、強いものがあると思いました。なので、残りの時間は自主練にして練習する人はして、しない人はやらないとメリハリをつけてする事にしました。本当に、僕もこれでいいのかなと思いながらオフシーズンは過ごしていましたが、春になり段々と大会や試合が増えてきて、選手一人一人がモチベーションを持ち、試合に向けた練習意識に段々切り替わって行くのが目に見えてきました。やっぱり、何か目の前に目標が無いと、それに向かって行く事も難しかったのかなと思い、オフシーズンでの練習は良かったのかなと振り返ります。

シーズンに入り、メンバー争いから皆んなが、競争意識を持ち各ポジション4-5人ほどいるチームなので、メンバーに入るなら各ポジション2人になります。50人近くいるチームなのでメンバー外になった人が半分いる中で、選ばれたメンバーとメンバーを外れてしまったメンバーでの、温度差がほとんどなく、サポートに回ってくれたり、試合をする上で

の環境作りなど行ってもらえたことは、僕たちも助かりましたし、感謝の思いが本当にあります。4月からシーズンが始まり、チーム始動の時に掲げた「日本一」が、段々濃い目標に変わっていき、1人1人が役割を理解して、チームみんなが、目標に向かってまとまり出した気がします。

そんな中で、1つ去年のインカレでの3回戦の中京大学に負けてしまった、悔しさがチームの中で皆んなを本気で日本一を取りたい、キーワードになったと思います。去年のチームは周りからも、日本一になれると言われ僕たちも自信を持って挑みましたが、残念な結果になり、本当に悔しい思いをしました。試合を見ていたメンバーは今度は自分が試合に出る番なので、もう同じ思いはしたく無かったですし、日本一になる事は本当に難しい事だと身に沁みて感じた試合だったので、そこが、今のチームを本気で日本一を目指して、取り組めたきっかけだったと思います。

インカレでは、初戦から国士舘大学と対戦して、延長になる苦しい試合でしたが、高草のタイムリーから一気に打線が繋がり、2回戦3回戦へと進みました。去年と同じ中京大学と3回戦で対戦し去年の悔しい思いを全員が晴らし、勝利したのが今大会で優勝した要因だと思います。今大会で本当に下級生に助けられました。大事なところでのホームランやタイムリーヒットや決勝を決めた大城のホームランなど随所で力を発揮してくれたので四年生の僕たちものびのびプレーする事ができました。

来年度の大会は連覇を目指せるのは僕たちだけなので、後輩たちには重いかもしれませんが、伸び伸びIPUらしく戦ってほしいと思います。



文部科学大臣杯第 57 回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

日時：2022 年 9 月 17 日(土)～9 月 20 日(火)

場所：愛知県安城市

(一社) 全日本大学ソフトボール連盟

女子会場担当理事 二瓶 雄樹（中京大学）

【大会概要】

本大会はこの 2 年間、新型コロナウイルスの影響で大会日程や大会そのものに大きな影響を受けてきた。コロナ禍で開催される 3 度目の大会は、無事大きな影響を受けることなく 2022 年 9 月 16 日に暑会議が行われ、17 日から無事に開催することができた。これも一重に安城市スポーツ振興課、安城市ソフトボール協会の皆様の多大なるご尽力と共に（公財）日本ソフトボール協会並びに愛知県ソフトボール協会の皆様のご協力によるものと、心から深く御礼申し上げます。

本大会の優勝候補筆頭は、昨年の第 56 回大会を制している園田学園女子大学。そして、同大会準優勝の IPU 環太平洋大学。そして東日本インカレを制している早稲田大学。西日本インカレを制している東海学園大学が続いた。大会は初日の好カード、園田学園女子大学対城西大学、早稲田大学対中京大学の戦いに注目が集まった。前者の試合では、優勝候補筆頭の園田学園女子大学が城西大学を寄せ付けず完封勝ち。後者の試合では中京大学が 3 点を一気に奪いそのまま逃げ切った。波乱が起きたのは二日目。二回戦、優勝候補の一角、園田学園女子大学がタイブレークの末に日本女子体育大学に敗退。準々決勝では、優勝候補同士の戦い IPU 環太平洋大学対東海学園大学の試合は、初回に IPU 環太平洋大学が大量点を奪い一気に試合を決めた。ベスト 4 には、東北福祉大学、IPU・環太平洋大学、金沢学院大学、中京大学が進んだ。東北福祉大学対 IPU・環太平洋大学の試合では、無得点のまま迎えた 5 回、東北福祉大学の攻撃で満塁からタイムリーが飛び出し 2 点を先制。優勝候補の IPU・環太平洋大学もチャンスを作るが得点ならず 2-0 で東北福祉大学が決勝へと駒を進めた。もう一つの準決勝、金沢学院大学対中京大学の試合は、序盤の 3 回に動いた。金沢学院大学がランナーを一人置いて、ライトオーバーのホームランが飛び出し、いきなり 3 点を先取。中京大学は 6 回にチャンスで一点を返すも、その後追いつけず。金沢学院大学が創部初の決勝へと進んだ。

決勝の東北福祉大学対金沢学院大学戦は、投手戦となり無得点のまま 7 回裏を迎えた。7 回裏金沢学院大学の攻撃、ランナーを二塁に置いて左中間に安打が放たれ、バックホームするもおよばず。金沢学院大学の初優勝が決まった。最優秀賞には、金沢学院大学の田畑七海が、優秀選手賞には準優勝の東北福祉大学の新井真奈がそれぞれ選ばれた。

本大会は台風の影響で、開催自体が危ぶまれる中開催されたが、1 日順延でことなきを得た。また強風の中行われた大会は、事故などにも見舞われず、コロナ対策を講じた中で無事成功裏に終えることができた。すべての関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

大会概要

大会記録長 川辺 まり子

第 57 回全日本大学女子ソフトボール選手権大会の開かれた愛知県安城市は、市制 70 周年を迎えた節目の年であり、コロナ感染症による中止を挟んで 4 年連続 3 回目の開催となりました。台風 14 号の近づく中での大会となり、九州を中心とした大雨の多大な影響が報道されており、大会が順調に行われるか見通せない状況でのスタートとなりました。

この大会は、コロナ感染症により様々な規制の中で学生生活を送ってきた最終学年の選手にとって、大会が中止になって卒業していった先輩たちの姿も見てきたことでしょう。声を出しての応援を規制されチーム一丸となって大会に臨めなかったこともあったでしょう。今年は規制のある中ではありましたが、会場に応援する学生たちの大きな声が響き渡り、活気の戻ったような大会と感じました。選手だけではなく、大会に関わる学生たちによる会場の一角に各チームを紹介するチーム写真や応援メッセージなど、工夫を凝らして大会を盛り上げようとする温かい心遣いも感じました。

初日の 1 回戦は、雨に悩まされる時間帯もあり、最終試合は点灯試合になりましたが、どの試合も 1 点を争う好ゲームが多く、関西大学対東北福祉大学と淑徳大学対太成学院大学は延長 8 回を戦い抜きました。

第 2 日目は、前日夜から降った雨で試合開始が遅れるなどしましたが、多くの大会関係者により試合を進めることが出来ました。途中雨風が強くなり中断もありましたが、2 回戦と準々決勝を予定通り終えることが出来ました。2 回戦では、連覇を狙う園田学園女子大学が日本女子体育大学に 1 - 2 で敗れる波乱もあり、また、IPU 環太平洋大学が延長 9 回の末東京女子体育大学を辛くも下し準々決勝に進みました。3 年ぶりに頂点を目指す日本体育大学は序盤に試合を決め、中京学院大学を下しました。

準々決勝の頃には雨はやみましたが、台風の影響で強い風が吹く中で行われました。金沢学院大学は二人の投手で日本女子体育大学を完封で下し、中京大学は初回の 1 点を継投で守り抜き日本体育大学を下しました。東北福祉大学は日本文理大学と 0 - 0 で迎えた延長 8 回にサヨナラ勝利を収め、IPU 環太平洋大学は東海学園大学に初回 5 点を挙げて快勝し、ベスト 4 がそろいました。なお、このベスト 4 にはこれまで大学女子ソフトボール界を牽引してきた東京・近畿・関東各地区の古豪・強豪と言われるチームが 1 チームもありませんでした。過去にはなかったことです。新しい時代の始まりかもしれません。

大会 3 日目は台風の影響で順延となり、迎えた第 4 日目は、台風一過で天気も回復しました。しかしグラウンドは水が浮いた状態で試合開始を 2 時間遅らせて開始されました。

準決勝、金沢学院大学対中京大学の試合は、金沢学院大学が 3 回表 1 番遠藤の四球と 2 番本村の左前安打で出塁すると、このチャンスに 3 番河原が期待に応え右越本塁打で 3 点

を挙げて試合を決めました。中京大学は6回裏に代打中川と1番繁田の連打で1点を返すにとどまりました。一方の東北福祉大学対 IPU 環太平洋大学の試合では、東北福祉大学が再三得点圏に走者を進めていましたが、なかなかタイムリーが出ずに硬直した試合展開が続きました。しかし東北福祉大学、5回表二



死から1番和田の四球と2番鈴木の安打を足掛かりに4番関谷の中前2得点打につながり、均衡を破り決勝進出を決めました。IPU 環太平洋大学も7回裏に4番田村の二塁打で反撃を狙いましたが、後続を断たれ敗退しました。

決勝は、初優勝を狙う金沢学院大学と13年ぶりの優勝を狙う東北福祉大学との戦いとなりました。金沢学院大学は、2回から毎回安打を放ち走者を出し、足を絡めた攻撃を試みるも東北福祉大学新井投手の好守備もあり、あと1本が出ず息詰まる展開が続きました。誰もが延長を覚悟したであろう最終回に無死から6番長谷部が内野安打で出塁すると、7番中尾が初球で送りバントを決めました。次打者の8番江藤に監督から檄が飛びすべてが託されました。1-1から放った打球はレフト前に、二塁走者の長谷部も好スタートを切り一気に本塁へ。劇的なサヨナラ優勝に歓喜の輪が出来ました。強い気持ちで優勝を目指してきた選手の顔には笑顔が輝いていました。

今大会での金沢学院大学は、中邨・山下・田畑・福田の4投手が5試合合計1失点という安定した投手陣で優勝に貢献したと感じました。

準優勝に終わった東北福祉大学は、金沢学院大学の中邨投手から4番関谷が放った1安打に抑えられて惜敗しました。この思いは後輩に引き継がれて、次年度以降に実を結ぶことを心から期待します。



最後に、今大会が天候に不安を抱えて行われましたが、多くの大会関係者、学生たち、安城市のご協力で無事全日程を終えられたことに心から感謝し、コロナ感染症対策に万全の態勢で大会を支えてくださった方々にお礼申し上げます。これからも、見ている人に感動と元気を与えられる大会でありますよう、お祈りいたします。

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場：愛知県安城市総合運動公園デンソーブライトペガサススタジアム・野球場

チーム名	日程	代表 地区	出場 回数	9月17日(土)	9月18日(日)	9月20日(火)
				1回戦	2回戦・準々決勝	準決勝・決勝
1 園田学園女子大学	近畿	(44)	1 A②	2	1	
2 城西大学	関東	(19)		0	17D①	0
3 武庫川女子大学	近畿	(45)	2 A①	2	2	
4 日本女子体育大学	東京	(51)		0	25C③	3
5 大阪国際大学	近畿	(22)	3 A④	1	0	
6 山梨学院大学	関東	(13)		0	18C①	3
7 同志社大学	近畿	(3)	4 A③	2	4	
8 金沢学院大学	北信越	(10)		3		29B①
9 中京大学	東海	(46)	5 B②	0	1	
10 早稲田大学	東京	(18)		0	19B①	1
11 福岡大学	九州	(22)	6 B①	2	0	
12 筑波大学	関東	(5)		0	26A③	1
13 中京学院大学	東海	(5)	7 B④	3	2	中京大学
14 岐阜協立大学	東海	(4)		2	20A①	0
15 日本福祉大学	東海	(7)	8 B③	0	8	
16 日本体育大学	東京	(56)		5		31A②
17 東北福祉大学	北海道 東北	(19)	9 C②	1	4	
18 関西大学	近畿	(6)		0	21D②	1
19 富士大学	北海道 東北	(17)	10 C①	2	1	
20 大阪体育大学	近畿	(19)		3	27D③	2
21 国士舘大学	東京	(26)	11 C④	0	0	
22 中国学園大学	九州	(8)		7	22C②	0
23 松本大学	北信越	(16)	12 C③	2	5	
24 日本文理大学	九州	(11)		6		30A①
25 東京国際大学	関東	(10)	13 D②	0	3	
26 東海学園大学	東海	(20)		7	23B②	0
27 淑徳大学	関東	(27)	14 D①	3	1	
28 太成学院大学	近畿	(5)		2	28B③	0
29 東京女子体育大学	東京	(56)	15 D④	3	0	環太平洋大学
30 美作大学	中国	(8)		0	24A②	6
31 東京富士大学	東京	(10)	16 D③	0	1	
32 IPU環太平洋大学	中国	(15)		1		

最優秀選手賞：田畑七海（金沢学院大学） 優秀選手賞：新井真奈（東北福祉大学）

※（ ）内は出場回数で、旧校名での出場を含み、選抜大会を含まない。

※数字は試合番号、丸数字は試合順、青字をクリックすると大会速報を表示します。

大会名： 文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

打撃・守備の記録（全選手の個人成績） 規定打席数 12打席以上

順位	補殺	刺殺	失策	守備率	氏名	チーム名	打席	打数	安打	得点	打点	犠牲打		四球	死球	三振	盗塁	残塁	打撃妨害	出塁	打撃率	本塁打	三塁打	二塁打	出塁率	試合数
												バント	フライ													
1	9	8	0	1.000	繁田 幸奈	中京大学	12	11	6	1	0	1	0	0	0	0	1	3	0	6	0.545	0	0	1	0.545	4
2	0	5	0	1.000	原田 実優	日本文理大学	12	12	6	2	0	0	0	0	0	1	3	4	0	6	0.500	0	1	0	0.500	3
3	9	6	1	0.938	遠藤 滯	金沢学院大学	17	14	5	3	0	0	0	3	0	0	3	6	0	8	0.357	0	0	1	0.471	5
4	3	44	0	1.000	宮本 愛里	金沢学院大学	15	12	4	1	4	0	0	3	0	1	1	5	0	7	0.333	1	0	0	0.467	5
4	11	15	0	1.000	山本 藍菜	東北福祉大学	15	12	4	0	1	0	0	3	0	2	0	7	0	7	0.333	0	0	0	0.467	5
4	5	5	0	1.000	関谷 里菜	東北福祉大学	16	15	5	1	2	0	0	0	1	1	0	4	0	6	0.333	0	0	0	0.375	5
4	8	8	0	1.000	井田 芽衣	IPU・環太平洋大学	14	12	4	1	0	0	0	2	0	1	0	2	0	6	0.333	0	0	0	0.429	4
8	0	9	0	1.000	鈴木 真衣	東北福祉大学	17	13	4	1	1	1	0	2	1	4	1	6	0	7	0.308	0	0	0	0.438	5
9	0	3	0	1.000	本村 夏穂	金沢学院大学	17	17	5	3	2	0	0	0	0	0	2	2	0	5	0.294	0	1	0	0.294	5
10	7	9	0	1.000	渡邊 実緒	東北福祉大学	15	11	3	3	1	2	0	1	1	0	2	3	0	5	0.273	0	0	1	0.385	5
10	0	7	0	1.000	伊礼 真歩	日本文理大学	12	11	3	2	0	1	0	0	0	0	2	1	0	3	0.273	0	0	0	0.273	3
10	0	3	0	1.000	田村 虹月	IPU・環太平洋大学	14	11	3	1	2	1	0	2	0	1	0	2	0	5	0.273	0	0	1	0.385	4
13	3	9	1	0.923	渡辺 己湖	IPU・環太平洋大学	12	8	2	1	1	1	0	2	1	1	1	4	0	5	0.250	0	0	0	0.455	4
13	0	4	0	1.000	齋藤明日加	IPU・環太平洋大学	14	12	3	0	0	0	0	2	0	1	1	5	0	5	0.250	0	0	0	0.357	4
15	7	5	0	1.000	川原 千賢	金沢学院大学	16	14	3	1	4	0	1	1	0	3	0	2	0	4	0.214	1	0	1	0.250	5
16	0	3	0	1.000	長谷部光瑠	金沢学院大学	13	11	2	1	0	0	0	1	1	1	0	3	0	4	0.182	0	0	0	0.308	5
16	2	23	0	1.000	片岡 僚子	中京大学	12	11	2	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	3	0.182	0	0	0	0.250	4
16	0	6	0	1.000	児嶋 瞳	IPU・環太平洋大学	13	11	2	1	1	1	0	0	1	2	0	3	0	3	0.182	0	0	0	0.250	4
19	0	3	0	1.000	中尾 友香	金沢学院大学	14	12	2	1	1	1	0	1	0	1	1	2	0	3	0.167	0	1	0	0.231	5
19	0	5	0	1.000	杉原 あみ	東北福祉大学	13	12	2	1	1	0	0	1	0	5	0	1	0	3	0.167	0	0	1	0.231	5
21	0	0	0		和田梨理花	東北福祉大学	18	14	2	2	1	1	1	2	0	0	2	1	0	4	0.143	0	0	0	0.235	5
22	2	3	0	1.000	竹田 愛佳	中京大学	12	8	1	0	0	1	0	2	1	0	0	1	0	4	0.125	0	0	0	0.364	4
23	4	20	0	1.000	大平 麗	東北福祉大学	15	11	1	0	0	3	0	0	1	3	0	1	0	2	0.091	0	0	1	0.167	5
23	5	26	0	1.000	女鹿田千紘	IPU・環太平洋大学	14	11	1	2	0	1	0	2	0	3	0	0	0	3	0.091	0	0	0	0.231	4
25	1	8	0	1.000	門脇 杏実	東北福祉大学	15	12	1	0	0	1	0	2	0	4	1	3	0	3	0.083	0	0	0	0.214	5
26	4	37	0	1.000	上原 千風	東北福祉大学	17	16	0	0	0	0	0	0	1	3	0	3	0	1	0.000	0	0	0	0.059	5

大会名： 文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

投手の記録（全選手の個人成績） 規定投球回数 11回以上

順位	氏名	チーム名	投球回数	打者	打数	被安打	失点	自責点	被犠牲打		与四球	与死球	奪三振	被本塁打	暴投	不正投球	打撃妨害	投球数	防御率	勝利数	敗戦数	勝利率	試合数
									バント	フライ													
1	山下 千世	金沢学院大学	13 1/3	46	44	6	1	0	1	0	1	0	13	0	1	0	0	182	0.00	3	0	1.000	3
1	坪野 三咲	中京大学	14 1/3	49	48	7	0	0	0	0	1	0	12	0	1	0	0	204	0.00	2	0	1.000	4
1	永井 柚衣	東京女子体育大学	15 2/3	61	47	4	1	0	4	0	9	1	19	0	1	0	0	234	0.00	1	1	0.500	2
4	新井 真奈	東北福祉大学	29 1/3	107	99	23	1	1	6	0	2	0	12	0	0	0	0	334	0.24	3	1	0.750	4
5	遠藤 杏樺	IPU・環太平洋大学	25 1/3	89	83	13	2	2	4	0	1	1	22	0	0	0	0	327	0.55	2	1	0.667	4
6	渡部 翠里	日本体育大学	12 1/3	47	41	7	1	1	1	1	3	1	3	0	0	0	0	177	0.57	1	1	0.500	2
7	磯山明日香	日本女子体育大学	21	84	74	14	4	2	2	1	4	3	5	0	1	0	0	272	0.67	2	1	0.667	3
8	湯田 結那	淑徳大学	14	58	48	7	5	2	1	0	7	2	13	0	1	0	0	259	1.00	1	1	0.500	2
9	吉岡 美鈴	大阪体育大学	14	53	47	11	6	6	3	0	2	1	3	0	0	0	0	186	3.00	1	1	0.500	2
10	小川美沙希	中京学院大学	12 1/3	59	52	17	10	7	2	0	5	0	7	0	1	0	0	205	3.97	1	1	0.500	2

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市					《大会速報》 試合番号 1				
第1日	2022年09月17日		1 回戦	デンソーブライトベガススタジアムA球場					
開始時間 : 11時02分		終了時間 : 12時24分		中断時間 : 00時間00分		試合時間 : 01時間22分			

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計				
城西大学	0	0	0	0	0	0	0								0				
園田学園女子大学	1	0	1	0	0	0	x								2				

城西大学			園田学園女子大学			城西大学			園田学園女子大学		
バッテリー	(投 手)	音森 高橋	(投 手)	○飯島 綾香	長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)			(三)門 里唄②			
	● 音森 高橋	(捕 手)	長江 乃愛								
	(捕 手)	遠 佐々木									

戦評

園田学園女子大学が3安打完封で勝利し2回戦へ進出。

球審	椎原 親志	副審 1	西尾 守夫
一塁塁審	加藤 文隆	副審 2	
二塁塁審	服部 洋子	記録員	小神 裕一
三塁塁審	稲垣 和男	放送員	清水 星

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市										《大会速報》 試合番号 2									
第1日	2022年09月17日				1 回戦	デンソーブライトベガススタジアムA球場													
開始時間 : 08時57分					終了時間 : 10時28分					中断時間 : 00時間00分					試合時間 : 01時間31分				

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計				
日本女子体育大学	0	0	0	0	2	0	0								2				
武庫川女子大学	0	0	0	0	0	0	0								0				

日本女子体育大学		武庫川女子大学		日本女子体育大学		武庫川女子大学	
バッテリー	(投 手) ○磯山明日香 (捕 手) 中村 奏	(投 手) ●巻今内 幡中 田 希美 歩 (捕 手) 澤 優菜	長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)				

戦評

日本女子体育大学が完封勝利で2回戦へ。

球審	中村 学	副審 1	稲垣 和男
一塁塁審	二宮 辰雄	副審 2	
二塁塁審	西尾 守夫	記録員	神谷 利男
三塁塁審	岡田 雅和	放送員	清水 星

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地:愛知県安城市					《大会速報》 試合番号 3				
第1日	2022年09月17日		1 回戦	デンソーブライトベガススタジアムA球場					
開始時間 : 15時15分		終了時間 : 16時46分		中断時間 : 00時間00分		試合時間 : 01時間31分			

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計				
大阪国際大学	0	0	0	0	0	0	0								0				
山梨学院大学	0	0	1	0	0	0	x								1				

大阪国際大学		山梨学院大学		大阪国際大学		山梨学院大学	
バッテリー	(投 手) ●曲谷七海帆 園藤 枝織	(投 手) ○手塚 心彩	長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)			(二)松原 緑	
	(捕 手) 丹羽愛里咲	(捕 手) 楢梨 琳花					

戦評

山梨学院大学が3回チャンスを生かし得点。走者を出しながらも堅い守りで零封し勝利した。

球審	加藤 文隆	副審 1	岡田 雅和
一塁塁審	椎原 親志	副審 2	
二塁塁審	服部 洋子	記録員	日野 倫子
三塁塁審	稲垣 和男	放送員	寺西 真梨

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市										《大会速報》 試合番号 4									
第1日	2022年09月17日				1 回戦	デンソーブライトベガススタジアムA球場													
開始時間 : 13時01分				終了時間 : 14時41分				中断時間 : 00時間00分				試合時間 : 01時間40分							

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計				
金沢学院大学	0	0	0	1	0	0	1								2				
同志社大学	0	0	0	0	0	0	0								0				

金沢学院大学				同志社大学				金沢学院大学				同志社大学			
バッテリー	(投 手) ○福田 莉花 中郷 花菜 田畑 七海			(投 手) ●和田 凜 (捕 手) 山口 未葵			長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)	(三)木村 夏徳 (二)遠藤 滯							
	(捕 手) 江藤 楓果														

戦評

金沢学院大学が3投手を継投し完封勝利で2回戦に進む。

球審	二宮 辰雄	副審 1	服部 洋子
一塁塁審	中村 学	副審 2	
二塁塁審	西尾 守夫	記録員	門原 武志
三塁塁審	岡田 雅和	放送員	寺西 真梨

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地:愛知県安城市

《大会速報》 試合番号 5

第1日	2022年09月17日	1 回戦	デンソーブライトペガサススタジアムB球場															
開始時間 : 11時11分		終了時間 : 13時00分	中断時間 : 00時間00分		試合時間 : 01時間49分													
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計			
早稲田大学	0	0	0	0	0	0	0	0							0			
中京大学	0	0	0	0	3	0	x								3			

早稲田大学		中京大学		早稲田大学		中京大学	
(投 手) ●新宮 怜美 (捕 手) 渡邊 佳子		(投 手) 坪野 三咲 ○成瀬 結衣 (捕 手) 市川 愛渚		(二)井田 菜摘			
バッテリー				長 打 (本塁打・二塁打・一塁打)			

戦評			
中京大学が1 安打完封で勝利し2 回戦へ進出。			
球審	山中健太郎	副審 1	清水 規高
一塁塁審	織田 清弘	副審 2	
二塁塁審	清水 哲一	記録員	杉本 有希
三塁塁審	松浦 俊之	放送員	糸井 万葉

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地:愛知県安城市

《大会速報》 試合番号 7

第1日	2022年09月17日	1 回戦	デンソーブライトペガサススタジアムB球場													
開始時間 : 16時05分		終了時間 : 17時55分	中断時間 : 00時間14分		試合時間 : 01時間36分											
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
中京学院大学	0	1	2	0	0	0	0	0							3	
岐阜協立大学	0	0	0	2	0	0	0	0							2	

中京学院大学		岐阜協立大学		中京学院大学		岐阜協立大学	
(投 手) ○小川美沙希 平 蒼唯 (捕 手) 渡邊 梨央		(投 手) ●山田 実空 杉山 礼華 (捕 手) 豊田未有羽		(三)熊野 葉月 (二)熊野 葉月			
バッテリー				長 打 (本塁打・三塁打・一塁打)			

戦評			
中京学院大学が6 回からナイターとなった試合を1 点差で逃げ切り勝利。			
球審	織田 清弘	副審 1	杉浦 照日
一塁塁審	山中健太郎	副審 2	
二塁塁審	清水 哲一	記録員	青山 裕泰
三塁塁審	松浦 俊之	放送員	糸井 万葉

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地:愛知県安城市														《大会速報》 試合番号 6													
第1日	2022年09月17日				1 回戦		デンソーブライトペガサススタジアムB球場																				
開始時間 : 08時58分				終了時間 : 10時42分				中断時間 : 00時間00分				試合時間 : 01時間44分															
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計											
筑波大学		0	0	0	0	0	0	0	0							0											
福岡大学		0	1	0	0	1	0	x								2											

筑波大学		福岡大学		筑波大学		福岡大学	
(投 手) ●星野 希子 (捕 手) 安楽 彩乃		(投 手) 小城 遥香 ○行武 唯華 (捕 手) 鬼海 彩花		(二)鬼海 彩花			
バッテリー				長 打 (本塁打・二塁打・一塁打)			

戦評			
福岡大学が4 安打完封で勝利し2 回戦へ進出。			
球審	小川 高充	副審 1	松浦 俊之
一塁塁審	中川 孝義	副審 2	
二塁塁審	杉浦 照日	記録員	松下るみ子
三塁塁審	清水 規高	放送員	長田ひまり

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地:愛知県安城市

《大会速報》 試合番号 8

第1日	2022年09月17日	1 回戦	デンソーブライトペガサススタジアムB球場													
開始時間 : 13時32分		終了時間 : 15時38分		中断時間 : 00時間00分		試合時間 : 02時間06分										
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
日本体育大学	0	1	1	0	1	0	2								5	
日本福祉大学	0	0	0	0	0	0	0								0	

日本体育大学		日本福祉大学		日本体育大学		日本福祉大学	
(投 手) ○渡部 翠里 松苗 和奏 下村 彩葉 (捕 手) 小泉向日葵		(投 手) ●山本 萌乃 松下 華菜 伊藤 瑞利 (捕 手) 舞		(本)伊波 蘭 (二)伊波 蘭 尾崎 祐香 白石 千晴 笠原 朱里			
バッテリー				長 打 (本塁打・三塁打・一塁打)			

戦評			
日本体育大学が攻撃は着実に加点し、守っては3 投手を継投し完封勝利する。			
球審	中川 孝義	副審 1	清水 哲一
一塁塁審	小川 高充	副審 2	
二塁塁審	杉浦 照日	記録員	村瀬 秀二
三塁塁審	清水 規高	放送員	長田ひまり

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市					《大会速報》 試合番号 9				
第1日	2022年09月17日		1 回戦	安城市総合運動公園野球場A球場					
開始時間 : 11時07分		終了時間 : 12時54分		中断時間 : 00時間00分		試合時間 : 01時間47分			

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計				
関西大学	0	0	0	0	0	0	0	0							0				
東北福祉大学	0	0	0	0	0	0	0	1x							1				

関西大学					東北福祉大学					関西大学					東北福祉大学				
(投 手) 東本 結月 ●新屋 ひなた ●岩崎 紗菜 (捕 手) 藤森彩央華					(投 手) ○新井 真奈 (捕 手) 大平 麗					(二)新屋 ひなた									
バッテリー										長 打 (本塁打・二塁打・一塁打)									

戦評

東北福祉大学がタイブレークとなる接戦を制し勝利し2回戦に進出する。

球審	杉浦 真一	副審1	鈴木 豪
一塁塁審	西尾 尚樹	副審2	
二塁塁審	光行 実	記録員	三輪 隆広
三塁塁審	北島ひろみ	放送員	青木 夏葉

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市										《大会速報》 試合番号 10									
第1日		2022年09月17日				1 回戦		安城市総合運動公園野球場A球場											
開始時間 : 09時00分				終了時間 : 10時29分				中断時間 : 00時間00分				試合時間 : 01時間29分							

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計				
大阪体育大学	0	0	0	0	3	0	0								3				
富士大学	1	0	1	0	0	0	0								2				

大阪体育大学					富士大学					大阪体育大学					富士大学				
(投 手) ○吉岡 美鈴 (捕 手) 井上 恵					(投 手) ●井上あやめ (捕 手) 木村 友奈														
バッテリー										長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)									

戦評

大阪体育大学が5回に4安打を集中し逆転で2回戦へ進出。

球審	安藤 元伸	副審1	光行 実
一塁塁審	峯田 起見	副審2	
二塁塁審	鈴木 豪	記録員	松井 邦男
三塁塁審	小島 光子	放送員	木澤 愛梨

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市										《大会速報》 試合番号 11									
第1日	2022年09月17日				1 回戦	安城市総合運動公園野球場A球場													
開始時間 : 15時40分		終了時間 : 17時03分				中断時間 : 00時間00分				試合時間 : 01時間23分									

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計				
国士館大学	0	0	0	0	0	0									0	一死得点差コントロール			
中国学園大学	1	0	0	0	0	6x									7				

国士館大学					中国学園大学					国士館大学					中国学園大学				
(投 手) ●穴久保美緒 二之宮優佳 (捕 手) 岩田 有未					(投 手) ○山口 愛実 (捕 手) 山田 菜美										(三)福輪 彩花②				
バッテリー										長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)									

戦評

中国学園大学が先制し6回集中打で圧勝。山口投手が6回参考ではあるが無安打無得点に抑える好投で勝利に貢献。

球審	西尾 尚樹	副審1	小島 光子
一塁塁審	杉浦 真一	副審2	
二塁塁審	光行 実	記録員	矢作 覺
三塁塁審	北島ひろみ	放送員	青木 夏葉

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市										《大会速報》 試合番号 12									
第1日	2022年09月17日				1 回戦	安城市総合運動公園野球場 A 球場													
開始時間 : 13時25分		終了時間 : 15時09分				中断時間 : 00時間00分				試合時間 : 01時間44分									

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計				
日本文理大学	0	0	0	3	1	1	1								6				
松本大学	0	0	0	0	0	2	0								2				

日本文理大学					松本大学					日本文理大学					松本大学				
(投 手) ○林 寿希愛 門田 愛生 木山 陽菜 (捕 手) 泉野 美音 柏木 みく					(投 手) ●吉池 麻尋 雨宮 亜由 水野 愛海 和田 楓花 吉池 麻尋 (捕 手) 浅野 莉胡					(三)原田 実優									
バッテリー										長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)									

戦評

日本文理大学が4回以降着実に加点し勝利した。

球審	峯田 起見	副審1	北島ひろみ
一塁塁審	安藤 元伸	副審2	
二塁塁審	鈴木 豪	記録員	浜島 美香
三塁塁審	小島 光子	放送員	木澤 愛梨

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 13	
第1日	2022年09月17日	1 回戦	安城市総合運動公園野球場 B 球場		
開始時間 : 11時40分		終了時間 : 12時48分		中断時間 : 00時間00分 試合時間 : 01時間08分	

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	得点差コールド
東海学園大学	2	0	0	1	4										7	
東京国際大学	0	0	0	0	0										0	

東海学園大学	東京国際大学	東海学園大学	東京国際大学
(投 手) ○田中 真矢 (捕 手) 豊島 彩宇	(投 手) ●戸倉 紗希 浅間 珠理 鈴木りりか (捕 手) 篠原 琴音	(本)小林 楓 (二)水戸川綾音 長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)	
バッテリー			

戦評
東海学園大学は東京国際大学の攻撃を 1 安打に抑え、打線は 5 回にランニングホームランを含む 6 安打を挙げコールド勝ち。 2 回戦進出。

球審	草本 光伯	副審 1	岡田 陽示
一塁塁審	中村 由嗣	副審 2	
二塁塁審	内藤 繁	記録員	櫻井 咲百
三塁塁審	杉原 恒雄	放送員	森 奏瑠

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 15	
第1日	2022年09月17日	1 回戦	安城市総合運動公園野球場 B 球場		
開始時間 : 15時24分		終了時間 : 17時06分		中断時間 : 00時間00分 試合時間 : 01時間42分	

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
東京女子体育大学	1	0	0	1	0	1	0								3	
美作大学	0	0	0	0	0	0	0								0	

東京女子体育大学	美作大学	東京女子体育大学	美作大学
(投 手) ○永井 柚衣 (捕 手) 福島 萌	(投 手) 村田 瑞希 ●水戸川麻優 伊藤 美玲 篠々 紫月 (捕 手) 砂川帆乃香	(二)丘 安里 長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)	
バッテリー			

戦評
東京女子体育大学が確実に加点し、 1 安打 1 2 奪三振の好投で完勝勝利。

球審	中村 由嗣	副審 1	上橋ゆかり
一塁塁審	草本 光伯	副審 2	
二塁塁審	内藤 繁	記録員	加藤 真
三塁塁審	杉原 恒雄	放送員	森 奏瑠

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地:愛知県安城市

《大会速報》 試合番号 14

第1日	2022年09月17日	1 回戦	安城市総合運動公園野球場 B 球場		
開始時間 : 08時58分		終了時間 : 11時01分		中断時間 : 00時間00分 試合時間 : 02時間03分	

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
淑徳大学	0	0	0	1	0	0	0	2							3	
太成学院大学	0	0	0	0	0	0	1	1							2	

淑徳大学	太成学院大学	淑徳大学	太成学院大学
(投 手) ○湯田 結那 (捕 手) 千葉 風子	(投 手) ●小泉 夢乃 (捕 手) 恒松 郁奈	(三)加藤 藍子 長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)	
バッテリー			

戦評
淑徳大学接戦制し二回戦へ！ 淑徳大は 4 回表、7 番・代打森のタイムリーで先制、粘る太成学院大も土壇場で追いつきタイブレークへ。迎えた 8 回表、淑徳大は 3 番・加藤の走者一掃の三塁打で 2 点を勝ち越し逃げ切った。

球審	北村 政彦	副審 1	内藤 繁
一塁塁審	連水 泰広	副審 2	
二塁塁審	上橋ゆかり	記録員	近藤 正夫
三塁塁審	岡田 陽示	放送員	近藤真由美

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地:愛知県安城市

《大会速報》 試合番号 16

第1日	2022年09月17日	1 回戦	安城市総合運動公園野球場 B 球場		
開始時間 : 13時23分	終了時間 : 14時49分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 01時間26分		

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
東京富士大学	0	0	0	0	0	0	0								0	
IPU・環太平洋大学	0	0	0	1	0	0	x								1	

東京富士大学	IPU・環太平洋大学	東京富士大学	IPU・環太平洋大学
(投 手) ●小井沼美月 上原 理珠 (捕 手) 野村 映実	(投 手) ○遠藤 杏樺 (捕 手) 女鹿田千紘	長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)	
バッテリー			

戦評
I P U ・環太平洋大学が 4 回に挙げた 1 点を堅い守備で守り切り 2 回戦進出。

球審	連水 泰広	副審 1	杉原 恒雄
一塁塁審	北村 政彦	副審 2	
二塁塁審	上橋ゆかり	記録員	高須 久美
三塁塁審	岡田 陽示	放送員	近藤真由美

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 17	
第2日	2022年09月18日	2 回戦	安城市総合運動公園野球場B 球場		
開始時間 : 08時56分		終了時間 : 11時07分	中断時間 : 00時間07分		試合時間 : 02時間04分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
日本女子体育大学	0	0	0	0	0	0	0	2							2	
園田学園女子大学	0	0	0	0	0	0	0	1							1	

日本女子体育大学	園田学園女子大学		日本女子体育大学	園田学園女子大学
(投 手) ○磯山明日香 (捕 手) 奏 中村	(投 手) 森本なるか ●飯島 綾香 (捕 手) 長江 乃愛	長 打 (本塁打・二塁打・三塁打)		
バッテリー				

戦評

日本女子体育大学がタイブレークを制し勝利。ベスト8進出。

球審	稲垣 和男	副審 1	中村 由嗣
一塁塁審	中村 学	副審 2	
二塁塁審	清水 哲一	記録員	鈴木 美枝
三塁塁審	小川 高亮	放送員	近藤真由美

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 18	
第2日	2022年09月18日	2 回戦	安城市総合運動公園野球場A球場		
開始時間 : 08時51分		終了時間 : 10時54分		中断時間 : 00時間20分 試合時間 : 01時間43分	

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
山梨学院大学	0	0	0	0	0	0	0								0	
金沢学院大学	0	0	3	1	0	0	x								4	

山梨学院大学	金沢学院大学		山梨学院大学	金沢学院大学
(投 手) ●手塚 心彩 (捕 手) 中東 ひかる 椋梨 琳花	(投 手) ○山下 千世 中郷 花菜 (捕 手) 江藤 楓果	長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)		(本)富本 愛里 (三)中尾 友香 (二)川原 千賢
バッテリー				

戦評

金沢学院大学が、本塁打を含む毎回の計10安打で勝利しベスト8進出。

球審	椎原 親志	副審 1	岡田 陽示
一塁塁審	杉浦 真一	副審 2	
二塁塁審	光行 実	記録員	櫻井 咲百
三塁塁審	西尾 尚樹	放送員	木澤 愛梨

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 19	
第2日	2022年09月18日	2回戦	デンソーブライトベガススタジアムB球場		
開始時間 : 08時54分		終了時間 : 10時53分	中断時間 : 00時間22分		試合時間 : 01時間37分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
福岡大学	0	0	0	0	0	0	0								0	
中京大学	0	1	0	0	0	0	x								1	

福岡大学	中京大学		福岡大学	中京大学
(投 手) 小城 遥香 ●行武 唯華 小城 遥香 (捕 手) 鬼海 彩花	(投 手) ○坪野 三咲 小泉 杏奈 (捕 手) 市川 愛渚	長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)		
バッテリー				

戦評

中京大学が2回の先制点を守り切り勝利しベスト8進出。

球審	加藤 文隆	副審 1	北村 政彦
一塁塁審	草木 光伯	副審 2	
二塁塁審	清水 規高	記録員	三輪 隆広
三塁塁審	杉原 恒雄	放送員	糸井 万葉

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 20	
第2日	2022年09月18日	2回戦	デンソーブライトベガススタジアムA球場		
開始時間 : 09時13分		終了時間 : 11時53分		中断時間 : 01時間05分	
				試合時間 : 01時間35分	

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
日本体育大学	5	3	0	0	0	0	0								8	
中京学院大学	2	0	0	0	0	0	0								2	

日本体育大学	中京学院大学		日本体育大学	中京学院大学
(投 手) 清水 慎子 鈴木 看 ○松田 和奏 (捕 手) 小泉向日葵	(投 手) ●小川美沙希 (捕 手) 渡邊 梨央 小栗茉由子	長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)		(二)小泉向日葵 舟坂 育枝
バッテリー				

戦評

日本体育大学が初回打者一巡5安打5得点し試合を優位に進め勝利。ベスト8進出。

球審	森口 貴子	副審 1	北島ひろみ
一塁塁審	神野 真理	副審 2	
二塁塁審	上橋ゆかり	記録員	松下るみ子
三塁塁審	小島 光子	放送員	長田ひまり

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地:愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 21			
第2日	2022年09月18日	2 回戦	安城市総合運動公園野球場B球場				
開始時間:11時29分		終了時間:12時50分		中断時間:00時間00分	試合時間:01時間21分		

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
東北福祉大学	0	0	0	0	3	1	0								4	
大阪体育大学	1	0	0	0	0	0	0								1	

東北福祉大学	大阪体育大学				東北福祉大学				大阪体育大学			
(投 手) ○大江 真尋 千葉菜々子 山本 彩夏 辻 ひかり (捕 手) 大平 麗	(投 手) ●吉岡 美鈴 (捕 手) 井上 恵				(二)渡邊 実緒 杉原 あみ 大平 麗							
バッテリー	長 打 (本塁打・二塁打・一塁打)											

戦評

東北福祉大学は先制点を許すも、試合終盤に長打を絡め逆転で勝利しベスト8進出。

球審	中川 孝義	副審 1	清水 哲一
一塁塁審	織田 清弘	副審 2	
二塁塁審	杉浦 照日	記録員	堀野ひとみ
三塁塁審	中村 由嗣	放送員	森 奏瑠

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地:愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 23			
第2日	2022年09月18日	2 回戦	デンソーブライトベガススタジアムB球場				
開始時間:11時15分		終了時間:13時18分		中断時間:00時間00分	試合時間:02時間03分		

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
東海学園大学	0	0	0	0	0	0	3								3	
淑徳大学	1	0	0	0	0	0	0								1	

東海学園大学	淑徳大学				東海学園大学				淑徳大学			
(投 手) 田中 真矢 ○田渕 朱理 (捕 手) 豊島 彩宇	(投 手) ●奥野 心 ○海田 結那 奥野 心 (捕 手) 千葉 風子											
バッテリー	長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)											

戦評

東海学園大学は初回先制点を許すも、最終回逆転に成功。ベスト8進出。

球審	二宮 辰雄	副審 1	杉原 恒雄
一塁塁審	連水 泰広	副審 2	
二塁塁審	西尾 守夫	記録員	青山 裕泰
三塁塁審	北村 政彦	放送員	寺西 真梨

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地:愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 22			
第2日	2022年09月18日	2 回戦	安城市総合運動公園野球場A球場				
開始時間:11時10分		終了時間:12時23分		中断時間:00時間00分	試合時間:01時間13分		

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
中国学園大学	0	0	0	0	0	0	0								0	
日本文理大学	2	0	2	0	0	1	x								5	

中国学園大学	日本文理大学				中国学園大学				日本文理大学			
(投 手) ●山口 愛実 片山 美鈴 山口 愛実 (捕 手) 山田 菜美	(投 手) ○林 寿希 狩口 彩瑛 (捕 手) 相木 みく								(二)古庄 未久			
バッテリー	長 打 (本塁打・二塁打・一塁打)											

戦評

日本文理大学が中国学園大学打線を2安打に抑える好投で完封勝利。ベスト8に進出。

球審	安藤 元伸	副審 1	西尾 尚樹
一塁塁審	山中健太郎	副審 2	
二塁塁審	岡田 雅和	記録員	服部 善仁
三塁塁審	岡田 陽示	放送員	青木 夏葉

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地:愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 24			
第2日	2022年09月18日	2 回戦	デンソーブライトベガススタジアムA球場				
開始時間:12時12分		終了時間:14時22分		中断時間:00時間00分	試合時間:02時間10分		

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
東京女子体育大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
IPU・環太平洋大学	0	0	0	0	0	0	0	0	1x						1	

東京女子体育大学	IPU・環太平洋大学				東京女子体育大学				IPU・環太平洋大学			
(投 手) ●永井 柚衣 (捕 手) 福島 萌	(投 手) ○遠藤 杏樺 (捕 手) 女鹿田千紘											
バッテリー	長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)											

戦評

I P U ・環太平洋大学が東京女子体育大学の攻撃を1安打に抑え、タイブレークの接戦を制し、ベスト8に進出。

球審	伊藤 初代	副審 1	上橋ゆかり
一塁塁審	峯田 起見	副審 2	
二塁塁審	服部 洋子	記録員	高須 久美
三塁塁審	北島ひろみ	放送員	山口 春花

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 25	
第2日	2022年09月18日	準々決勝	安城市総合運動公園野球場A球場		
開始時間 : 12時42分		終了時間 : 14時13分		中断時間 : 00時間00分 試合時間 : 01時間31分	

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
日本女子体育大学	0	0	0	0	0	0	0								0	
金沢学院大学	0	0	0	1	2	0	x								3	

日本女子体育大学	金沢学院大学		日本女子体育大学	金沢学院大学
(投 手) ●磯山明日香 (捕 手) 奏 中村	(投 手) 福田 莉花 ○田畑 七海 (捕 手) 江藤 楓果	長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)		
バッテリー				

戦評

金沢学院大学が堅い守備で零封し、試合中盤に足を絡めた攻撃で得点し勝利。準決勝に駒を進めた。

球審	杉浦 真一	副審 1	岡田 雅和
一塁塁審	椎原 親志	副審 2	
二塁塁審	光行 実	記録員	浜島 美香
三塁塁審	西尾 尚樹	放送員	木澤 愛梨

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 26	
第2日	2022年09月18日	準々決勝	デンソーブライトベガススタジアムA球場		
開始時間 : 14時40分	終了時間 : 16時41分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 02時間01分		

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
日本体育大学	0	0	0	0	0	0	0								0	
中京大学	1	0	0	0	0	0	x								1	

日本体育大学	中京大学		日本体育大学	中京大学
(投 手) ●渡部 翠里 (捕 手) 小泉向日葵	(投 手) 成瀬 結衣 ○坪野 三咲 小泉 杏奈 (捕 手) 市川 愛渚	長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)	(二)林 祐希	
バッテリー				

戦評

中京大学が、初回先制点を挙げ3投手の継投で逃げ切り勝利。準決勝進出。

球審	神野 真理	副審 1	服部 洋子
一塁塁審	森口 貴子	副審 2	
二塁塁審	上橋ゆかり	記録員	杉本 有希
三塁塁審	小島 光子	放送員	長田ひまり

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

《大会速報》 試合番号 27

会場所在地:愛知県安城市				
第2日	2022年09月18日	準々決勝	安城市総合運動公園野球場B球場	
開始時間:13時12分	終了時間:14時30分	中断時間:00時間00分	試合時間:01時間18分	

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
日本文理大学	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
東北福祉大学	0	0	0	0	0	0	0	1x							1	

日本文理大学	東北福祉大学		日本文理大学	東北福祉大学
(投 手) ●木山 陽菜 (捕 手) 栢木 みく	(投 手) ○新井 真奈 (捕 手) 大平 颯	長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)		
バッテリー				

戦評

東北福祉大学は度々のピンチを乗り越えタイブレークに持ち込み辛勝し準決勝に進出。

球審	中村 学	副審 1	杉浦 照日
一塁塁審	稲垣 和男	副審 2	
二塁塁審	清水 哲一	記録員	近藤美由紀
三塁塁審	小川 高亮	放送員	近藤真由美

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地: 愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 28	
第2日	2022年09月18日	準々決勝	デンソーブライトベガススタジアムB球場		
開始時間: 14時49分		終了時間: 16時25分	中断時間: 00時間00分		試合時間: 01時間36分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
IPU・環太平洋大学	5	1	0	0	0	0	0								6	
東海学園大学	0	0	0	0	0	0	0								0	

IPU・環太平洋大学	東海学園大学		IPU・環太平洋大学	東海学園大学
(投 手) 遠藤 杏樺 ○清水 咲良 田中 吉村 (捕 手) 女鹿田千結 田村 虹月	(投 手) ●田中 真矢 高橋 伶奈 田淵 朱理 志田 美月 (捕 手) 豊島 彩字	長 打 (本塁打・三塁打・二塁打)		
バッテリー				

戦評

IPU・環太平洋大学が初回攻撃で打者一巡の猛攻で得点すると、継投で1安打に抑え勝利。準決勝に進出。

球審	草本 光伯	副審 1	西尾 守夫
一塁塁審	加藤 文隆	副審 2	
二塁塁審	清水 規高	記録員	日野 倫子
三塁塁審	杉原 恒雄	放送員	寺西 真梨

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地:愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 29	
第4日	2022年09月20日	準決勝	デンソーブライトペガサススタジアムB球場		
開始時間:10時56分		終了時間:12時47分	中断時間:00時間07分		試合時間:01時間44分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
金沢学院大学	0	0	3	0	0	0	0								3	
中京大学	0	0	0	0	0	1	0								1	

金沢学院大学	中京大学	金沢学院大学	中京大学
(投 手) ○山下 千世 田畑 七海 (捕 手) 江藤 楓果	(投 手) ●成瀬 結衣 坪野 三咲 (捕 手) 市川 愛渚	(本)川原 千賀	(二)繁田 幸奈
バッテリー	長打 (本塁打・二塁打・一塁打)		

戦評
金沢学院大学が3回に3番川原の3点本塁打で先制し、継投で中京大学の反撃をしのぎ決勝進出。

球審	草本 光伯	副審1	加藤 文隆
一塁塁審	中川 孝義	副審2	
二塁塁審	橋村 俊範	記録員	浜島 美香
三塁塁審	北村 政彦	放送員	穴井 結夏

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地:愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 30	
第4日	2022年09月20日	準決勝	デンソーブライトペガサススタジアムA球場		
開始時間:10時59分		終了時間:12時23分	中断時間:00時間00分		試合時間:01時間24分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
東北福祉大学	0	0	0	0	2	0	0								2	
IPU・環太平洋大学	0	0	0	0	0	0	0								0	

東北福祉大学	IPU・環太平洋大学	東北福祉大学	IPU・環太平洋大学
(投 手) ○新井 真奈 (捕 手) 麗	(投 手) ●遠藤 杏穂 清水 咲良 (捕 手) 女鹿田千紜 田村 虹月	(二)田村 虹月	
バッテリー	長打 (本塁打・二塁打・一塁打)		

戦評
東北福祉大学が5回に満塁から中堅前適時打で先制した得点を守り切り決勝進出へ。

球審	神野 真理	副審1	杉浦 真一
一塁塁審	伊藤 初代	副審2	
二塁塁審	北島ひろみ	記録員	近藤美由紀
三塁塁審	森口 貴子	放送員	長田ひまり

文部科学大臣杯第57回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地:愛知県安城市				《大会速報》 試合番号 31	
第4日	2022年09月20日	決 勝	デンソーブライトペガサススタジアムA球場		
開始時間:13時34分		終了時間:14時55分	中断時間:00時間00分		試合時間:01時間21分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	
東北福祉大学	0	0	0	0	0	0	0								0	
金沢学院大学	0	0	0	0	0	0	1x								1	

東北福祉大学	金沢学院大学	東北福祉大学	金沢学院大学
(投 手) ●新井 真奈 (捕 手) 麗 大平 和 田梨理花 麗 大平 和 田梨理花 麗 大平 和 田梨理花 麗 大平 和	(投 手) 中邨 花菜 ○山下 千世 (捕 手) 江藤 楓果	(二)江藤 楓果	
バッテリー	長打 (本塁打・二塁打・一塁打)		

戦評
金沢学院大学 悲願の初優勝。 金沢学院大学は、中邨・山下両投手の継投で東北福祉大学の打線を1安打で抑え、打線は2回から毎回安打で試合を進め、7回安打と機打でチャンスを掴み8番江藤の左翼前二塁打で2塁走者が生還しサヨナラ勝ちした。

球審	安藤 元伸	副審1	森口 貴子
一塁塁審	稲垣 和男	副審2	
二塁塁審	加藤 文隆	記録員	日野 倫子
三塁塁審	杉浦 真一	放送員	長田ひまり

努力が報われた瞬間

金沢学院大学女子ソフトボール部

主将 遠藤 滯

第57回全日本大学女子選手権大会で優勝することができました。この大会（インカレ）が無事開催され、私たちが思い切って試合に臨むことができたのも、ウィルス感染拡大防止を含め、大会開催にご尽力頂いた皆様のおかげと深く感謝を申し上げます。

3年前に同大会で3位となってから、優勝候補の一つに金沢学院大学という名前を挙げて頂いたものの、あと一步というところで日本一に届かなかった2年間はとても悔しい日々でした。その悔しさをバネに、「日本一にしなければならん」をスローガンに掲げ、日本一になるに相応しいチームとは、日本一になるべくしてなるチームとはどのようなチームなのかをみんなで話し合い、見つめ直し、一人ひとりの意識改革を行いました。そして今年、その目標によりやくたどり着くことができ、多田監督を日本一の監督だと証明することが出来ました。



今振り返ると、正直なところインカレの直前は決して調子がいいと言えるチーム状態ではありませんでした。それでも練習最終日には、「大丈夫！もうやり切った！もうできることは全部やったよね」そう声を掛け合って大会に挑みました。そして大会が始まると、緊張よりもワクワクした気持ちと自信が溢れ出し、負ける気がしませんでした。それは、どのチームよりも「日本一」という言葉を口にし、しかしその言葉だけが先走ることがないように直面する課題を一つ一つ乗り越えてきたという自負があったからです。だからこそ今大会で苦しい場面に陥っても、今まで重ねてきた練習を思い起こし、切り抜けられると確信して、「いつも通りやろうよ」を合言葉に、落ち着いて笑顔でプレーすることができていました。一人一人が役割を果たし、チームのために戦い抜いた結果だと思っています。

私たちの強みは間違いなく「全員総力」です。これはどのチームより自信を持って言えます。今大会では、プレーするメンバーだけでなくベンチそしてスタンドからの応援も日本一でした。メンバーに入れなかった人たちもスタンドでできるベストパフォーマンスを目指して夜な夜な応援の練習に励み、想像をはるかに越える励ましをくれました。当日、サプライズで用意された団扇には勇気づけられるメッセージが書かれていて、「応援してくれるみんなの為に」と一層強く優勝への思いを奮い立たせました。

このような素晴らしいチームとなることができたのは、みんなが慕う監督・コーチのおかげです。どんな時も私たちのことを一番に考え、指導を実践する、その愛情がみんなに伝わることでチームが一つになれたのだと思います。優勝後のインタビューでも口にしましたが、「日本で一番監督・コーチを愛しているチーム」であると断言できます。自分自身にと

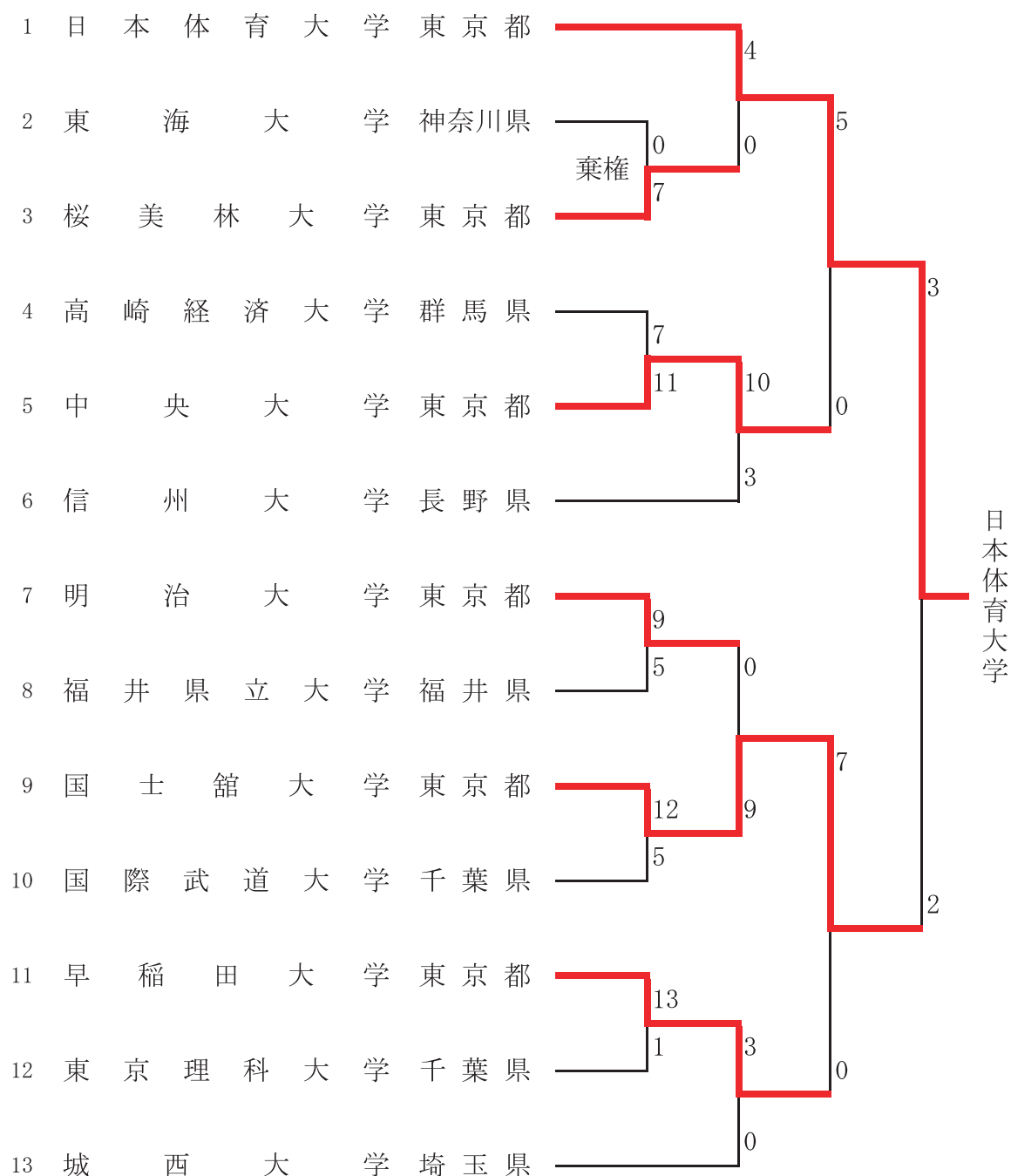
っても大学4年目にして最後のインカレで監督を胴上げすることができ、今までの努力が報われたようで最高に幸せでした。

後輩達はこの思いを引き継ぎ、連覇という私たちだけに与えられた特別な次の目標を胸に、日本一になるべくして、またなるに相応しいチームになれるよう日々精進しています。これからも金沢学院大学の応援をよろしくお願い致します。



第37回東日本大学男子ソフトボール選手権大会

期日 令和4年7月9日(土)～10日(日)
会場 石川県小松市スカイパークこまつ翼



《記錄4号》

特記事項特記事項特記事項特記事項

《記錄4号》

特記事項特記事項特記事項特記事項

《記錄4号》

特記事項

特記事項

特記事項

特記事項

第37回東日本大学女子ソフトボール選手権大会

期日：令和4年7月9日(土)～11日(月)
会場：金沢市宮専光寺ソフトボール場

			9 日	10 日	11 日
1	山 梨 学 院 大 学	山梨県	1		
2	富 士 大 学	岩手県	2	7	
3	東 京 国 際 大 学	埼玉県	7		0
4	東 京 学 芸 大 学	東京都	0	18	0
5	筑 波 大 学	茨城県	0		
6	日 本 体 育 大 学	東京都	2		0
7	仙 台 大 学	宮城県	0	2	
8	日 本 女 子 体 育 大 学	東京都	14		9
9	金 沢 学 院 大 学	石川県	4	0	
10	東 北 福 祉 大 学	宮城県	0		
11	東 海 大 学	神奈川県	2		
12	松 本 大 学	長野県	3	0	
13	清 和 大 学	千葉県	4		
14	東 京 富 士 大 学	東京都	0	2	
15	順 天 堂 大 学	千葉県	7	6	
16	早 稲 田 大 学	東京都	8		1
17	城 西 国 際 大 学	千葉県	0		
18	東 京 女 子 体 育 大 学	東京都	4	0	
19	淑 徳 大 学	埼玉県	2		1
20	国 士 舘 大 学	東京都	1	3	
21	城 西 大 学	埼玉県	6		

優勝
早稲田大学（初優勝）

第37回東日本大学女子ソフトボール選手権大会

《記錄4号》

第37回東日本大学女子ソフトボール選手権大会

《記錄4号》

第37回東日本大学女子ソフトボール選手権大会

《記錄4号》

第37回東日本大学女子ソフトボール選手権大会

《記錄4号》

第37回東日本大学女子ソフトボール選手権大会

会場所在地：石川県

メイン会場：金沢市専光寺ソフトボール場

第2球場

《記録4号》

第2日	2022年07月10日														準々決勝				試合時間：01時間59分				試合番号 17												
チーム名																		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考		
城西大学																		0	0	0	0	0	0	0	3								3		
東京女子体育大学																		0	0	0	0	0	0	0	0								0		
先攻（投手）新井 千夏, 岡 捕月, ○高橋 音森																																			
後攻（投手）佐々木 遥																																			
先攻（本塁打）																																			
後攻（本塁打）																																			
先攻（二塁打）																																			
後攻（二塁打）																																			
先攻（三塁打）																																			
後攻（三塁打）																																			
特記事項																																			

第2日	2022年07月10日														準決勝				試合時間：01時間36分				試合番号 18											
チーム名																		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考	
富士大学																		0	0	0	0	0										0	得点差コールド	
日本体育大学																		6	0	3	0	X										9		
先攻（投手）●井上 あやめ, 本城 映良																																		
後攻（投手）木村 友奏																																		
先攻（捕手）渡部 梨里, ○松苗 和奏, 鈴木 蒼, 下村 彩葉																																		
後攻（捕手）小泉向日葵, 下村 彩葉																																		
先攻（本塁打）																																		
後攻（本塁打）																																		
先攻（二塁打）																																		
後攻（二塁打）																																		
特記事項																																		

第2日	2022年07月10日														準決勝				試合時間：01時間46分				試合番号 19											
チーム名																		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考	
早稲田大学																		0	0	2	0	0	0	0								2		
城西大学																		1	0	0	0	0	0	0								1		
先攻（投手）○新宮 怜美																																		
後攻（投手）渡部 梨里, 小泉向日葵																																		
先攻（捕手）高橋 音森, 岡 捕月																																		
後攻（捕手）佐々木 遥																																		
先攻（本塁打）																																		
後攻（本塁打）																																		
先攻（二塁打）																																		
後攻（二塁打）																																		
特記事項																																		

第3日	2022年07月11日														決勝				試合時間：01時間38分				試合番号 20											
チーム名																		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考	
日本体育大学																		0	0	0	0	0	0	0								0		
早稲田大学																		0	0	1	0	0	0	X								1		
先攻（投手）●渡部 梨里																																		
後攻（投手）新宮 怜美, ○田中 彩絵																																		
先攻（捕手）渡部 梨里, 小泉向日葵																																		
後攻（捕手）渡部 梨里, 小泉向日葵																																		
先攻（本塁打）																																		
後攻（本塁打）																																		
先攻（二塁打）																																		
後攻（二塁打）																																		
先攻（三塁打）																																		
後攻（三塁打）																																		
先攻（四塁打）																																		
後攻（四塁打）																																		
特記事項																																		

第54回西日本大学男子ソフトボール選手権大会

期 間
会 場

令和4年8月6日(土)～8日(月)
山口県宇部市 東部運動広場A・B・C・D球場
A球場：東部運動広場 B球場：東部運動広場
C球場：東部運動広場 D球場：東部運動広場

		8月6日	8月7日	8月8日	
1 環 太 平 洋 大 学 (中国・岡山県)		4			
2 徳 島 大 学 (四国・徳島県)		3	5		
3 日 本 福 祉 大 学 (東海・愛知県)		8	3	7	
4 龍 谷 大 学 (近畿・京都府)		0			
5 四 天 王 寺 大 学 (近畿・大阪府)		5			4
6 九 州 産 業 大 学 (九州・福岡県)		13	12	0	
7 関 西 学 院 大 学 (近畿・兵庫県)		4	1		
8 岡 山 大 学 (中国・岡山県)		9			
9 神 戸 学 院 大 学 (近畿・兵庫県)		5			5
10 名 桜 大 学 (九州・沖縄県)		0	13		
11 広 島 経 済 大 学 (中国・広島県)		1	8	16	
12 中 京 学 院 大 学 (東海・岐阜県)		11			3
13 神 戸 大 学 (近畿・兵庫県)		1			
14 広 島 大 学 (中国・広島県)		5	4	4	
15 大 阪 産 業 大 学 (近畿・大阪府)		0	6		
16 岐 阜 聖 徳 学 園 大 学 (東海・岐阜県)		9			
17 名 城 大 学 (東海・愛知県)		5			
18 西 日 本 工 業 大 学 (九州・福岡県)		7	2		
19 京 都 産 業 大 学 (近畿・京都府)		7	3	5	
20 愛 媛 大 学 (四国・愛媛県)		0			
21 中 京 大 学 (東海・愛知県)		5			11
22 高 知 工 科 大 学 (四国・高知県)		3	7	4	
23 同 志 社 大 学 (近畿・京都府)		6	1		
24 九 州 共 立 大 学 (九州・福岡県)		1			1
25 愛 知 学 院 大 学 (東海・愛知県)		13			
26 広 島 国 際 学 院 大 学 (中国・広島県)		15	3		
27 大 阪 体 育 大 学 (近畿・大阪府)		7	8	2	
28 熊 本 学 園 大 学 (九州・熊本県)		10			1
29 立 命 館 大 学 (近畿・京都府)		8			
30 愛 知 大 学 (東海・愛知県)		2	3	9	
31 関 西 大 学 (近畿・大阪府)		1	2		
32 福 岡 大 学 (九州・福岡県)		7			

優勝
環太平洋大学

第54回西日本大学（男子）選手権大会

会場所在地:

メイン会場: 宇部市東部体育広場-A

《記録4号》

第1日	2022年08月06日	1回戦	試合時間: 01時間38分														試合番号 1
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
環太平洋大学		0	0	0	3	0	0	1								4	
徳島大学		0	0	0	0	0	3	0								3	
先攻 (投手) 景山 遼、濱田 哲人、○土井 海斗																	
後攻 (投手) ●玉岡 直樹																	
(捕手) 熊谷 壮次郎																	
先攻 (本塁打) 岩松 近良																	
(三塁打) (二塁打) 高草 昂大																	
後攻 (本塁打) 熊谷 壮次郎																	
(三塁打) (二塁打)																	
特記事項																	

第1日	2022年08月06日	1回戦	試合時間: 01時間47分														試合番号 2
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
日本福祉大学		0	0	1	2	0	5									8	
龍谷大学		0	0	0	0	0	0									0	得点差コールド
先攻 (投手) 長瀬 廉、○中川 大輝																	
(捕手) 加藤 朝陽、西森 匡助																	
後攻 (投手) ●林 佑弥、山岡 誠也																	
(捕手) 石川 凌晴、平野 優輝																	
先攻 (本塁打) 各務 竜平																	
(三塁打) 宮下 陽生、藤原 拓真																	
(二塁打) 各務 竜平、西森 匡助																	
後攻 (本塁打)																	
(三塁打) (二塁打)																	
特記事項																	

第1日	2022年08月06日	1回戦	試合時間: 01時間44分														試合番号 3
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
九州産業大学		4	0	0	0	3	6									13	
四天王寺大学		2	0	0	0	0	3									5	得点差コールド
先攻 (投手) ○谷口 隆正																	
(捕手) 小嶋井 勇斗																	
後攻 (投手) ●戸庭 敦也、藤井 慶成																	
(捕手) 尾崎 建																	
先攻 (本塁打) 大石 京弥																	
(三塁打) (二塁打) 林 航太郎、黒木 竜太②																	
後攻 (本塁打) 岡田 将																	
(三塁打) 高松 隼人																	
(二塁打)																	
特記事項																	

第1日	2022年08月06日	1回戦	試合時間: 01時間57分														試合番号 4
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
関西学院大学		2	0	1	0	0	1	0								4	
岡山大学		0	0	5	3	1	0	X								9	
先攻 (投手) ●農 恵優、小笹 太誠																	
(捕手) 今吉 裕大																	
後攻 (投手) ○富田 凌輔、田村 健太郎																	
(捕手) 紙本 航希、富田 凌輔																	
先攻 (本塁打)																	
(三塁打) 小笹 太誠																	
(二塁打) 北島 次哉																	
後攻 (本塁打)																	
(三塁打) 高木 俊輔																	
(二塁打) 富田 凌輔②																	
特記事項																	

第54回西日本大学（男子）選手権大会

会場所在地: メイン会場: 宇部市東部体育広場-A

《記録4号》

第1日	2022年08月06日	1回戦				試合時間: 02時間25分									試合番号	9	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
名城大学		0	0	0	2	2	0	1								5	
西日本工業大学		4	1	0	2	0	0	X								7	
先攻 (投手) ●榎野 智己, 松浦 大起 (捕手) 手賀 皓紀																	
後攻 (投手) ○片岡 久也, 長元 弘希 (捕手) 下山 碧也																	
先攻 (本塁打) 内藤 杉史郎 (三塁打) (二塁打)																	
後攻 (本塁打) 長元 弘希 (三塁打) 片岡 久也 (二塁打)																	
特記事項																	

第1日	2022年08月06日	1回戦				試合時間: 00時間00分									試合番号	10	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
京都産業大学																7	
愛媛大学																0	棄権
先攻 (投手) (捕手)																	
後攻 (投手) (捕手)																	
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																	
後攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																	
特記事項																	

第1日	2022年08月06日	1回戦				試合時間: 02時間03分									試合番号	11	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
高知工科大学		0	0	0	1	0	0	2								3	
中京大学		0	1	4	0	0	0	X								5	
先攻 (投手) ●今井 裕太 (捕手) 田村 健悟																	
後攻 (投手) ○上嶋 大聖, 楳村 和希, 佐々木 大知 (捕手) 産屋敷 尚哉																	
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																	
後攻 (本塁打) 根来 悟一 (三塁打) 柳家 悠馬 (二塁打) 出嶋 聖治																	
特記事項																	

第1日	2022年08月06日	1回戦				試合時間: 01時間40分									試合番号	12	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
九州共立大学		0	0	0	0	0	1	0								1	
同志社大学		2	0	3	0	1	0	X								6	
先攻 (投手) ●田中 大輝 (捕手) 堀島 将竜																	
後攻 (投手) 山本 大輔, ○鶴田 直己 (捕手) 高橋 大地																	
先攻 (本塁打) (三塁打) (二塁打)																	
後攻 (本塁打) 園座 俊輝, 神尾 幸宏 (三塁打) (二塁打) 櫻木 世輝斗, 鶴田 直己																	
特記事項																	

第54回西日本大学（男子）選手権大会

会場所在地:メイン会場:宇都市東部体育広場-A

《記録4号》

第1日	2022年08月06日	1回戦	試合時間: 01時間45分										試合番号	5			
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
神戸学院大学		2	0	0	0	0	3	0								5	
名桜大学		0	0	0	0	0	0	0								0	

先攻（投手）谷本 聖也,○内海 慈吾
（捕手）モサツフアコママ紗武,松上 智輝

後攻（投手）●伊波 勇弥,横山 颯人
（捕手）馬越 慧

先攻（本塁打）東野 洋平
（三塁打）
（二塁打）

後攻（本塁打）
（三塁打）
（二塁打）庵地 慶吾

特記事項

第1日	2022年08月06日	1回戦	試合時間: 02時間00分										試合番号	6			
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
中京学院大学		3	1	0	0	2	0	5								11	
広島経済大学		0	0	0	1	0	0	0								1	

先攻（投手）○宮崎 豊貴,安部 竜空,神尾 拓真
（捕手）三島 隆輝

後攻（投手）●藤井 翼,青野 汰雅
（捕手）武田 泰聖

先攻（本塁打）有吉 慎馬,宮城 羽立,寺本 悠真
（三塁打）
（二塁打）寺本 悠真

後攻（本塁打）池田 壮汰
（三塁打）
（二塁打）

特記事項

第1日	2022年08月06日	1回戦	試合時間: 01時間46分										試合番号	7			
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
広島大学		0	0	0	2	3	0	0								5	
神戸大学		0	0	1	0	0	0	0								1	

先攻（投手）○神堂 太洋
（捕手）吉田 健人

後攻（投手）●上山 順也,氏原 健汰
（捕手）戸井 大耀

先攻（本塁打）新藤 勘太,川瀬 隼大
（三塁打）神堂 太洋
（二塁打）

後攻（本塁打）
（三塁打）
（二塁打）

特記事項

第1日	2022年08月06日	1回戦	試合時間: 01時間19分										試合番号	8			
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
大阪産業大学		0	0	0	0	0										0	
岐阜聖徳学園大学		6	0	0	3	X										9	得点差コールド

先攻（投手）●岩谷 友朗
（捕手）松本 祐治

後攻（投手）○高木 優希,山本 愛彌
（捕手）淀川 瑛澄

先攻（本塁打）
（三塁打）
（二塁打）増田 啓大

後攻（本塁打）山本 竜之介
（三塁打）
（二塁打）岡部 雅史

特記事項

第54回西日本大学（男子）選手権大会

会場所在地： メイン会場： 宇部市東部体育広場-A

《記錄4号》

[illegible]

特記事項

[illegible]

特記事項

[illegible]

特記事項

第2日	2023年08月07日	2回戦	試合時間: 01時間58分														試合番号	20
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考	
広島大学		2	0	0	2	0	0	0								4		
広島聖徳学園大学		0	0	0	2	0	1	3X								6		
先攻	(投 手) ●神笠 太洋 (捕 手) 吉田 健人																	
後攻	(投 手) 高木 優希, ○山本 豪樹 (捕 手) 沢川 琢磨																	
先攻	(本塁打) 黒木 翔太郎, 神笠 太洋 (三塁打) (二塁打)																	
後攻	(本塁打) 西川 詩琉, 徳永 大輝, 藤田 隼平 (三塁打) 山口 尊斗 (二塁打) 山口 尊斗																	

特記事項

第54回西日本大学（男子）選手権大会

会場所在地： メイン会場： 宇部市東部体育広場-A

《記錄4号》

第2日	2022年08月07日	準々決勝														試合時間： 01時間37分	試合番号	25
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考	
環太平洋大学		3	1	2	0	1										7	得点差コンドル	
九州産業大学		0	0	0	0	0										0		
先攻	(投 手) ○景山 蓮、安藝 大地 (捕 手) 岩松 近良																	
後攻	(投 手) ●空白 隆正 (捕 手) 小嶋 勇斗																	
先攻	(本塁打) 高草 増大 (二塁打) 岩松 近良 (三塁打) 轉法輪 侑孝、谷口 將輝、岩松 近良																	
後攻	(本塁打) (二塁打) (三塁打)																	

特記事項

第2日	2022年08月07日	準々決勝													試合時間：02時間25分	試合番号	26
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考
神戸学院大学		1	3	1	0	5	0	6								16	
岐阜聖徳学園大学		1	0	0	3	0	0	0								4	
先攻	(投手) ○谷本 聖也, 内海 慈音 (捕手) 松上 智輝																
後攻	(投手) ●山本 愛嗣, 高木 優希, 羽賀 成稀 (捕手) 沢川 規雄																
先攻	(本塁打) 東野 洋平②, 森中 大輔, 志水 照英 (三塁打) ② (二塁打) ②																
後攻	(本塁打) ② (三塁打) ② (二塁打) 山本 竜之介																

特記事項

第2日	2022年08月07日	準々決勝	試合時間： 02時間00分														試合番号	27
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考	
中京大学		0	2	0	2	0	0	0								4		
京都産業大学		0	0	1	1	2	1	X								5		
先攻	(投 手) ●上嶋 大聖 (捕 手) 産屋敷 尚哉																	
後攻	(投 手) ○内容 陽嗣 (捕 手) 清水 航大																	
先攻	(本塁打) (二塁打) (三塁打)	産屋敷 尚哉, 佐々木 宏輔																
後攻	(本塁打) (二塁打) (三塁打)																	

特記事項

第2日	2022年08月07日														第2決勝		試合時間：01時40分										試合番号		28	
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考													
熊本学園大学		0	0	0	0	1	1									2	得点差コールド													
立命館大学		0	1	4	1	0	3X									9														
先攻	(投手) ●山本 淳貴, 平岡 浩英 (捕手) 平岡 浩英, 富田 透哉																													
後攻	(投手) 山上 強, ○中辻 辰志 (捕手) 成房 龍樹																													
先攻	(本塁打) (二塁打) (三塁打)																													
後攻	(本塁打) 椎葉 貴哉, 倉澤 尚吉 (二塁打) 倉澤 尚吉, 成房 龍樹 (三塁打)																													

特記事項

第54回西日本大学（男子）選手権大会

会場所在地： メイン会場：宇部市東部体育広場-A

《記錄4号》

第2日	2022年08月07日	2回戦														試合時間： 02時00分	試合番号	21
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考	
西日本工業大学		0	0	0	0	0	0	2	0							2		
京都産業大学		0	1	1	0	0	0	0	1X							3		
先攻	(投手) ●片岡 久也 (捕手) 山 哲也																	
後攻	(投手) 清水 結太 ○内容 陽輝 (捕手) 井元 誠、清水 加人																	
先攻	(本塁打) (二塁打) 田中 涼平 (三塁打) 松下 翔																	
後攻	(本塁打) 斎藤 達斗 (二塁打) 内容 陽輝 (三塁打)																	

特記事項

第2日	2022年08月07日	2回戦		試合時間: 01時間45分														試合番号	22
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考		
同志社大学		0	0	1	0	0	0	0								1			
中京大学		1	0	3	0	3	0	X								7			
先攻	(投 手) ● 藤田 直己 (捕 手) 高橋 大地																		
後攻	(投 手) ○ 上鶴 大聖 (捕 手) 産屋敷 尚哉																		
先攻	(本塁打) 近藤 寿茂 (三塁打) (二塁打)																		
後攻	(本塁打) (三塁打) 上鶴 大聖 (二塁打) 産屋敷 尚哉																		

特記事項

[illegible]

特記事項

第2日	2022年08月07日	2回戦		試合時間: 01時間56分														試合番号	24
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考		
福岡大学		0	0	1	0	0	0	1								2			
立命館大学		0	2	0	1	0	0	X								3			
先攻	(投手) ●豊村 晃平, 青木 琉真 (捕手) 多久島 史也																		
後攻	(投手) ○石田 諒 (捕手) 成那 龍樹																		
先攻	(本塁打) (二塁打) (三塁打)																		
後攻	(本塁打) (二塁打) (三塁打)																		
	(二塁打) 倉澤 茜吾, 山本 展士朗																		

特記事項

第54回西日本大学（男子）選手権大会

会場所在地： メイン会場： 宇部市東部体育広場-A

《記錄4号》

[illegible]

特記事項

第3日	2022年08月08日		準決勝		試合時間： 02時間00分														試合番号		30
チーム名			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考			
京都産業大学			1	0	2	3	0	0	5								11				
立命館大学			0	0	0	1	0	0	0								1				
先攻（投手）○内容 陽輝 （捕手）清水 昂大																					
後攻（投手）●土田 誠、中辻 尽志、山上 強 （捕手）成沢 龍樹																					
先攻（本塁打） （二塁打）南壁 晃伸、樋本 康生 （三塁打）																					
後攻（本塁打） （二塁打） （三塁打）																					

特記事項

第3日	2022年08月08日	決 勝														試合時間：01時間39分	試合番号	31
チーム名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	備考	
京都産業大学		0	0	0	0	1	0	0								1		
環太平洋大学		0	0	0	0	4	1	X								5		
先攻	(投 手) ●内谷 陽輝 (捕 手) 清水 昂大																	
後攻	(投 手) ○景山 蓮 (捕 手) 碧松 近良																	
先攻	(本塁打) 清水 昂大 (三塁打) (二塁打)																	
後攻	(本塁打) 碧松 近良, 谷口 将隆 (三塁打) (二塁打) 大城 周人																	

特記事項

第54回西日本大学女子ソフトボール選手権大会

第1試合：9:00～
第2試合：11:00～
第3試合：13:00～
第4試合：15:00～

期 間 令和4年8月6日(土)～8日(月)

会 場 三重県熊野市 A球場：山崎運動公園 健康運動広場A
B球場：山崎運動公園 健康運動広場B
C球場：山崎運動公園 くまのスタジアム
D球場：防災公園野球場

	6日(土)	7日(日)	8日(月)
1 中 京 大 学 (東海・愛知県)	20		
2 広 島 大 学 (中国・広島県)	C2	2	
3 太 成 学 院 大 学 (近畿・大阪府)	7	A1	3
4 至 学 館 大 学 (東海・愛知県)	C1	1	
5 中国 学 園 大 学 (中国・岡山県)	0	A3	5
6 立 命 館 大 学 (近畿・京都府)	C3	0	
7 日 本 福 祉 大 学 (東海・愛知県)	4	B1	4
8 熊 本 学 園 大 学 (九州・熊本県)	C4	2	
9 中 京 学 院 大 学 (東海・岐阜県)	D1	0	
10 大 阪 青 山 大 学 (近畿・大阪府)	3	A2	2
11 羽 衣 国 際 大 学 (近畿・大阪府)	D2	9	
12 日 本 文 理 大 学 (九州・大分県)	7	B3	4
13 安 田 女 子 大 学 (中国・広島県)	D3	2	
14 関 西 大 学 (近畿・大阪府)	11	B2	0
15 岐 阜 聖 徳 学 園 大 学 (東海・岐阜県)	D4	0	
16 天 理 大 学 (近畿・奈良県)	2		
17 龍 谷 大 学 (近畿・京都府)	B1	6	
18 星 城 大 学 (東海・愛知県)	0	D2	1
19 美 作 大 学 (中国・岡山県)	3	B2	1
20 武 庫 川 女 子 大 学 (近畿・兵庫県)	0	D3	2
21 愛 知 教 育 大 学 (東海・愛知県)	0	B3	7
22 園 田 学 園 女 子 大 学 (近畿・兵庫県)	10	C2	4
23 神 戸 親 和 女 子 大 学 (近畿・兵庫県)	9	B4	1
24 九 州 共 立 大 学 (九州・福岡県)	1		
25 福 岡 大 学 (九州・福岡県)	4	A3	1
26 大 阪 大 谷 大 学 (近畿・大阪府)	2	D1	0
27 常 葉 大 学 (東海・静岡県)	0	A4	6
28 I P U ・ 環 太 平 洋 大 学 (中国・岡山県)	11		
29 同 志 社 大 学 (近畿・京都府)	5	A1	2
30 岐 阜 協 立 大 学 (東海・岐阜県)	1	C1	1
31 大 阪 国 際 大 学 (近畿・大阪府)	0	A2	5
32 東 海 学 園 大 学 (東海・愛知県)	7		

優勝 東海学園大学 (7年ぶり3回目)

第21回大学（男子）ソフトボール東海オープン

会期：2022年3月23・24日

会場：愛知県豊田市運動公園ソフトボール場、多目的広場B・C球場

予選リーグ戦（第1日）

Aグループ	関西	中院	愛院	順位
関西		○ 5-2	○ 7-0	1
中京学院	● 2-5		● 5-9	3
愛知学院	● 0-7	○ 9-5		2

Bグループ	日福	愛知	大産	順位
日本福祉		● 0-1	● 5-6	3
愛知	○ 1-0		○ 4-1	1
大阪産業	○ 6-5	● 1-4		2

Cグループ	京産	常葉	南山	順位
京都産業		○ 4-2	○ 13-0	1
常葉	● 2-4		○ 10-0	2
南山	● 0-13	● 0-10		3

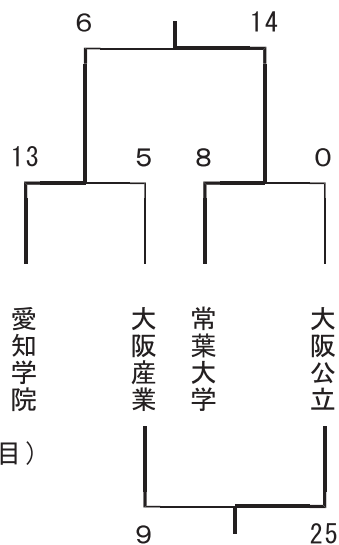
Dグループ	中京	大公	東京	順位
中京		○ 8-0	○ 3-2	1
大阪公立	● 0-8		○ 6-4	2
東京	● 2-3	● 4-6		3

順位決定戦（第2日）

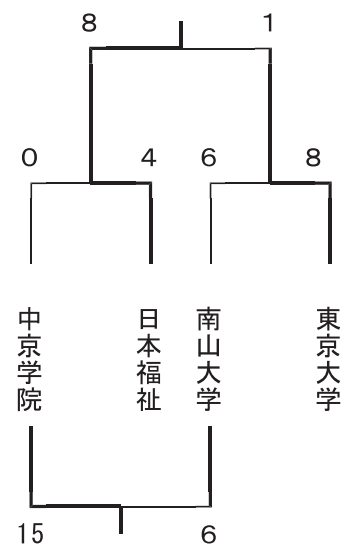
1～4位決定戦

関西	4-3	京産
中京	5-18	京産
中京	1-6	関西
※愛知大学は棄権		

5～8位決定戦



9～12位決定戦



優勝：関西大学（6年ぶり2回目）

準優勝：京都産業大学

第3位：中京大学、4位：愛知大学

2022年度北信越大学オープン男子戦績表

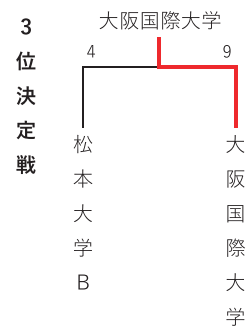
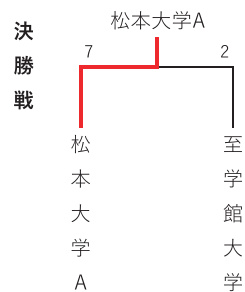
チーム名	高崎経済大学	富山大学A	信州大学	長岡大学	富山大学B	勝 敗			順位
						勝	敗	分	
高崎経済大学	☆	○ 8 - 1	● 7 - 9	○ 1 1 - 5	● 8 - 1 2	2	2	0	3
富山大学A	● 1 - 8	☆	● 4 - 1 1	● 4 - 5	● 2 - 4	0	4	0	5
信州大学	○ 9 - 7	○ 1 1 - 4	☆	○ 6 - 5	○ 7 - 0	4	0	0	1
長岡大学	● 5 - 1 1	○ 5 - 4	● 5 - 6	☆	● 6 - 1 3	1	3	0	4
富山大学B	○ 1 2 - 8	○ 4 - 2	● 0 - 7	○ 1 3 - 6	☆	3	1	0	2

○…勝ち	●…負け	△…引き分け
------	------	--------

2022年度北信越大学オープン女子戦績表

チーム名	松本大学A	至学館大学	大阪国際大学	松本大学B	勝 敗			順位
					勝	敗	分	
松本大学A	☆	○ 3 - 2	○ 9 - 3	○ 7 - 0	3	0	0	1
至学館大学	● 2 - 3	☆	○ 4 - 0	○ 3 - 2	2	1	0	2
大阪国際大学	● 3 - 9	● 0 - 4	☆	○ 5 - 3	1	2	0	3
松本大学B	● 0 - 7	● 2 - 3	● 3 - 5	☆	0	3	0	4

○…勝ち	●…負け	△…引き分け
------	------	--------



《岩岳リーグ 結果》

	金沢学院	城西国際	中京学院	岐阜協立	大阪国際	東京学芸	勝敗	勝ち点	順位	備考
金沢学院		1 0 - 0 ○	3 - 0 ○	4 - 1 ○	5 - 0 ○		4勝	16	1	
城西国際	0 - 1 0 ●		2 - 2 △	0 - 1 ●		4 - 7 ●	1分3敗	2	6	
中京学院	0 - 3 ●	2 - 2 △			1 - 0 ○	1 0 - 2 ○	2勝1敗1分	10	3	
岐阜協立	1 - 4 ●	1 - 0 ○			3 - 2 ○	8 - 1 ○	3勝1敗	12	2	
大阪国際	0 - 5 ●		0 - 1 ●	2 - 3 ●		1 2 - 2 ○	1勝3敗	4	4	当該チーム対戦
東京学芸		7 - 4 ○	2 - 1 0 ●	1 - 8 ●	2 - 1 2 ●		1勝3敗	4	5	当該チーム対戦

《五竜リーグ 結果》

	東京富士	仙台	大阪体育	大阪青山	東海学園	新島短大	勝敗	勝ち点	順位	備考
東京富士		5 - 0 ○	2 - 1 ○ タイブレーク	6 - 2 ○	1 - 0 ○ タイブレーク		4勝	14	1	
仙台	0 - 5 ●		1 - 6 ●	4 - 5 ●		7 - 0 ○	1勝3敗	4	5	
大阪体育	1 - 2 ● タイブレーク	6 - 1 ○			0 - 2 ●	1 2 - 0 ○	2勝2敗	9	4	当該チーム対戦
大阪青山	2 - 6 ●	5 - 4 ○			1 - 0 ○	4 - 1 ○	3勝1敗	12	2	
東海学園	0 - 1 ● タイブレーク		2 - 0 ○	0 - 1 ●		1 3 - 0 ○	2勝2敗	9	3	当該チーム対戦
新島短大		0 - 7 ●	0 - 1 2 ●	1 - 4 ●	0 - 1 3 ●		0勝4敗	0	6	

《八方リーグ 結果》

	東京国際	至学館	松本	星城	美作	京都産業	勝敗	勝ち点	順位	備考
東京国際		6 - 0 ○	3 - 1 ○	5 - 4 ○	6 - 1 ○		4勝	16	1	
至学館	0 - 6 ●		3 - 8 ●	3 - 2 ○		2 - 1 0 ●	1勝3敗	4	6	失点率
松本	1 - 3 ●	8 - 3 ○			8 - 3 ○	8 - 3 ○	3勝1敗	12	2	
星城	4 - 5 ●	2 - 3 ●			6 - 1 ○	4 - 3 ○ タイブレーク	2勝2敗	7	3	
美作	1 - 6 ●		3 - 8 ●	1 - 6 ●		2 - 1 ○	1勝3敗	4	5	失点率
京都産業		1 0 - 2 ○	3 - 8 ●	3 - 4 ● タイブレーク	1 - 2 ●		1勝3敗	5	4	

戸田中央メディカルケアグループ旗
第14回 HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール大会2022 決勝リーグ 対戦組合せ表

(1位リーグ) A: 北部G北

	金沢学院	東京国際	東京富士
金沢学院		3A①	3A②
東京国際	3A①		3A③
東京富士	3A②	3A③	

(4位リーグ) B: 北部G南

	岐阜協立	松本	大阪青山
岐阜協立		3B①	3B②
松本	3B①		3B③
大阪青山	3B②	3B③	

(7位リーグ) C: 南部G北

	中京学院	星城	東海学園
中京学院		3C①	3C②
星城	3C①		3C③
東海学園	3C②	3C③	

(10位リーグ) D: 南部G南

	大阪国際	京都産業	大阪体育
大阪国際		3D①	3D②
京都産業	3D①		3D③
大阪体育	3D②	3D③	

(13位リーグ) E: 切久保G北

	東京学芸	美作	仙台
東京学芸		3E①	3E②
美作	3E①		3E③
仙台	3E②	3E③	

(16位リーグ) F: 切久保G南

	城西国際	至学館	新島短大
城西国際		3F①	3F②
至学館	3F①		3F③
新島短大	3F②	3F③	

第12回 藤原初男杯 全国大学選抜女子ソフトボール大会結果

19日	ソフトボール場			多目的B			多目的C		
①	中 京	4 - 1	中京学院	星 城	2 - 6	東海学園	日本福祉	6 - 2	岐阜聖徳
②	松 本	1 - 2	岐阜聖徳	太成学院	13 - 3	中京学院	中 京	8 - 0	星 城
③	太成学院	8 - 0	中 京	金沢学院	9 - 1	中京学院	松 本	6 - 3	日本福祉
④	金沢学院	7 - 4	岐阜聖徳	中 京	7 - 0	松 本	太成学院	4 - 6	東海学園

20日	ソフトボール場			多目的B			多目的C		
①	松 本	2 - 2	東海学園	太成学院	3 - 2	金沢学院	金沢学院	0 - 1	中 京
②	金沢学院	3 - 1	日本福祉	太成学院	2 - 4	岐阜聖徳	松 本	1 - 3	中京学院
③	太成学院	2 - 0	日本福祉	中 京	4 - 0	東海学園	松 本	0 - 2	星 城
④	中京学院	6 - 4	星 城	日本福祉	2 - 1	東海学園	中 京	6 - 0	岐阜聖徳

試合開始時間(2試合目以降は目安)

- ① 9 : 00～ ② 11 : 00～
 ③ 13 : 00～ ④ 15 : 00～

※ ソフトボール場は8 : 30～開錠致します。

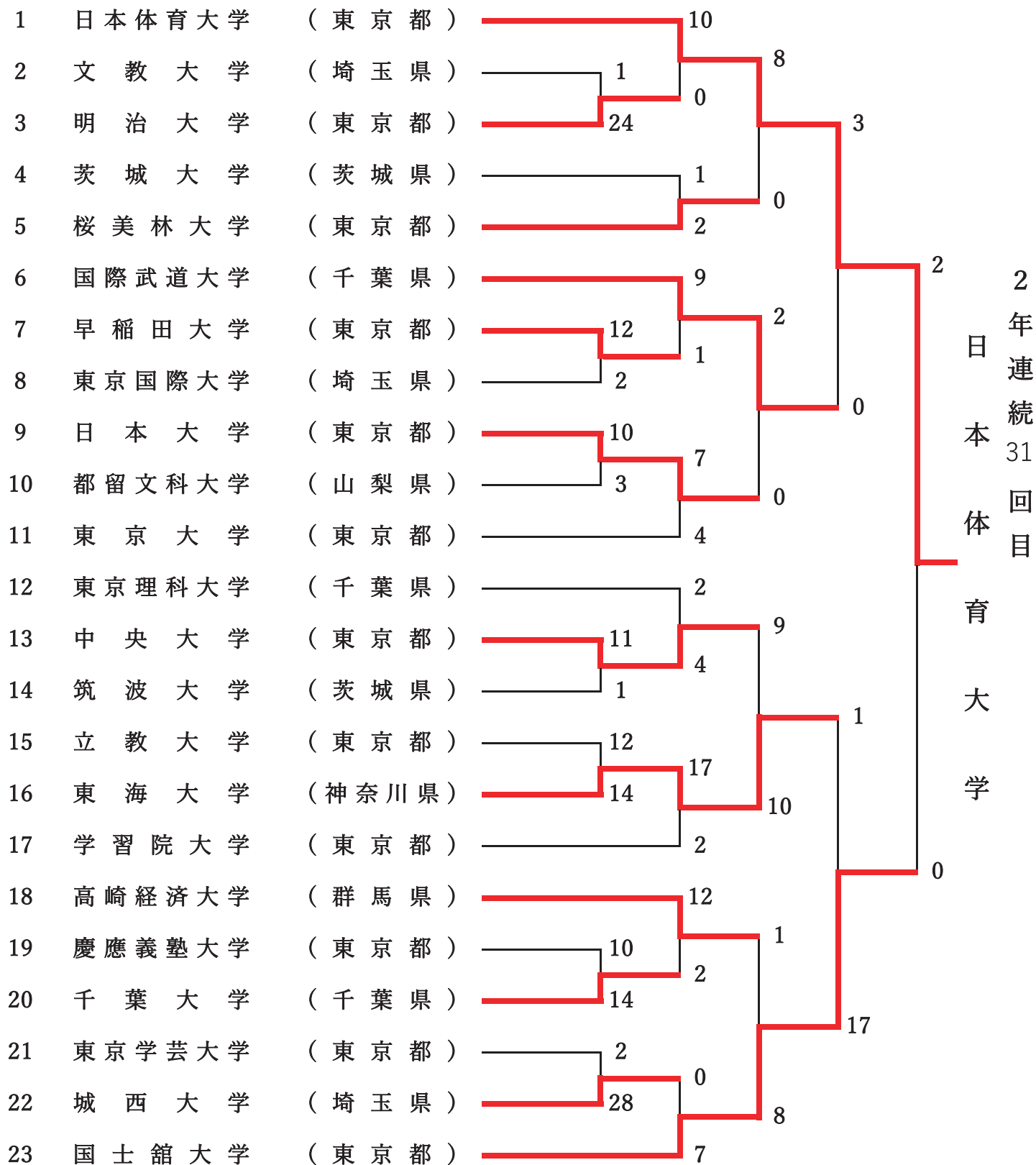
第53回関東大学ソフトボール選手権大会 (男子の部)

期 日：令和4年10月22日(土)～24日(月)

会 場：茨城県石岡市・小美玉市

A・B／石岡市八郷総合運動公園

C・D／小美玉市希望ヶ丘公園



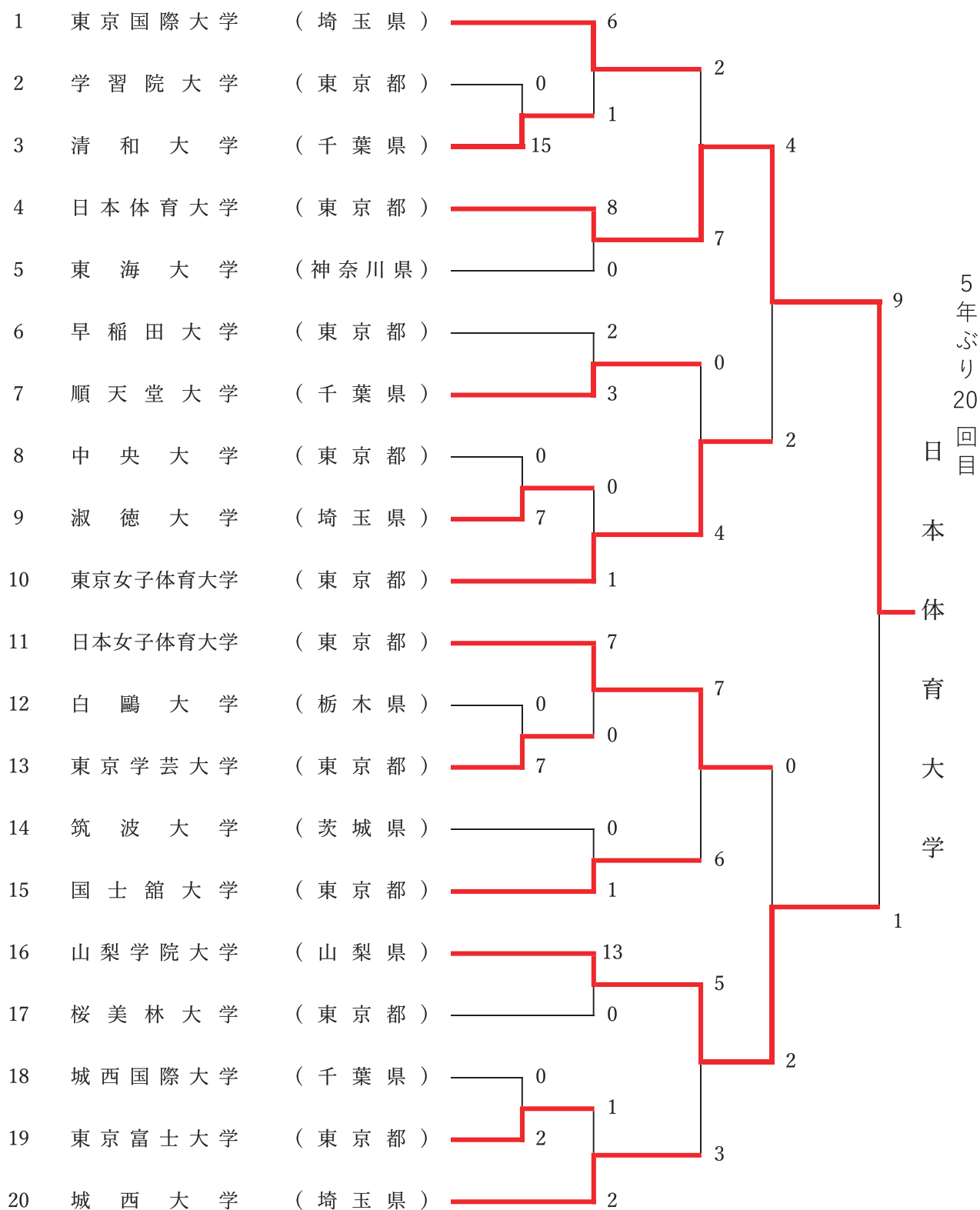
第53回関東大学ソフトボール選手権大会 (女子の部)

期 日：令和4年10月22日（土）～24日（月）

会 場：茨城県桜川市

A・B／桜川市総合運動公園

C・D／桜川市真壁運動場



第74回全日本総合女子ソフトボール選手権大会 組合せ表
(燃ゆる感動かごしま国体ソフトボール競技リハーサル大会)

期間 令和4年9月23日(金)～25日(日) 予備日26日(月)
会場 鹿児島県南九州市

A: 知覧平和公園多目的球場 A球場
C: 知覧平和公園陸上競技場 C球場
B: 知覧平和公園多目的球場 B球場
D: 知覧平和公園陸上競技場 D球場

			第1日目 9月23日(金・祝)	第2日目 9月24日(土)	第3日目 9月25日(日)	優勝・トヨタレッドテリアーズ・愛知県 3年ぶり7回目
1JD	ビックカメラ高崎ビーキューン	群馬県	9			
2SL	小泉病院 Blue Arrows	広島県	0	C-1	4	
3	日本文理大学	大分県	1	0		
4JD	シオノギレインボーストックス 兵庫	兵庫県	3		3	
5JD	戸田中央メディックス埼玉	埼玉県	5		0	
6	園田学園女子大学	兵庫県	4	C-2	4	
7	富士大学	岩手県	1	1		
8JD	SGホールディングスギャラクシースターズ	京都府	3			
9JD	太陽誘電ソルフィュー	群馬県	1		延長8回TB	0
10SL	静甲株式会社	静岡県	0	D-1	5	1
11	武庫川女子大学	兵庫県	0	2		
12JD	Honda Reverta	栃木県	9		5	
13	IPU・環太平洋大学	岡山県	1		1	
14JD	日本精工ブレイブベアリーズ	滋賀県	0	D-2	0	
15PL	MORI ALL WAVE KANOYA	鹿児島県	延長9回TB	1	1	
16JD	東海理化チェリーブロッサムズ	愛知県	0			
17JD	日立サンディーバ	神奈川県	8			
18	東北福祉大学	宮城県	0	3		
19JD	伊予銀行ヴェールズ	愛媛県	4	0		
20	東海学園大学	愛知県	0		延長9回TB	0
21SL	花王コスメ小田原フェニックス	神奈川県	0		3	
22JD	トヨタレッドテリアーズ	愛知県	5	4		
23JD	NECプラットフォームズ	静岡県	#	2		
24	SPIRIT Softball club	鹿児島県	0		3	
25JD	デンソーブライトペガサス	愛知県	4		1	
26PL	うぐいす会VONDS市原ソフトボールクラブ	千葉県	0	2		
27JD	takagi 北九州 Water Wave	福岡県	8	3		
28	山梨学院大学	山梨県	0		5回	0
29JD	大垣ミナモ	岐阜県	0		9	
30	金沢学院大学	石川県	2	延長9回TB	1	
31	Kochi Tamon Club	高知県	0	3		
32JD	豊田自動織機シャイニングベガ	愛知県	#			

第3回アジア大学ソフトボール選手権大会 報告書

会期：2022年12月14日（水）～12月17日（土）会場：タイ／パタヤ ラグビースクール



令和4年度女子大学日本代表チーム第3回アジア大学選手権参加者名簿

No.	守備	氏 名	支部	所属
1	投手	飯島 綾香	兵庫	園田学園女子大学
2	〃	遠藤 杏樺	岡山	環太平洋大学
3	〃	坪野 三咲	愛知	中京大学
4	〃	山下 千世	石川	金沢学院大学
5	捕手	市川 愛渚	愛知	中京大学
6	〃	女鹿田 千紘	岡山	環太平洋大学
7	〃	和田 梨理花	宮城	東北福祉大学
8	内野手	遠藤 滯	石川	金沢学院大学
9	〃	丘 安里	東京	東京女子体育大学
10	〃	笠原 朱里	東京	日本体育大学
11	〃	舟阪 育枝	東京	日本体育大学
12	〃	古庄 未久	大分	日本文理大学
13	〃	保谷 蓮	兵庫	園田学園女子大学
14	外野手	片岡 僚子	愛知	中京大学
15	〃	齋藤 明日加	岡山	環太平洋大学
16	〃	中川 唯	兵庫	園田学園女子大学

スタッフ

1	チームリーダー	佐藤 理恵	東京	東京女子体育大学
2	ヘッドコーチ	木田 京子	兵庫	園田学園女子大学
3	アシスタントコーチ	森 英寿	岩手	富士大学
4	アシスタントコーチ	長澤 佳子	大分	日本文理大学
5	トレーナー	田中 亜香里	福岡	タカギ北九州
6	通訳	上田 晶子		株式会社 JTB

【予選リーグ】

Pool A	TPE	MAS	HKG	THA	勝	敗	得点	失点	順位
チャイニーズ・タイペイ		○11-0	○18-1	○16-0	3	0	45	1	1
マレーシア	●0-11		●7-11	●0-9	0	3	7	31	4
香港	●1-18	○11-7		●6-8	1	2	18	33	3
タイ	●0-16	○9-0	○8-6		2	1	17	22	2

Pool B	JPN	SGP	IND	KOR	勝	敗	得点	失点	順位
日本		○11-0	○15-0	○7-0	3	0	33	0	1
シンガポール	●0-11		○15-0	●1-8	1	2	16	19	3
インド	●0-15	●0-15		●0-10	0	3	0	40	4
韓国	●0-7	○8-1	○10-0		2	1	18	8	2

【スーパーラウンド】

	TPE A1	THA A2	HKG A3	JPN B1	KOR B2	SGP B3	勝	敗	得点	失点	順位
チャイニーズ・タイペイ		○16-0	○18-1	●0-5	○3-2	○7-0	4	1	44	8	2
タイ	●0-16		○8-6	●0-10	●1-8	●1-11	1	4	10	51	5
香港	●1-18	●6-8		●0-15	●0-13	●2-9	0	5	9	63	6
日本	○5-0	○10-0	○15-0		○7-0	○11-0	5	0	48	0	1
韓国	●2-3	○8-1	○13-0	●0-7		○8-1	3	2	31	12	3
シンガポール	●0-7	○11-1	○9-2	●0-11	●1-8		2	3	21	29	4

※ 部分はオープニングラウンドの結果を持ち越す

1位・2位のチームは優勝決定戦へ、3位・4位のチームは3位決定戦へ

【優勝決定戦】

	1	2	3	4	5	6	7	8	R
チャイニーズ・タイペイ (スーパーラウンド2位)	0	2	0	1	1	0	0	0	4
女子大学日本代表 (スーパーラウンド1位)	1	2	1	0	0	0	0	1×	5



【打撃成績】

Asia Cup Asian Universities Women's Softball 2022 - JPN - 2023-01-14 11:58:11

Player	Team	AB	R	H	2B	3B	HR	RBI	TB	AVG	SLG	OBP	OPS	BB	HBP	SO	GDP	SF	SH	SB	CS
ENDO Mio	JPN	16	8	8	1	0	4	7	21	.500	1.313	.500	1.813	0	0	2	0	0	0	1	0
FUNASAKA Ikue	JPN	13	7	6	0	0	2	2	12	.462	.923	.563	1.486	3	0	0	0	0	0	2	0
FURUSHO Miku	JPN	12	8	6	1	2	0	6	11	.500	.917	.588	1.505	3	1	0	0	1	0	3	0
HOYA Ren	JPN	15	8	6	1	1	2	12	15	.400	1.000	.500	1.500	3	1	1	0	1	1	1	0
ICHIKAWA Hina	JPN	6	2	2	0	0	1	3	5	.333	.833	.444	1.277	1	1	0	0	1	0	0	0
KASAHARA Shuri	JPN	18	4	9	2	0	1	9	14	.500	.778	.571	1.349	3	0	2	0	0	0	1	1
KATAOKA Ryoko	JPN	12	5	5	2	1	0	3	9	.417	.750	.632	1.382	6	1	0	0	0	1	0	0
MEKADA Chihiro	JPN	4	4	2	0	0	0	1	2	.500	.500	.800	1.300	6	0	0	0	0	1	0	0
NAKAGAWA Yui	JPN	12	6	4	0	0	2	4	10	.333	.833	.385	1.218	1	0	0	0	0	0	1	0
OKA Anri	JPN	16	7	9	0	0	2	8	15	.563	.938	.619	1.557	3	1	0	0	1	0	2	1
SAITO Asuka	JPN	16	7	9	3	1	0	3	14	.563	.875	.611	1.486	1	1	1	0	0	1	1	0
WADA Ririka	JPN	8	2	2	0	0	0	3	2	.250	.250	.417	.667	3	0	1	0	1	0	0	0
Totals	-	148	68	68	10	5	14	61	130	.459	.878	.557	1.435	33	6	7	0	5	4	12	2

This website makes use of cookies to enhance browsing experience and provide additional functionality. [Details](#) [Privacy policy](#) [Allow cookies](#)

【投手成績】

Asia Cup Asian Universities Women's Softball 2022 - JPN - 2023-01-14 12:00:58

Player	Team	W	L	ERA	APP	GS	SV	CG	SHO	IP	H	R	ER	BB	SO	2B	3B	HR	AB	BAVG	WP	HBP	BK	SFA	SHA	GO	FO
ENDO Kyoka	JPN	2	0	1.75	3	3	0	1	1	8.0	6	2	2	0	17	0	0	1	29	.207	0	1	0	0	0	2	4
IJIMA Ayaka	JPN	1	0	1.24	3	1	0	0	0	5.2	2	1	1	3	7	2	0	0	19	.105	1	0	1	0	0	8	1
TSUBONO Misaki	JPN	2	0	0.00	3	2	0	1	1	9.0	1	0	0	4	7	0	0	0	27	.037	0	0	0	0	0	8	11
YAMASHITA Chise	JPN	1	0	0.62	3	1	0	1	1	11.1	5	1	1	2	21	0	0	1	38	.132	1	0	0	0	0	8	4
Totals	-	6	0	0.82	12	7	0	3	3	34.0	14	4	4	9	52	2	0	2	113	.124	2	1	1	0	0	26	20



【事前強化合宿および大会における行動表】

12/8 (木)

11:30 スタッフ集合 ミーティング及び昼食
(東京女子体育大学2号館ソフトボール研究室)
13:00 全体集合 全体ミーティング・PCR検査
(東京女子体育大学2号館224教室)
15:00 全体練習(東京女子体育大学ソフトボール場)
17:30 グラウンド出発
18:00 ホテル(クロス・ウェーブ府中)到着
18:30 夕食
19:30 全体ミーティング

12/9 (金)

7:00 朝食
8:00 ホテル出発
8:30 東京女子体育大学到着
10:30 強化練習試合(日立サンディーバ)
① 2-9 ●
② 1-1 △
17:00 グラウンド出発
17:30 ホテル到着
18:00 夕食
19:00 全体ミーティング

12/10 (土)

7:00 朝食
7:45 ホテル出発
8:40 羽田空港着
11:00 羽田空港発
16:30(現地時間)バンコク国際空港到着
17:45 空港出発
20:00 ホテル(チョルチャン パタヤ ビーチ リゾート ホテル)到着、抗原検査実施
20:30 夕食
21:00 全体ミーティング

12/11 (日)

7:00 朝食
8:30 ホテル出発
8:50 グラウンド(ラグビースクールパタヤ)到着
9:00 練習(9:00~12:00)
12:30 グラウンド出発
12:50 ホテル到着
13:00 昼食
15:00 散歩(1時間程度)
18:00 夕食
19:00 全体ミーティング

12/12 (月)

7:00 朝食
8:30 ホテル出発
8:50 グラウンド到着
9:00 練習(9:00~12:00)
12:30 グラウンド出発
12:50 ホテル到着
13:00 昼食
14:00 スーパーへ買い物
15:50 ホテル到着
18:30 夕食

12/13 (火)

6:30 朝食
7:00 ホテル出発
7:20 グラウンド到着
8:00 練習(8:00~11:30)
(8:00~ W-up、9:30~10:30A グラウンド、10:30~11:30B グラウンド)
12:00 グラウンド出発
12:20 ホテル到着
12:30 昼食
14:00 散歩(1時間程度)
18:00 夕食
19:00 Bat Check
20:00 Manager meeting(20:00~21:20)
21:30 全体ミーティング(諸連絡)

12/14 (水)

7:00 朝食
8:00 ホテル出発
8:20 グラウンド到着
8:30 W-up 開始
10:30 VS シンガポール【Home（後攻・3塁側）ゴールド】Aグラウンド
14:30 VS インド【Home（後攻・3塁側）ホワイト】Aグラウンド
16:30 グラウンド出発
16:50 ホテル到着
18:30 夕食
19:40 全体ミーティング

12/15 (木)

7:00 朝食
8:00 ホテル出発
8:20 グラウンド到着
8:30 U-up 開始
10:30 VS 韓国【Home（後攻・3塁側）ゴールド】Aグラウンド
14:30 VS タイ【Home（後攻・3塁側）ホワイト】Bグラウンド
16:30 グラウンド出発
16:50 ホテル到着
18:30 夕食
19:40 全体ミーティング

12/16 (金)

7:00 朝食
8:00 ホテル出発
8:20 グラウンド到着
8:30 U-up 開始
10:30 VS 台湾【Away（先攻・1塁側）ホワイト】Aグラウンド
14:30 VS 香港【Home（後攻・3塁側）ゴールド】Bグラウンド
16:30 グラウンド出発
16:50 ホテル到着
18:30 夕食
19:40 全体ミーティング

12/17 (土)

7:30 朝食
9:00 ホテル出発
9:20 グラウンド到着
9:30 U-up 開始
11:00 【Gold Medal Game】
VS 台湾【Home（後攻・3塁側）ゴールド】Aグラウンド
15:20 グラウンド出発
15:50 ホテル到着
16:00 祝勝会（カフェ・ノンアルコール）
17:30 ホテル到着
18:00 表彰式&レセプション
20:30 全体ミーティング

12/18 (日)

2:00 ホテル出発
3:50 バンコク国際空港到着
7:10 バンコク発
13:40（日本時間） 成田空港着
16:00 解散



第3回アジア女子大学ソフトボール選手権大会を振り返って

チームリーダー：佐藤 理恵（東京女子体育大学）

1. チーム編成について

第3回目となるアジア女子大学ソフトボール選手権大会はタイのパタヤで開催された。コーチングスタッフは前年度インカレ日本一に輝いた園田学園女子大学の木田京子先生がヘッドコーチを務め、アシスタントコーチには富士大学の森英寿先生、日本文理大学の長澤佳子先生、トレーナーにはタカギ北九州ウォーターウェーブの田中亜香里さんという体制で大会初の優勝を勝ち取るべく臨んだ。今大会の選手選考においては、日本のコロナ感染者数の拡大により止むをえず選考会が中止となり、選手選考については、第57回全日本大学選手権に出場するチームの監督推薦選手の中から同大会の活躍を鑑み強化本部により選出された。



2. 国内事前合宿について

選手団は、東京女子体育大学で事前合宿を実施し、J Dリーグ所属チームの日立サンディーバさんにご協力いただき練習ゲームやケース練習をしながら万全の状態での現地入りすることができた。

3. 現地での調整練習について

大会が行われる現地のタイでは、冬の日本とは違い、日によっては30℃を超える暑さで、暑さに慣れながらコンディショニングを整えていくことと、試合会場は、全面天然芝のラグビー場をソフトボール場に設営したため、両翼61mと狭く、投手も普段慣れていない芝の上で投球する投低打高の環境下での戦いを想定しながら念入りに準備を行った。

4. 大会総評について

大会はオープニングラウンドでA Bグループでの予選があり、A Bグループの上位3チームがスーパーラウンドに進むという方式であった。日本大学チームはオープニングラウンドを全勝し、スーパーラウンドに進み、ゴールドメダルゲームではチャイニーズタイペイと対戦し、8回タイブレーカーの末、5-4で勝利し、初優勝することが出来た。

この勝利の背景には、木田HCの手腕と、森AC、長澤AC、田中TRのサポート、そして16名の代表選手たちが短い準備期間、過密なスケジュールの中で良い準備をし、チーム一丸となって戦った成果であるとともに、コロナ禍にも関わらず、派遣に際しご理解、ご協力いただきました各所属チームの部長、監督の皆様のおかげだと感じております。

また、今回の大会を通じて、大会 MVP とオールスター捕手賞に女鹿田千紘（IPU環太平洋大学）、投手賞に山下千世（金沢学院大学）、二塁手賞に舟阪育枝（日本体育大学）、遊撃手賞に遠藤滯（金沢学院大学）が受賞した。今大会に出場した選手たちはこの経験を次のステージに活かして欲しい。

5. 今後のアジアソフトボール界における課題

今大会では強化が進んでいる国や普及が必要な国など、競技力の差を感じた。大会を通じて日本はアジアNo.1の力を示すことができたが、日本だけが強くてもソフトボールの発展には繋がらず、日本の技術や大会運営方法なども他国と共有して共にレベルを上げていく必要があることを感じた。大会中に木田HCと共に他国に講習会を開催するなど、少しでもアジアの発展に寄与する試みをしたが、今後、日本の指導者が海外に進出していく必要性を感じた。



講習会を開催するなど、少しでもアジアの発展に寄与する試みをしたが、今後、日本の指導者が海外に進出していく必要性を感じた。

6. 謝辞

第3回アジア大学女子選手権大会の大学日本代表チームの派遣に際し、さまざまな方のご理解とお力添えをいただきました。ここに記して深く御礼申し上げます。

第3回アジア大学ソフトボール選手権に参加して

ヘッドコーチ：木田 京子（園田学園女子大学）

第3回アジア大学ソフトボール選手権大会派遣の女子大学日本代表チームのヘッドコーチを務めさせて頂きました。まずは、派遣等に関し、日本ソフトボール協会はじめ、全日本大学ソフトボール連盟等、関係各位に感謝申し上げます。ここ数年間、スポーツ活動が儘ならなかったですが、無事に活動が終えられましたことをご報告致します。

今回のチームは、選手選考会がコロナの影響により前日に中止され、インカレでのピックアップの選考となり、日本ソフトボール協会の強化委員が中心となり、選考された16名を率いることとなりました。



実際のスタートは令和4年12月8日から東京女子体育大学で事前合宿、オープン試合（日立サンディーバご協力）の予定でチームが集まりました。1.5日を国内合宿で過ごし、また夜のミーティングでは、5つのことを伝えました。①日本代表としての行動規範②国際試合の心得と準備③ソフトボール競技を知る④セルフコンディショニング⑤コロナ感染予防対策でした。また、集合チームのため、スタッフと選手や選手同士のコミュニケーションを大切にすることで、日を重ねるごとに関係が深くなっていくことが見られました。チーム構成が4年生10人であったこともあり、それぞれの所属大学でリーダーをしている選手が多く、言動も素晴らしく、周りを見る力も有しており、チームマネジメントや関係構築に大きく貢献してくれました。

タイに移動後は暑熱順化の意識、活動時間を長めに設定し、コンディションを整えながらも、それぞれの技能の確認を行うことに注視しました。現地3日間の調整時間を過ごしたことで、良いコンディションで大会に入ることができました。大会は多くの試合が大差となる試合でしたが、その中での学びも大きく、日本はアジアをリードする立場であることを伝え、模範となるソフトボールの展開を出来るように伝えました。接戦となった試合は、台湾と韓国の試合はなかなか打撃が振るわず、バント失敗やサインミス等の反省点もありました。決勝についても同様のことが起こり、延長戦により決着しました。結果は初優勝で大会を終えることが出来ましたが、集合チームを短期間で率いる難しさを痛感しました。

今回のチームを率いて感じたことは、個別の基本的なスキルの未熟な部分を感じられました。とりわけキャッチボール（特にスローイング）や進塁打のバント等に苦心している選手があり、強化視点では安定した基礎基本の習得や幅広い体力向上により、大学界から更に多くの世界で活躍する選手が輩出できると考えます。また、国際経験や異文化体験も今後の指導者育成の視点に立つと良い経験値となります。大学選抜チームの編成や強化及び派遣を毎年継続することで、日本だけではなく世界のソフトボールの裾野を広めていく為に必要であると思います。

今回、ご尽力頂いたスタッフの佐藤理恵チームリーダー（東京女子体育大学）・森英寿コーチ（富士大学）・長



澤佳子コーチ（日本文理大学）・田中亜香里トレーナー（タカギウォーターウェーブ）・濱崎くん（現地スタッフ）・上田添乗員の皆さんにはヘッドコーチが現場に集中できる環境を作って頂きました。また、事前合宿では東京女子体育大学及び日立サンディーバのご協力を賜りました。この場をお借りして御礼と感謝申し上げます。ありがとうございました。

第3回アジア女子大学ソフトボール選手権大会を終えて

アシスタントコーチ：森 英寿（富士大学）

今大会は、これまで2大会とも3位という結果であったため、何としてもアジアでの頂点を掴み取ることを目標に臨みました。

2日間の事前練習後現地に入り、気候や環境の変化に対応することが非常に大切であることはわかっていたものの、実際に体験してみると、それは想像していたものより簡単なものではないと実感しました。試合会場は、日本ではあまり見ない全面芝のグラウンド、気候も例年であれば最高気温が30℃を下回る程度だという話でしたが、連日30℃を超え38℃に達する日もありました。また、食事に関しては風味や味付け、メニューなどの日本との違いに、しっかりと食事を摂ることの難しさも感じました。そのような時に、全体ミーティングの中で佐藤チームリーダーより話がありました。それは、自身が代表選手としてオリンピックなど世界で戦った経験を通し、逆境をもプラスに捉える、ポジティブな思考を持つ、タフになる、というような内容で実体験を交えたものでした。その話を受けた選手たちは、一層代表としての自覚と責任を受止め、様々な行動等の制約を遵守し、勝利のため試合に向けての準備を行っていました。

大会では予選ラウンド・スーパーラウンドを順調に全勝で通過し、ゴールドメダルゲームへと駒を進めました。予選のスーパーラウンドまでとは違い、負けられないという重圧が大きくなっていくのを感じました。ゴールドメダルゲームでは序盤固さもありましたが、これまで少ないながらも共に過ごした時間で、チーム全員が互いに信頼や責任を持ち、一丸となり勝ち切ることができました。

今回の優勝は、佐藤チームリーダーがチーム全体をいつも気に掛け体調不良者を一人も出さず、精神的支柱としてもチームを支え、木田ヘッドコーチが他のスタッフも気遣いながら選手全体の士気を上げチームをコントロールしつつ、選手の特徴や能力、適材適所を判断し的確な采配を振るい、また長澤アシスタントコーチはスタッフと選手のパイプ役として、選手たちとコミュニケーションを密にとり、その時々でのベストな状態を引き出し、田中トレーナーがいつもとは違う気候や環境下で、選手の変化に一早く気づき対応し、そして何より選手たちが、30℃を超える過酷な状況下で、4日間で7試合を一人も体調を崩すことなく、誰が出場しても遜色ない気持ちと能力を持ち、疲労を分散しながら、主将を務めた遠藤選手、副主将を務めた女鹿田選手を中心に16名全員が一つとなり、持てる力を存分に発揮してくれたことが要因であると思います。

最後に、今大会の参加へご協力・ご支援賜りました日本ソフトボール協会、並びに全日本大学ソフトボール連盟、また事前練習や練習試合で会場をお借りし、準備やお手伝いを頂きました東京女子体育大学ソフトボール部、出発前に行った練習試合で胸を貸して頂いた日立サンディーバの皆様、そして現地で毎日のように買物や洗濯等にご協力賜りました、齋藤明日加選手のお父様には心より感謝申し上げます。



この度のアジア大学ソフトボール選手権大会は、素晴らしいスタッフや選手に恵まれ、私にとって練習や試合の内容はもちろん、チーム作りや競技の楽しさや厳しさなど様々な部分において、その多くの方々より影響を受け、大変貴重な勉強や経験をさせて頂けた機会となりました。今回得た経験を、今後のソフトボールの指導や普及など、一人でも多くの方々の力になれるよう、尽力して参りたいと思います。

アジア女子大学選手権大会をコーチという立場で帯同して

アシスタントコーチ：長澤 佳子（日本文理大学）

今回、全日本大学チームのアシスタントコーチとしてチームに帯同し、第3回アジア女子大学選手権大会を経験させて頂きました。私は選手時代から全日本という経験がなく、指導者として初めて全日本チームに携わせて頂きました。チーム結成初日、事前合宿スタート時に木田ヘッドコーチのミーティングがあり、全日本であることの自覚と責任を持って行動すること、また全大学生の代表であること、最後にアジア大学選手権では優勝する事が私達の使命だというお話を頂き、世界のソフトボール界での日本の立ち位置や日本のソフトボールのレベル、すべてに責任の重さを感じた半面、このような舞台で戦えることに期待と喜びを感じました。



大会まで事前合宿2日、現地練習3日という短期間の中で勝つチーム作りが求められ、木田ヘッドコーチの元、チームを作り、どのように準備をし、どうやって国際大会に臨み、どう戦っていくのか、そしてアジアチャンピオンになるまでの過程と一緒に味わう事ができました。チーム作りをする第一段階として、事前合宿にて選手個々の能力の確認、投手陣の特徴やクセなどの確認を行い、2日目では日立チームと練習試合をさせて頂き、選手の配置、打順、投手陣をどう回していくのか木田ヘッドコーチの考えを聞き、コーチという立場でどう動いていき、どうサポートしていくべきかを考えていきました。2日間の事前合宿が終了し、現地へ出発しました。空港には沢山の方が見送りに来て下さり激励をして頂き、影で色々な人が支援をして頂きこういう舞台に立てるのだと実感しました。

現地へ到着してまず感じたことは、日本は他国とは違い、大会まで3日間という調整期間があるという事に日本ソフトボール協会の配慮、色々な方に支援して頂いてこの大会に臨める事の有難さを感じました。タイの気候は日本とは違い30度を超える状況でまずは現地の気候に慣れる事、環境に慣れる事を優先的に考え練習を行いました。また今回の大会会場はラグビー場だったので芝で戦う事、投手陣、野手陣それぞれ話をしながらどう試合を進めていくか、また注意点などヘッドコーチを中心にスタッフミーティングを行い試合までの日々を過ごしていきました。

現地では、少しでも時間があればミーティングを行い、戦うまでのマインドセット、身体の準備、そしてどう戦っていくか、何度も話し合い試合に挑みました。試合に入ると選手は個々の能力を発揮し木田ヘッドコーチの手腕でアジアになることができました。私が一番感じた事は、大会中も色々な事が起こりましたが、木田ヘッドコーチは顔色一つ変えず、一つ一つ問題をクリアしていき、常に勝つ事を優先し考え行動していく姿が私の足りない部分でした。今回木田ヘッドコーチの元、スタッフ全員、チームが勝つこと、選手が120%のプレーができる事を一番に考え、それぞれの役割を全うできたのも、一緒に戦えたスタッフ陣のおかげだと思っています。



私が日本チームの勝利にどれだけ貢献できたかわかりませんが本当に貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。また今回の遠征を通じて、すべての面で日本が恵まれている事を実感しました。そして、アジアの色々な国に対してソフトボールの普及活動をしていかないと感じました。これから私がどこまで普及できるかわかりませんが、まずは地元である九州へ今回の経験を伝えていけたらと思います。

第3回アジア女子大学選手権に参加しての感想

チームトレーナー：田中 亜香里（タカギ北九州ウォーターウェーブ）

2022年12月14日から12月17日まで開催されました、第3回アジア女子大学選手権に参加した際の感想レポートを提出させていただきます。

本大会はタイのパタヤにて、日本以外に、チャイニーズタイペイ、マレーシア、香港、タイ、シンガポール、インド、韓国の8カ国が参加して行われました。私は日本チームのトレーナーとして参加しました。

日本では10度前後と寒さを感じる中、冬でも30度前後のパタヤに移動し、暑熱順化の不安はありましたが、湿度は低く、風にも助けられて日本の夏のような暑苦しさは感じませんでした。大会期間中、主催者から1試合につき2箱のポカリスエットと、希望数の飲料水と氷が支給され、ベンチに大きなテントが設営されていたので、対策はしやすかったです。

宿泊先は全チーム同じでしたが、リゾートホテルのため、各部屋やレストランの広さも十分確保されていました。屋外に清潔感のあるプールがあったため、アイスバスの代用として使用し、リカバリーに利用できる環境は整っていました。

時差はマイナス2時間で、特に対策は必要なく、すぐに順応できました。

ホテルの食事はビュッフェ形式で、種類も多く揃っていました。味はクセが少なく食べやすいように調理されていたので、日本チームの選手とスタッフは全員、体重が極端に落ちることなく、特段食事に困ることもありませんでした。

試合会場は、ラグビースクールだったので、全面天然芝でした。事前練習を3日間できたので、徐々に芝に慣れることができましたが、日本で慣れている土のグラウンドと比較すると、下半身の負担は大きかったと思います。

大会期間中の昼食はラグビースクールの食堂にて、ビュッフェ形式でいただきました。施設は清潔感に溢れ、食事の種類も豊富で、味付けもシンプルで食べやすく、ホテルとは違った種類の物を食べることができてリフレッシュにもなりました。

心配していた水問題ですが、ホテルでは1人につき毎日500mlペットボトルの飲料水4本支給されていて、歯磨きや食事のドリンクは十分賄えました。飲料水が支給分では足りない選手もいたので、ケア室にストックを常備し、必要分選手に取りに来てもらうようにしました。ホテルの食堂で常備されている水は、浄水器から出されているものですが、大会期間中でもあったので、極力ペットボトルの水を使用し、下痢や腹痛を訴える人はいませんでした。ベストなコンディションで戦えるように、一人一人が食事面や睡眠、セルフケア、暑熱順化、グラウンド対策に取り組み、最後まで全員総力で戦い抜けたと思います。

今大会に参加させていただき、短期結成チームがONE TEAMになっていく過程や、海外遠征の対策、個々のスタッフや選手の方々の素晴らしさなど、数多くのことを学び、経験させていただきました。今後、トレーナーという立場でチームをサポートしていく中で、この経験を存分に活かし、反省点は糧として、さらなる成長につなげていきます。



改めて、チームJAPANのスタッフ、選手の皆様、日本ソフトボール協会、道具提供をしてくださった株式会社ミズノの方々、遠征をサポートしてくださったJTB上田様、現地で主催者とのやりとりや練習等サポートしてくださったボンさんやサンジさん、今大会に関わられたすべての方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



今回アジア女子大学ソフトボール選手権大会にご一緒させて頂く機会を頂き、羽田空港から旅行会社として日本選手団の皆様とタイへ帯同させて頂きました。

日本の大学から選ばれた選手達は礼儀正しくフレンドリーで良い子達というイメージでした。一緒に散歩をしている時に色々と話しかけてくれたり、食事の時に「これおいしいですか?」と確認してくれたり、逆に「これ美味しかったですよ!」と教えてくれる事もありました。「私JTB2になります!」と言ってくれた選手もいました。直前の予定変更があったり中々翌日のご案内ができなかったりとご迷惑をおかけすることもありましたが柔軟に笑顔で対応して下さりひたすら感謝でした。



ホテルで過ごしている時とは対照的に日本チームは本当に強くて練習や試合の時は表情も変わり、やはり大学日本代表に選ばれる子達なんだと感心しました。試合の時はいつの間にか仕事を忘れて声援を送っている自分がいました。一緒に行動しているうちに日本チームの一員として仲間に入れてもらえている気持ちになり嬉しくなっていたのを今懐かしく思っています。同時にあまりにも声援を送り過ぎて色んな戦略の発言を邪魔してしまったのではないかと反省しております。次に機会を頂けたらその辺りを改善していこうと思っております。

選手達もフレンドリーでしたが、スタッフの方々の人柄も素晴らしく随所で「上田さんも一緒に!」とお声がけをして下さり色々なことを共有させて頂きました。その中でも長澤コーチとのキャッチボールや練習中の球拾いを皆さんとしたこと等、数えるとキリがない位楽しく過ごす事が出来ました。選手達のユニフォーム等の洗濯へ行く際はできる限り私に重い物を持たせないようにご一緒して下さい「これは重いので大丈夫です」と持っして下さい、こちらが恐縮してしまう程のお心遣いを頂きました。佐藤チームリーダーや木田監督もランドリーへご一緒することになった時はビックリしてしまった事を覚えております。

日本チームのリエゾンについてくれたポン君とサンジ君も本当に良い子達で、タイの協会との架け橋を立派に務めてくれました。ポン君はタイに留学中の日本人という事もあり日本人の気持ちを理解して色々な事を進めてくれて本当に感謝しています。

選手達の頑張り、チームリーダーの全体を見た上での雰囲気作り、監督の采配、コーチやトレーナーの方々の気遣い、リエゾンの子達の協力等色々な方の色々な事が合わさって今回のアジア大会優勝という栄光を手に入れたと思います。私もその一員に入れた事をとても嬉しく、誇りに思います。

私自身はソフトボールに精通しているわけではないので専門的な事は言えませんが、選手達の姿勢とスタッフ陣

の雰囲気作りを体感させて頂き、今回9日間皆様とタイにご一緒できて本当に感謝しておりますし、これからもソフトボールの応援をしていこうと思っております。色々な思い出をありがとうございました。



第3回アジア女子大学選手権に参加しての感想

リエゾンスタッフ（通訳）：濱崎 駿平

私は現在タイのチュラロンコン大学に留学しソフトボール部員として活動している。タイソフトボール協会に関わる機会も多く、今大会は女子大学日本代表のリエゾンスタッフとして主に大会本部との連絡や通訳を行った。

日本代表に同行したのは一週間だが、その期間で日本代表の凄さを幾つも感じた。

その一つが、勝つための考え方・準備・マインドセットである。準備に関して、日本代表は今大会で最も早く会場入りしていた。気候に対する慣れはもちろんだが、予め芝の特徴や球場の向き等を把握して準備する目的も大きい。今大会の会場はラグビー場に球場を特設する格好であったこともあり、陽の差し方、打球の跳ね方、足への負担、ネットまでの距離、あらゆることが日本と異なっていた。そうした条件を細かく把握し、起こりうる事を想定し対策を打つ、本物の「準備」を目の当たりにした。

マインドセットについては、初日の会議で佐藤チームリーダーが共有した逆境時の考え方や、木田監督がイニング前に選手へ共有する試合運びの考え方など、私にとってはどれも金言であった。

もう一点この大会で実感したのが、日本のソフトボールがアジアに与える影響だ。タイでソフトボールをしていると、あらゆる点で日本を模範としているのがよく分かる。例えばタイ代表のプイ監督は代表選考会のとき、普段から日本のソフトボールを意識して指導していることを明かしてくださった。アメリカのような体格の大きな相手に勝てる日本の戦法や練習法、人間的成長や社会性を身につける手段としてのソフトボールなど、日本のソフトボールをそのままタイの理想像としている部分も多いようだ。

そんな日本のソフトボールを代表してやって来た大学代表は、他国チームから非常に注目を置かれていた。日本の試合には他国チームの見学も多く、プレーの度にコーチが自国選手へ一生懸命解説していた光景が印象に残っている。

また、プレー以外の部分についても日本代表は際立っていた。実際、通訳をしていた私に対してタイソフトボール協会の方々、現地スタッフ、タイ代表選手、バスの運転手など沢山の方が、日本代表の振る舞いの良さを称賛しに来たほどだ。他者に対する気持ちの良い挨拶、愛想の良さ、練習時に整頓されたバッグ、きびきびとした動きなど、様々な点が挙げられていた。木田監督が大会前にサッカーW杯での日本サポーターの行動を例に挙げ、プレー以外の部分の大切さを伝えていたが、現地の方の反応を見る限り、大学日本代表はそれをしっかりと体現していた。

そんな日本代表はスーパーラウンドまでの全試合をワンサイドゲームで進め、圧倒的な力を見せつけていた。しかし決勝の中華台北戦はタイブレイクまでもつれ込み、最終的には1点差、ヒット1本が出るかの差で勝利し優勝が決まった。ほんの僅かの差であるが、入念な準備や普段からの細かい気配り、苦しい展開での心構えなど、日本代表がこだわってきた点が集約されて勝ち取った優勝であった。

一週間の短い同行ではあったが、アジア全体のソフトボールを引っ張り、発展に貢献する日本代表の姿を見た。この大会に日本が参加している意味の大きさを感じ、今後更なる活躍を一ファンとして応援したいと思った。



今回、大学日本代表として、初めての国際大会を経験させて頂きました。ソフトボールを通じて様々な国との交流ができすごく貴重な経験をする事が出来ました。

私は内野手（セカンド）と外野手（ライト、レフト）として試合に出ました。全体で連携を合わせる期間が少なく内野での連携に不安がありましたが、周りの選手のレベルが高く短期間で合わせることが出来ました。また、間が短い中で順次に判断したり、会話をしたいときに直ぐにアイコンタクトを取りながら会話が出来たりと、とてもプレーをしやすかったです。



外野手では、あまり経験がない中での試合だったため少し不安がありましたが、大きなミスをする事も無くこの大舞台で内野だけでなく外野もさせて頂けて貴重な経験をする事が出来ました。

打撃では、私自身ホームランを打つバッターではない為、コンパクトに間に打つバッティングを意識して打ちました。自チームでも掲げていたチームバッティングの部分では、進塁打の場面でフライを上げてしまうなど課題も残る試合でした。スタッフの方々も、選手がソフトボールに集中できる環境作りや、練習のサポート、試合では一緒になって戦うことができ素晴らしい環境の中プレーをする事が出来ました。ミーティングの内容も、国際大会を経験してきた中での話も聞くことができ、一つ一つが私たちの参考となる内容で沢山のことを学ぶ事が出来ました。

また、日本は他の国と比べて道具や、ソフトボールの技術が発展している事や、素晴らしい指導者の下ソフトボールが出来ている事に感謝しなければいけないと再確認することが出来ました。現在ソフトボールの人口も減っている為、今回、国際大会を経験し身をもって感じた私たちが率先して普及活動にも力を入れていければと感じました。他国からの刺激をもらえた事もそうですし、勝敗はもちろんの事、日本の仲間からも沢山のことを学びさらに上を目指していきたいと強く思いました。

そして、今回大学日本代表に選ばれた4年生は今年からJDリーグでソフトボールを続けます。今回チームメイトとしてソフトボールをできたことは、これから続けていく上で大きな財産・糧になると思います。こんなに素晴らしいレベルの高い同級生と一緒にソフトボールをできた事凄く嬉しく思います。

今回大学日本代表に選ばれて、アジア1位を取ったことに満足せず、今年からまた新天地でのソフトボールになるので新人らしく、初心を忘れず貪欲に更に上を目指し精進していきます。

今回、国際大会を経験させて頂いたので、この経験を後輩たち、又は、これからのソフトボール人生に活かして周りに伝えていきたいと思います。今大会本当に、多大なる応援、ご支援の程ありがとうございました。関係者の皆様のお陰で、アジア1位という、このような結果を残す事が出来ました。



今回は女子大学日本代表に選んでいただき、ありがとうございました。

私自身初めて代表に選ばれて、初めて国際大会に出場することができ、とても充実した10日間となりました。日本チームには私以外にいいピッチャーがいるのに、大事な初戦と決勝戦に先発を任せていただき、とてもうれしかったです。ですが、決勝戦では自分の持ち味を生かしたピッチングができず、不甲斐ない気持ちでいっぱいです。国際試合で堂々と投げられるメンタル、決勝戦の独特な雰囲気の中、自分のピッチングができる。この2つを私が小さいころからずっと最前線で活躍されている、上野さんはどのような気持ちで挑んでいるのだろうと考えさせられました。インカレではたくさんの緊張する場面、苦しい場面を経験してきましたが、その時とは比べ物にならないぐらいの緊張感でした。この緊張感を今回経験させていただけたのは、自分の中で大きい成長、また新しい道へとつながっていくと思います。もっともっと国際大会で投げてみたい、でもまだまだほかの選手に比べたら何もかもが足りない。そう感じられたことがこの大会に参加してすごくよかったと思います。



他のアジアのチームの選手は、純粋にソフトボールを楽しんでプレーをしていました。私は、年を重ねるごとに勝つことばかりに意識がいき、小さい頃のただ楽しくて、いっぱい上手になりたい、ソフトボールが大好きという気持ちをどこかで忘れていたのかもしれないと思いました。つらいことやうまくいかないことがあっても小さい頃の純粋な気持ちを忘れずにソフトボールと向き合い続けていきたいとあらためて感じました。また、日本と比べてアジアのソフトボールはまだまだ発展しない中で、日本のスタッフ陣が試合終わりに講習会を開くなどアジア全チームでソフトボールを発展させようとしているのにとっても感動しました。実際に他のチームでは日本人の方がコーチとしてチームを引っ張っていて、自分の現役生活が終わっても、こうしてソフトボールに携わり、ソフトボールという競技を活性化させようと努力されている姿はとてまかつよかったです。私の現役ソフトボール人生はまだまだ続きますが、将来こうして自分の大好きなソフトボールを世界で教えたいと思いました。そしてソフトボールの活性化につなげていきたいです。

今回の大会を通していろんなことを学び、自分の今後の課題も見つけることができました。この経験ができたのは当たり前ではなく、選ばれた16人だけができたことで、この経験を生かして私たちはソフトボール界を引っ張っていききたいと思います。

また、代表として国際大会に出場することができるように自分のプレーに磨きをかけて、J Dリーグを盛り上げていきたいと思っています。

今回は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。スタッフ陣の支えや日本ソフトボール協会の支えがあったからこそ掴めた金メダルだと思います。この経験を自分のソフトボール人生につなげていきます。ありがとうございました。



私はアジア女子大学選手権大会を通して、改めてソフトボールの楽しさを感じ、またそれと同時に日本の技術の高さを身に沁みて感じることができました。いつもは違うチームで活躍されている方々と同じチームで一緒にプレーできることはレベルが高い中で安心感があり、とても頼りになるチームだと感じました。短期間のチームではありましたが、チームワークもよく、チームの誰かが打ったり抑えたり、活躍すると全員が喜んでいて、私自身も自分のことのように嬉しかったです。チームの目標の優勝のために、チームのために打ちたいと思えたチームでした。また、各大学の選手や先生方が集まってできたチームでもあったので考え方や戦略が自チームとは違うところがあり、技術だけではなく新しい知識も得ることができました。



私自身代表に選んでいただいて、海外で他国と試合をすることが初めてでした。実際のタイのグラウンドは全面芝生で普段内野が土で行っている日本とは全く違うものでした。プレイスタイルもそれぞれの国では全く違い、すごく自由さを感じました。ある国ではエースの方が家庭の事情で参加できないということを聞きました。ボツワナの海外派遣の話聞いたことがあります、実際に海外に行くことで環境面や金銭面でソフトボールが十分にできていないことを身に染みて感じました。それと同時に日本ではとても環境に恵まれていること、海外になるタイでの試合でも現地での練習期間や環境に慣れる時間があったり、食事、衛生面に気を配っていただいたり、たくさんの支援をしていただき、私たち選手はソフトボールだけに集中できる環境となっていました。その時は試合や現地に慣れることでいっぱいだったので改めてこのようにして振り返るときに感じることができました。私たちはこの大会を通して学んだことを自チームに還元し、今年はライバルとなるこの大会のチームメイトと一緒にインカレを盛り上げる存在になることができるように頑張りたいと思います。

現在ソフトボール人口は減少してきており、熊野キャンプや、和歌山のソフトボールクリニックではリーグの最高峰の技術を持った方や指導者の方が普及活動を行っています、その活動に積極的に参加して日本のソフトボールができる環境の良さや技術の高さを伝えていけたらいいなと感じました。

最後にたくさんの方々の応援やサポートがありアジア選手権大会に参加させて頂き、無事優勝することができました。また、チームリーダーの佐藤さんや監督の木田さんをはじめとしたコーチの方々やチームメイトから良い刺激をもらうことができました。この出会いに感謝してこれからのソフトボール人生に繋げていきたいと思っています。



私は、アジア女子大学選手権に参加して、ソフトボールの楽しさを改めて感じた大会だった。国際大会に初めて参加して、日本以外のソフトボールに触れ、世界のソフトボールはまだまだ普及されてないと感じた。ソフトボールをもっと世界に広めていきたいと強く思った。なぜなら、韓国や台湾は、日本との交流も多く戦略も日本と似ている部分があり、ソフトボールが普及しているが、今回の主催国のタイでは、ソフトボールはマイナースポーツなこともあり、日本のような球場はなく、ラグビー場で試合を行ったためソフトボールの普及活動を行うべきだと感じた。また、試合会場は、全面芝生だったため外野は、芝生での試合もよくあるので対応しやすかったが、内野は、土でプレーすることが多いので難しそうだと感じた。今大会で、仲間の活躍に全員が喜び、勝つために何をしなければならないのかを個人が考えられていたからこそ、ソフトボールの面白さ、楽しさをとても感じた。



選ばれた16人は、個々の能力が高くとても頼りになる選手だった。また、自分の調子が悪くても、フォローしてくれる仲間がいるからこそ、思い切って自分自身のプレーをすることができた。短い期間の仲間達でも、コミュニケーションを取る大切さに気づき、仲間と支え合い勝利に向けてチーム作りをすることができた。

私は、長距離バッターではないが、他の選手を見て身体の使い方やボールの捉え方を学ぶことができた。対戦相手がどんなピッチャーなのか、どのようなバッティングをしてくるのかわからない中で、その場に応じて判断をし、試合をしていく上で対策を取る難しさを感じた。

監督が、「機動力を使っていく。」と掲げていたので、チームの中で役割がはっきりし、私らしい攻撃や守備をすることができた。

精神面で、他の選手よりマイナス思考になっていたもので、自分の調子が良くなくても切り替え、チームのために私のできることを考えて行動する大切さを改めて感じた。

チームで戦っている中で、失敗したとしても次どうするかを考え、全員と情報を共有し早い段階で対策を実行することが大事だと感じた。全員を信じてやることを韓国戦と決勝の台湾戦で強く感じた。

今大会では、人数が少なく大学のように場面に応じて代走や代打を出すという戦略で戦うことができないため、体調管理は勿論のこと、体力面や試合後のアフターケアの大事さを実感した。この経験を、これからのソフトボール人生に活かしていき、私のレベルをもっと上げていきたいと改めて思った。

今回の選ばれた選手たちとソフトボールをすることで、違う視点で考えることができるようになった。今後さらにソフトボールが普及し、私が感じている「楽しい」や「感動」を伝えられるように練習に励んでいきたいと思った。



まず初めに、今回このようにコロナウイルス感染症が流行している中で大学生の中で代表に選ばれ、ソフトボールで日本を背負い海外の交流の一つである選手権大会に行き結果を残せたこと、とても嬉しく思うと同時に感謝の思いでいっぱいになりました。私は今回の大会や国際交流を通して大きく分けて三つ思うことがありました。



一つ目は「ソフトボールを出来ることが当たり前ではない」ということです。一見するとすごくありきたりに感じますが、こうして大学に通いながらソフトボールをしたい時にソフトボールをしてつかいたいものを使ったり、指導を受けたりする事が簡単にできなくて恵まれていることなのだと改めて思いました。また今回の遠征では代表であるからこそ沢山の他意を知ることができたり学べました。これらを自身の経験やより沢山の選手に伝えていきたいと思っています。

二つ目は「環境や状況にタフになる」ということです。普段大学生活の中でソフトボールをしている時には、慣れ親しんだ食事に気候、使い慣れていて整っているグラウンドでプレーをして自分自身最大限の実力を出せています。ですが、今回の遠征では、グラウンド全面天然芝という初めての経験をしました。

ピッチャーというポジションは繊細でありながら試合では8-9割を握る試合の中で中心となるので初めはグラウンドや天候の変化に左右され本調子を出せるまでに時間がかかりました。今回良かったとは言える内容の試合がスタートで切れず少し悔いが残っています。改めて、結果やチャンスをものにするためにはどんな環境や状況にも対応できるタフさが必要になるのだと感じました。誰でも体験できることではないことを経験させて頂いたので、このような経験をタフになるための対応力の一つとして沢山の出来事の引き出しを作っていきたいと思っています。

三つ目は「話すことの大切さ」です。今回の遠征の為に集まり普段はライバルとしてプレーをしている選手たちとチームになり大会で戦うためには短期間でお互いを知って理解しなければならないし、細かい各々の特徴はあまり知らない状態でそれでもチームを一つにしなければいけないのだと思います。普段の大学のチームでは時間もありプレー数を重ねることで感覚などを合わせていくのですが、この遠征では自分自身から自分のことについて相手に伝えることがすごく重要でプレーをするたびに会話をしていました。だからこそ短期間でも一つのチームになれたのだと思います。

最後に、大学のカテゴリーでアジア大会が優勝と言う結果を残せていないと、それを背負ってタイでの大会であらたな成果を絶対的に残すと思い挑んだ最終戦の大事なところで緊張感よりチームで戦える楽しさを感じながらプレーできたことで改めてソフトボールの素晴らしさを実感できました。また、保護者や予選で戦ったチームからの声援、沢山のサポートによってソフトボールを行えているのだとおもえました。心から感謝し今回の大学アジア選手権をこれからの自身の経験にして、より一層飛躍できるように精進していきたいと思っています。



今回の東アジア大会は、タイで開催されました。タイと日本では気候や、食事、グラウンド状況、生活環境、道具の管理の仕方など、日本とは大きく異なる部分がありました。

私がその中で一番苦労したのは気候です。大会は、12月に開催され、日本の気温とタイの気温は約30度ほどありました。私は東北に住んでおり、夏場では関東や愛知との気温差を感じることはありますが、30度の寒暖差を経験するのは初めてでした。ジメジメとしている気候、日差しの強さは日本では感じることはないものでした。また、会場が芝ということもあり、地面からの照り返しがあり、体感温度が高かったと感じました。短い大会期間の中で、熱中症にかかってしまったら自分のパフォーマンスを発揮するどころか、試合にも出ることができません。なので、水分をしっかりと取ったり、日陰で休んだり、プールでクールダウンを行ったり、体調に合わせながら大会前に調節を行いました。また、食文化も日本とは異なり、匂いや、香辛料がきつく、食べることができないものが多くありました。食べることができるものを選択しながら、栄養不足にならないように注意し、体調管理することがとても難しかったです。



ソフトボールの技術以外に気を配る部分が多く、国際試合の難しさを痛感しました。その中でも、ソフトボール協会の方が、日程を調節して下さりヘッドコーチの木田さんをはじめ、スタッフの方々の手厚いサポートがあり、調整期間の中でタイの気温や食事に慣れ、大会に臨むことができました。大会中も、四日間で7試合とハードなスケジュールでしたが、水分補給や、クールダウンを行うことで、体調不良者を出すことなく、全勝で優勝することができました。

7試合を通して、試合を行い、感じたことは国内試合との雰囲気の違いです。私は、国内で試合をしている時は、結果に囚われてしまうことが多く、緊張してしまうことがあります。しかし、海外の選手の方々は、笑顔で、純粋にソフトボールを楽しんでおり、その姿に感銘を受けました。これからの試合の中で、ピンチになったり、緊張したりする場面が必ずあると思います。その中でも、純粋にソフトボールを楽しむことを忘れずに試合に挑んでいきたいと思いました。

今回、大学ソフトボール日本代表に選出していただき、ソフトボールの技術や、海外の文化に触れることで、たくさんの学び、とても良い経験をすることができました。この経験を活かし、国内試合で活躍することがサポートしてくれた方や、応援して下さった方への恩返しになるとと思います。なので、これからより一層練習に励み、努力をすると共に、活躍した姿をお見せできるように精進していきたいです。



今回のアジア選手権を通して、ソフトボールの奥深さを改めて知ることができました。今まで一度も話したことの無い人が大半の中で10日間という短い期間でしたがチームとなり、衣食住を共にしました。その中で、一人一人のソフトボールへ向き合う姿勢や価値観を知り、自分には気付くことの出来なかった視点も多くあって刺激をもらえる場所になりました。



タイへ行ってみると、日本とは違って気温も高かったり、食べ物の面でも慣れないことばかりでしたが、選手同士で協力し試合に向けて万全の準備をすることを心掛けました。練習では、慣れないグラウンド状況、限られた時間の中で個人技術の調整やフォーメーションの確認、連携プレーの確認等を行い、全員が納得いくまで詰めて練習することができました。

実際に試合期に入ると、16人全員が試合の当事者でどう試合に関わるかなど個人の役割の部分でもチームのためにと、沢山考えながら試合をしました。試合の中では、誤審や日本の審判との違いも大いにありましたが、日本らしい攻撃的なバッティングとピッチャーを中心にしっかりと守り、良い試合展開で勝つことができたと思います。決勝戦は、自分たちのミスで相手にチャンスを与えてしまう場面が多く、タイブレークという苦しい展開ではありましたが、チームとして最後まで諦めず、粘り強く戦うことができていたので、最後に勝ち切ることができたと思います。

アジアの国と対戦してみて、レベルの差が激しいと感じたり、ソフトボール自体がまだそこまで浸透していないことを肌で感じました。全面芝のラグビー場で試合をすることであったり、国際大会であるのにも関わらず、正式な距離を取れていないという面からもソフトボールというものが普及していないと感じたり、他国の使っている用具を見ても日本がどれだけソフトボールが発展しているのかということもわかりました。

2020年のオリンピックでは、日本開催であったため、ソフトボールの種目は開催されましたが、ソフトボールがあまり発展していない国で開催となると除外されてしまう可能性が高く、今の状態のままでは除外されてしまう可能性が高いなと思いました。そうならないために、私たちがどう行動するかが重要で具体的に考え、実行することが必要と感じました。

日本の国でもソフトボール人口が減少しているという状況なので、第一に日本のソフトボール普及に努めるべきだと思い、ソフトボールをやったことの無い小さい子から対象に少しずつ触れ合う機会を作って楽しいと思ってもらうことが私たち競技者の役割であると今回のアジア大会を通じて考えることができました。このような考えを持ちながらしっかり行動に移すことも忘れず、今は競技者でこれからもソフトボールを続けるにあたって、今回感じたことや学んだことを活かしていけるようにしたいと思います。



第3回アジア女子大学選手権大会を終えて、まず優勝出来たことが何より嬉しかったです。私自身ソフトボールを何十年続けてきましたが、大きな大会で優勝したことがなく、決勝戦での独特の雰囲気や優勝した際のあの喜びは今までに感じたことのない嬉しさや感動を肌で感じました。この大会で、私が勝利の為に何が出来たのかと言われれば特に結果も出ず貢献できたかは分かりませんが、レベルの高いチームの一員としてソフトボールができたことに感謝の気持ちと誇らしさを今終わってみて思います。



大学4年間佐藤先生が監督でしたが、他大学の先生から話を聞くことで今まで私自身の中に無かった考え方が新しく学ぶ事ができ、そういった考えで行っていたのかと毎日毎日発見出来ました。又、他のチームの選手と一緒に試合を行ったり、練習をする中で人それぞれに特徴があり、考え方があります。その考えを練習中に聞いたりすることで、そんなことを考えていたのかと私にない考え方をしていました。技術的なことやソフトボールに対しての考え方は人それぞれあると思いますが、こういった機会がなければ聞けなかったことや、交流できないであろう選手と交流出来たことは、これからのソフトボール人生に大きな物となり財産になりました。私は、人と交流することが苦手で仲良くなるまでに時間がかかる為本当にこういった機会があつて良かったなと感じました。

タイでの生活を振り返ってみると、第一に環境の違いを大きく感じました。日本では当たり前だと思っていた環境がタイでは違い、全面芝という体験したことのない環境でソフトボールをしました。とてもいい経験になったと言われればそうかもしれませんが、小さい頃から当たり前だと思っていた環境は、当たり前ではないということこれから感じながらソフトボールをしていかなければいけないと改めて実感しました。次に、海外の慣れない環境であったとしてもタフになって対応していかなければいけないと感じました。ご飯がどんなであっても、食べれるようにならないと力が十分に発揮できません。どんな国の料理であってもしっかりと食べれないといけないと思いました。又、海外の選手と日本の選手を比べた際に、日本は比較的静かで海外のノリはやっぱり凄いと感じ、ソフトボールを全力で楽しんでやっているなと思いました。いい意味であのくらい楽しんでソフトボールができたならもっとやっても楽しいと感じるのではないかと見ていて感じました。

最後に、この大会に携わって頂いた関係者の皆様に感謝して無事に出来たこと、タイでも沢山の方々の支援のおかげで大会ができたことを感謝して、日本での環境が当たり前とは思わずこれから先ソフトボールを全力でやって行きたいと思います。今回は素晴らしいチームに選出して頂いてありがとうございました。この経験を無駄にせず、これからも頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。



今回アジア女子大学選手権大会に参加し、初めて他国のチームと対戦したり、他国の環境で試合をするということを経験しました。この経験から沢山のことを学び、感じる事がありました。日本の大学の中でも各学校によって戦い方や特徴は様々ですが、他国のソフトボールの戦術であったり、特徴は日本とは全く違い、国によってレベルの差があると感じました。国によって食べる物や生活リズムも違うので体格や身長の違いもあると感じましたし、1番感じたのは試合前のアップであったり練習の仕方が全然違うと感じました。ソフトボールをする上で、何をポイントとして力を入れて取り組んでいるのかということも違うというのを目で見て感じました。また、他国の選手と比べると、守備や打撃において基礎基本の部分、安定感や力強さ、動きのスムーズさという部分が日本の選手は優れている、そして高いレベルでソフトボールを行っていると感じました。そして、日本はとても良いグラウンドや設備で試合や練習を行えるという面、機能性の高い道具を使用することが出来るという面でも恵まれた環境でソフトボールが出来ていると感じました。



私が今回の大会で1番印象的だったのは、対戦した国の選手達が試合後の記念撮影の際に、日本の選手に「ナイスバッディング、ナイスピッチング」などという言葉掛けて下さっていたことです。勝敗に関わらず相手のプレーを称える表現であったり、言葉が通じなくてもコミュニケーションを取ることが出来たりと、良い国際交流の場となったと思います。

初めて海外での試合で、気温の差、環境の違い、食事の面、グラウンド状況などと様々な面で日本とは異なることがあり戸惑うことが多くありました。私であれば、タイ料理特有の匂いや味付けが苦手なバランスの良い食事を取ることが出来ていなかったですし、全面芝生というグラウンド環境で試合するということが経験上無かった為、芝生でピッチングをする難しさや修正力の無さにも気付きました。日本とタイの気温差で思っているより体のキレがなかったり、疲れが抜けなかったりということもありました。まだまだ自分には対応力が無いという風に感じた遠征でした。またスタッフの方からも、どんな環境の中でもタフに戦える選手が一流の選手というお話もありましたが、どこでいつ試合をするとなっても自分のベストパフォーマンスを出来る準備やイメージトレーニング、コンディショニングということは勝つ為に重要となると改めて感じました。

年々、ソフトボールの競技人口が減ってきているとよく耳にしますが、世界にこんなにも沢山の人がソフトボールをしているということを目で見て実感したことで、もっとソフトボールが発展していき競技人口も増えていければ良いとより強く思いました。どのようにしたらソフトボールの魅力や楽しさを伝えられるか、どれだけ興味を持ってもらえるか、競技人口や愛好者を増やすことが出来るかということにも今後、目を向けていけたら良いと思いました。楽しさや魅力というのは、競技をしている私たちから伝えられることだと思うので、私たち自身がソフトボールを楽しみ一生懸命プレーする姿を見てもらえるように努力していきたいと思います。



今回の遠征や大会だけに限りませんが、ソフトボールが出来るのは沢山の方の努力やサポートがあってこそだと思うので、感謝の気持ちを忘れず、大学の代表として行かせて頂いたことに誇りを持ち、大学ソフトボール界を引っ張っていきたいと思います。そして、自分自身の不足している所や課題が見えた大会だったので、上を目指して継続して努力していければ良いと思います。

今回、大学女子日本代表としてアジア大学選手権大会に参加させて頂き、まず日本のソフトボールの環境は素晴らしいと感じた。

初めて全面が芝という所でソフトボールをして、守備の感覚など全て含めて初めての体験であった。その中でも、私たちに不自由が無いようにと多くのサポートをして下さった現地の方や関係者の方には感謝しかない。



またアジアのチームの中で、日本人の方がコーチや監督をされているチームが複数あり、繋がりがなくとも、とても関心を受けた。ソフトボールの競技人口が減っている中で、他国のソフトボールの強化に携わり、国の代表の指導者をしているというのは見習いたいと今回の大会で感じる事ができた。選手としては、優勝できたという喜びと自分自身の未熟さを改めて感じる10日間になった。決勝戦はかなり苦しい試合展開で、あまり感じていなかった緊張感がとてもあり、心に刻まれる試合だった。

終盤でのチャンスの場面で回ってきた際、とても多くの方々の声が耳に響き、何としてもこのチャンスを返したいと思ったが、結果は見逃し三振だった。悔しさと同時にもっと強くなりたいと感じた瞬間であった。

またタイブレークの場面で、失策してしまったが、後ろからは「ナイスライ」「次も引くなよ、出て来い」といった声が聞こえてきて、切り替えることが出来た。

代表として、大学や国を背負っているからには自分自身のプレーに一喜一憂してはならないし、責任・自覚を持って、フィールドで体現するべきだと実感した。

先輩方は、大学は違うが、多くの経験をされてきて、同じソフトボーラーとして多くのことを教えて下さった。プレーや振る舞いなど全てが自分自身の憧れになり、自分のなりたい選手像がより明確になった期間でもあった。10日間という短い時間の中で、コミュニケーション、プレーの連携を取るのとは容易なことではなかった。だが、会話をしないと分からなかったことや会話したから取れたアウトなどがあることで、コミュニケーションの大切さを改めて感じる事が出来た。1人では出来ないスポーツであるからこそ、コミュニケーションをとり、束になることでそれは強いものになるのだと感じた。自チームでは感じられないことや、体験できないことをトップレベルの代表チームでは感じられた。

また、スタッフさんからのお話でも心に刻まれることが多くあり、自チームに持ち帰り、還元したいと思った。どのレベルであっても、やるべき事は変わらず、何が大切であるかを痛感した。

今後、大学ではあと1年間になるが、今大会で学んだことを活かし、更にレベルアップした姿を代表のチームメイトやスタッフの方に見せられるように精進していきたい。今後の大学ソフトボール界や大学を卒業しても上を目指し、ソフトボールを盛り上げていける人でありたいと思う。

今大会や活動を通して学んだことを今後の競技人生に繋げていけるよう、このような社会状況の中でも支援して下さい下さった方々、大会を開催・運営して下さい下さった方々への感謝を忘れずに精進していく。



<アジア女子大学選手権大会で感じたこと>

日本体育大学 舟阪 育枝（#4）

アジアカップに日本代表として出場させて頂き海外のソフトボールに触れることが出来、ソフトボールの魅力を改めて感じる事が出来ました。簡単には出来ない貴重な経験をさせて頂き沢山の感情に出会いました。

まず、グラウンドが土ではなく、全面が天然芝という初めての感覚で試合をしましたが、ソフトボールが出来る事が当たり前ではなく、どんな環境であっても試合が出来ることや、レベルの高いメンバーと一緒に戦えることに喜びを感じました。また、日本はグラウンドが沢山あり、良い環境で試合や練習が出来ますが、今までは当たり前感じていたのでこういった経験が出来て良かったと思います。これからはソフトボールをする環境が整っているということを当たり前だと思わず、ソフトボールに向き合っていくことが大切だと思いました。食事の面でも日本とは違った味の料理が並んでいて最初はどんな味がするのか怖い気持ちが多くありましたが、食べられるものを選んで体がベストコンディションになるように自分で調整する力も大事だと感じました。ですが、海外に来ているのでその文化に触れて楽しむこともその国に慣れるという面で大切なことだと思いました。その国に少しでも慣れることで自分自身がリラックスすることが出来ると思います。いつもと違う食事をして体を壊してはいけませんが、少しずつタイのことを知った上で試合をすることも勝利に繋がるのではないかと感じました。

試合をさせて頂き、海外のチームはソフトボールをすることに対してとても楽しんでいるように感じました。技術やレベルなど関係なしにソフトボールに向き合って全力で楽しんでいるところを見て、私たちも初心を忘れず楽しんで試合をすることが周りの人に勇気を与えられると感じました。ソフトボールの魅力を沢山の人の人にも知ってもらうためにもプレーをしている人が楽しく魅力を感じながらやる事がとても大切だと思いました。海外のチームは、点を取ったときはもちろんですが、一つアウトを取ることや、良いプレーをしたとき、嬉しいという気持ちを前面に出していました。日本も見習わなければいけないところだと感じました。

アジア女子大学選手権大会に出場させて頂き、沢山の人の支えや応援があったから自分たちがソフトボールに向き合える環境が整っていたのでとても感謝しています。この大会でより強く感じたのは、海外のソフトボールをする環境が十分に整っていないことだったので、海外のチームに日本人の指導者が何人かいらっしゃるのを見てソフトボールを発展させるために活動されていることを知り、私も何かの形でより沢山の人の人ソフトボールの魅力を知ってもらいたいと感じました。今回感じたことをこれから活かしていきたいです。貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。



今回、日本代表としてアジア大会に参加させて頂き、感じたことは大きく二つあります。一つ目は、私が思っていた以上に世界は広いということです。これまで日本という一つの国の中で、一番を目指してソフトボールをしていましたが、それはとても狭い世界のことであって、まだまだ知らない世界があるということを実感させられました。実際にアジア圏の国と試合をしてみて、戦術や戦略の違いを感じるとともに、日本との力の差を正直感じることも多かったです。ソフトボールは、日本の中でもまだまだマイナーなスポーツですが、海外ではもっとマイナーな競技で普及していないのだということを知りました。



日本では現在、ソフトボールが2028年に開催されるロサンゼルス五輪で追加種目入りするために様々な活動がなされていますが、今後五輪にソフトボールを復活、正式種目として残していく為には日本国内にとどまらず海外への普及活動も展開していくことが非常に重要だと思いました。私は、ソフトボールの現役を終えたのち指導者という道に進みたいと考えていますが、シンガポールや韓国チームで日本人の方が指導をされているのを実際に見てその思いはより一層強くなりました。日本国内でのソフトボール人口を増やし、またレベルアップをはかることはもちろん大切ですが、海外の人たちにソフトボールの楽しさを伝え、ソフトボールを思い切って行える環境をつくっていくことが出来ればもっとソフトボールが広がるのではないかと思います。

また、これまで当たり前のように練習していた土のグラウンドも、ボールやバット、グローブも、海外では当たり前にあるものではないということ、すぐ近くにレベルの高い選手や指導者の方がいて様々なことを学べるということなど、ソフトボールに熱中出来ること自体が幸せなのだと改めて感じる事ができました。

二つ目は、ソフトボールの奥深さについてです。これまで様々な指導者のもとでプレーをしてきましたが、今回素晴らしいスタッフの方々や自分よりももっとレベルの高い選手に囲まれてソフトボールが出来て、本当に沢山のことを学ぶことができました。自分の考え方とは全く別の考えを持っている選手や、自分にはない技術を持っている選手がいて、とても羨ましく感じましたが、周りにそういった選手がいればその選手のいいところを盗み、自分自身のスキルアップにつなげていくことができると感じました。レベルの高い選手の中でソフトボールをすることにより、自身の際限ない向上心に繋がられると確信しました。また、ソフトボールというのは、基本は同じでも戦い方は一つだけではなく、様々な要素が絡まりあって勝ち方にも色々な方法があるという事を感じ、ソフトボールに正解はない。だから面白いのだと改めて実感しました。

日本代表というのは誰もが経験できるものではありませんが、今回私はこうして選んでいただいて多くの事を学ぶことができました。この経験を新たなステージに繋げていき、そしてさらに上を目指して精進していきたいと思います。



私は初めて日本代表という大きな舞台で戦うことができ、本当に色々な経験が出来ました。他チームの人と1つになって短期間ではありましたが試合が出来て本当に良かったです。

私がこの日本代表で学んだことが2つあり、1つ目は環境に合わせて自分のコンディションを整える難しさです。日本と真逆な天候であり、とても暑くて汗をかくことが多くて水分を奪われ体力がどんどんなくなっていっていきことが試合期間でも何度かありました。夏は水分を多めに取らないといけないことはわかっていましたがそれでも体の中の水分は少なくなっていて、暑い中でも戦える自分自身の体をしっかり作っていくことがとても大切なことだと分かりました。試合が多くなってくるのは春から夏の期間なので夏バテせずにタフな選手が結果を残せると感じました。また、食事の面でも日本とは大きく違って味付けや、ホテルでも同じ料理がずっと出ている形であったので自分で栄養を考えて食べるようにしていました。

思ったよりも思うようにご飯を食べることができず、果物や持ってきたスープで何度かお腹に貯めていました。水分も水道水は飲めない状態だったのでペットボトルをずっと飲んでいる形でした。でも初めてのタイ料理は美味しかったです。

2つ目は日本のチームワークの良さです。先輩方がとてもチームを盛り上げて下さり、練習でも試合でも気を掛けて下さり、とても安心するチームでした。一人一人の力は高く練習に対する気持ちや考えはすごいと思うことが何度もあって、バッティングにしても様々な練習方法でやっていてとても学ばせてもらうことが多くありました。1試合1試合ほんとに楽しくてこの人なら打ってくれる、この人なら捕ってくれるという信頼がすごくあり、ランナーが出てピンチになった場面でも絶対大丈夫と思えるような雰囲気がずっとありました。

特に決勝戦は1度対戦している相手でピッチャーやバッターの特徴もわかっている中での試合ではありましたが、タイブレークまでもちこんでしまった時でもチーム一丸となって戦うことが出来、アジア1位を掴み取る事ができました。

また、日本代表のスタッフの方々の多くのサポートのおかげでこのような貴重な経験が出来たと思います。他チームの監督さんとはあまりお話することがなく、このように同じチームで色々なお話ができて本当に良かったです。本当に短い時間ではありましたが今までに無いくらいのソフトボールの楽しさを学ばせて貰うことができました。他国と試合をしたり、全面が芝で試合をしたりと何事も自分にとって初めてのことばかりで不安も多くあったのですがそれ以上に自分にプラスになることがありました。まだまだソフトボールは世界中には広まっていないと思うし、力の差があると感じ、もっと普及すればソフトボール人口も増えて色々な地域で試合ができる

なと思いました。なので、日本だけでソフトボールを普及させることも大事なことだけど世界に広まって行けばいいと思いました。

来年もまだ大学でソフトボールができるので今回学ばせて頂いたことをチームに伝え、ソフトボールを楽しんで行くことをもう一度考えてやっていきたいと思います。

本当に様々なことを経験させて下さりありがとうございました。



新型コロナ感染拡大懸念の中、大会参加のためのチーム運営にご尽力いただいたスタッフの方々を含め関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

私自身、代表選手としてプレーできることが初めてで、選出していただいたときは夢のようでした。合宿初日に木田さんからキャプテンとしてご指名をいただき、より一層自覚と責任を持ってやろうと心に決めました。不安もあり、至らない点ばかりでしたが、困ったときにはすぐにサポートしてくださるスタッフの方々・仲間に恵まれてやりきることができました。



例年よりは合宿期間が短いと聞き、試合までにチームとして一つになるためにはどうすべきかを考え、一定の人とだけではなく、様々な人との関わりを大事にしていました。ソフトボールの話以外も多くすることで、ソフトボールしているときにはわからない性格などを短期間の中でも知ることができ、コミュニケーションをとることの大切さを実感した瞬間でした。そのためそれぞれの性格に合わせたプラスになる掛け声を心がけていました。そしてみんな自律していることもあり、練習・試合を重ねるたびにチームとして確立していく様子こそ、今大会の中でスタッフの方々がおっしゃっていた「対応力・順応」だなと感じていました。技術だけでなくどんな環境でも結果を出せる選手こそ代表に相応しいのだと改めて知ることができました。

日本よりはレベルの低いチームとの対戦もありましたが、楽しそうにソフトボールをしている彼女たちの姿に初心を思い出させてもらいました。また、試合が終わった後は敵とか関係なくソフトボールを通して繋がれる仲間との交流をするような流れに驚き、日本では負けた後に笑顔でいることは暗黙でタブー化されているような風潮があるので考え方が変わる体験でした。

それと私は以前からソフトボールがまだ発展途上である国での活動をしてみたいという思いがあったのですが、今大会を通してより思いが強くなりました。道具も違いがあり、日本で使われなくなったものを回収し寄付を行う活動などをもっと積極的に行うなど、日本のソフトボールをしている人も日本だけではなく、海外の人たちとの交流も含め発展に繋がられるような仕組みづくりなどを考えていけると面白そうだなと感じています。まだまだ明確な形は想像できておりませんが、日本人の方々がそういった活動に参加されているのを間近でみることで良い経験ができましたし、そういった方々と繋がりを持つことができたのも一つ大きなものを得たこととなりました。今後もそのようなことに関しての情報を集め、形にしていけたらと思います。

この貴重な経験を後輩たちに継承し、また私の今後の人生にも活かしていきたいと思います。ありがとうございました。



第3回アジア女子大学選手権大会がタイのパタヤで開催されました。私自身、代表選手に選ばれるのは初めてであり、それと同時に国際試合を経験するのも初めてでした。タイの試合会場に着いたら、全面が芝でした。その中で試合をするのはとても新鮮であり、審判が日本人ではないことや、相手の話している言葉が聞き取れないことなど、初めて感じるものがたくさんありました。一番に感じたことは、日本でソフトボールを行えていることはとても恵まれているということです。何の不自由もなく道具を使い、ソフトボールをするということは当たり前ではないと改めて感じました。そして、アジアの他国を知ること、ソフトボールは世界から見たらまだまだ普及されていないマイナーなスポーツであると実感しました。身近にソフトボールと一緒にやる仲間がいることや、指導者がいること、大会が開催されること、会場があることなど、一つ一つがその国にとっては当たり前のことではなく、価値観も違うものだと感じました。その中でも、試合をしてみれば同じソフトボールをするということに変わりはなく、共通していると感じたこともありました。それは、楽しくプレーするということです。どんな状況でも、仲間と力を合わせてアウトを一つ取ることや、繋いで一点を取ることに変わりはありません。共に戦う仲間と笑顔でプレーすることは世界共通だと思います。そして、それがソフトボールの良いところだと感じます。



国際試合を経験してみても、国ごとの戦い方というものがあると感じました。そして、日本の戦い方というのは何だろうと改めて考えるきっかけにもなりました。まだまだ未熟者の私なので、それを探す段階ではありますが、全力疾走、全力プレー、諦めない姿勢こそが日本を代表する選手としてふさわしいプレースタイルなのではないかと思っています。

これからは、大学ソフトボールから実業団へと進みます。今大会を含め、大学ソフトボールで学んだことは、チームのために自分の役割を果たすことや、諦めない姿勢で応援してくれている人に勇気を与えることの大切さです。これらは、この先実業団へ進んでも、変わらず、ぶらさずにやっていきたいことです。

アジア大会を経験してみても、今ある環境が当たり前ではないことを忘れず、感謝の気持ちを持ち続けながらソフトボールをやっていきたいと改めて思いました。そして、アジアを超え、世界を目指す選手になりたいと思います。

大学生活、最後の試合を最高の結果で最高の形で終えることができ、本当に良かったです。現役中は選手として、引退した後もソフトボールに携わり、ソフトボールの楽しさを世界に広げていきたいと思っています。この貴重な経験を活かし、人としても成長していきたいと思っています。



今回、大会に参加させていただき11日間、実り多き日々を過ごすことができました。遠征序盤の東京での事前合宿ではお互いを探り合いながらの練習や試合となりました。それまでのインカレでどのようなプレーをするか、どんな特徴のある選手なのかという情報はある程度把握していたものの、実際に同じチームでプレーするということになる、やはり最初は考えやこれまでのプレースタイルの不一致から上手くいかないことも多々みられました。しかし練習や試合でのイニングを重ねるにつれ会話が増え徐々にワンチームになっていったように感じました。



ここでの日立サンディーバさんとの試合でバッテリーを中心にお互いにどんな考えをもってプレーしているのか、ワンプレーワンプレーにこだわりを持ち意見の共有が見られはじめとても充実した1日になりました。

タイに移動し3日間の練習を経て大会に挑みました。その3日間の練習の中で特に意識したことは会話を増やすということです。4人のピッチャーがいる中で同じチームの遠藤のことは知り尽くしているものの、飯島、山下、坪野は東京で少し投球を受けただけだった為、大会で勝つためにもっと色々なことを知る必要がありました。ボールをより多く受けどの球種でどのコースを勝負球にするのか、投球の癖、ボールがどのような回転をしているのか、そしてある程度の性格を把握するために会話をするのを徹底しました。短期決戦の中でピッチャーの良さを引き出すためにピッチングを受け様々なケースを想定しながら練習しました。ピッチャー1人1人と話をしていく中で分かったことは全員が自分のピッチングスタイルが確立しておりキャッチャーのサインに頷くだけでなく自らの意思と考えを持っているということでした。これは当たり前のことではなく大学で常に勝ちを掴み取る投手のトップレベルのプレーや考えに触れることができとても勉強になりました。

そしていよいよ大会を迎えました。東京での事前合宿を始め大会に入っても木田監督から配球のことをたくさんアドバイスして頂きました。学んだことを自分なりに整理しながら毎試合挑みました。そして他のチームを寄せ付けない圧倒的な打力と守備力と投手力で決勝に進みました。

相手は台湾で遠藤と先発バッテリーを任されました。ライズ系が得意という情報があった為ベルトより低めを意識して高めは要所で使おうという話し合いを事前に行い挑みましたが中々上手くいかず遠藤の良さを引き出すことができず失点してしまいました。次の飯島も得意の緩急を活かして相手バッターを打ち取ろうとしましたが、配球ミスで打たれチャンスを作られてしまい交代となってしまいました。次の山下は大胆かつ繊細なピッチングが持ち味でタイブレークの満塁のピンチでも堂々としたピッチングでチームを救ってくれました。相手チームがコースを言っていることに気付くことができ良かったです。木田監督から1球1球にアドバイスをしていただきベンチからも沢山の声が聞こえてとても力になりました。その後の攻撃で皆がチャンスを作ってくれてそれまで迷惑をかけてばかりだったので最後をものにでき、チームの勝利につながることができチームの皆に感謝の気持ちでいっぱいでした。試合を終え試合展開を整理し感じたことはやはり自分の力の無さやキャッチャーとしての知識不足や配球の難しさ、仲間の大切さでした。

更なる勉強が必要でありキャッチャーとしてもバッターとしてももっともっと成長できると感じた大会でした。大会参加にあたりこのような社会状況の中で支援して下さった方、現地の方をはじめとする沢山の方の支えがあったことを忘れずに今後も精進したいと思います。特にスタッフの方々は私たち選手がプレーしやすいように練習でのサポートをはじめ試合中もたくさんのアドバイスを常に声に出して下さったりソフトボール以外の面でも私たちに不自由がないようにと多くのサポートをして下さったりと本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

この大会に参加させていただき、改めてソフトボールの面白さや素晴らしさに触れることができました。今後は実業団での就職が決まっていますので、向上心を忘れず自分自身を高めソフトボールと真剣に向き合っていきたいと思います。





回	西暦	元号	開催日	開催地	優勝	準優勝	3位
1	1966	S41	11.03～05	東京都世田谷区	日本体育大学	高崎経済大学	早稲田大学 国土館大学
2	1967	S42	7.26～28	東京都世田谷区	日本体育大学	学習院大学	早稲田大学
3	1968	S43	8.16～18	群馬県高崎市	日本体育大学	国土館大学	学習院大学
4	1969	S44	7.26～28	東京都世田谷区	国土館大学	日本体育大学	早稲田大学
5	1970	S45	11.13～15	大阪府吹田市	日本体育大学	中京大学	国土館大学
6	1971	S46	8.27～29	東京都世田谷区	日本体育大学	高崎経済大学	茨城大学
7	1972	S47	8.17～19	愛知県豊橋市	日本体育大学	高崎経済大学	中京大学
8	1973	S48	8.28～30	群馬県草津町	日本体育大学	都留文科大学	中京大学
9	1974	S49	8.24～26	東京都世田谷区	日本体育大学	中京大学	学習院大学
10	1975	S50	8.20～22	兵庫県姫路市	日本体育大学	中京大学	関西大学 福岡大学
11	1976	S51	8.22～25	広島県呉市	中京大学	日本体育大学	国土館大学
12	1977	S52	7.26～28	三重県熊野市	日本体育大学	福岡大学	中京大学
13	1978	S53	8.15～17	山梨県甲府市	中京大学	日本体育大学	関西大学
14	1979	S54	8.20～23	群馬県安中市	琉球大学	東海大学	京都産業大学
15	1980	S55	8.22～25	石川県金沢市	日本体育大学	京都産業大学	広島修道大学
16	1981	S56	8.21～24	山口県宇部市	日本体育大学	東海大学	広島修道大学
17	1982	S57	8.06～09	福岡県大牟田市	日本体育大学	国土館大学	広島修道大学
18	1983	S58	8.09～12	東京都昭島市	日本体育大学	中京大学	京都産業大学 東海大学
19	1984	S59	8.10～13	静岡県浜松市	日本体育大学	国土館大学	九州東海大学
20	1985	S60	8.24～27	香川県坂出市	東海大学	福岡大学	大阪体育大学
21	1986	S61	8.08～11	岐阜県下呂町他	日本体育大学	福岡大学	京都産業大学
22	1987	S62	8.14～17	山口県宇部市	日本体育大学	国土館大学	東海大学 愛媛大学
23	1988	S63	8.19～22	福岡県大川市	日本体育大学	東海大学	立命館大学 福岡大学
24	1989	H1	8.26～28	千葉県千葉市	日本体育大学	京都産業大学	福岡大学 国土館大学
25	1990	H2	8.17～20	石川県野々市町	東海大学	中京大学	日本体育大学 福岡大学
26	1991	H3	8.09～12	愛知県豊田市	日本体育大学	国土館大学	早稲田大学 神戸学院大学
27	1992	H4	8.07～10	香川県観音寺市他	中京大学	早稲田大学	愛知大学 九州東海大学
28	1993	H5	8.06～09	山口県宇部市	京都産業大学	中京大学	東海大学 山梨学院大学
29	1994	H6	8.19～21	群馬県前橋市	沖縄国際大学	京都産業大学	神戸学院大学 龍谷大学
30	1995	H7	8.11～13	福井県福井市	沖縄国際大学	京都産業大学	日本体育大学 国際武道大学
31	1996	H8	8.08～11	山口県宇部市	立命館大学	同志社大学	中京大学 東海大学
32	1997	H9	8.08～10	鹿児島県桜島町	日本体育大学	関西大学	早稲田大学 沖縄国際大学
33	1998	H10	8.07～09	三重県磯部町・二見町	日本体育大学	東海大学	立命館大学 沖縄国際大学
34	1999	H11	8.08～10	宮城県矢本町	立命館大学	早稲田大学	日本体育大学 福岡大学
35	2000	H12	8.05～07	香川県丸亀市	日本体育大学	東海大学	福岡大学 関西大学

全日本大学選手権大会成績一覧表（男子の部）

回	西暦	元号	開催日	開催地	優勝	準優勝	3位
36	2001	H13	8.09～11	茨城県下妻市	日本体育大学	国土館大学	九州産業大学 神戸学院大学
37	2002	H14	8.10～12	京都府宇治市	日本体育大学	立命館大学	早稲田大学 国土館大学
38	2003	H15	8.29～31	山口県宇部市	日本体育大学	早稲田大学	高崎経済大学 東海大学
39	2004	H16	8.25～29	静岡県富士宮市	国土館大学	日本体育大学	福岡大学 立命館大学
40	2005	H17	9.03～05	群馬県安中市	早稲田大学	国際武道大学	国土館大学 東海大学
41	2006	H18	8.26～28	愛知県豊橋市	国土館大学	中京学院大学	京都産業大学 神戸学院大学
42	2007	H19	8.25～27	京都府舞鶴市	国土館大学	日本体育大学	広島修道大学 中京学院大学
43	2008	H20	8.29～9.01	宮城県東松島市	日本体育大学	国土館大学	熊本学園大学 京都産業大学
44	2009	H21	8.28～30	宮崎県宮崎市	日本体育大学	福岡大学	早稲田大学 同志社大学
45	2010	H22	9.10～12	富山県富山市	環太平洋大学	同志社大学	関西大学 中京大学
46	2011	H23	8.27～29	山口県宇部市	中京学院大学	立命館大学	中京大学 神戸学院大学
47	2012	H24	9.01～03	埼玉県坂戸市	早稲田大学	神戸学院大学	中京大学 九州共立大学
48	2013	H25	9.07～09	大阪府大阪市	早稲田大学	同志社大学	日本体育大学 高知工科大学
49	2014	H26	8.30～9.01	岩手県花巻市	早稲田大学	環太平洋大学	神戸学院大学 関西大学
50	2015	H27	8.29～9.01	三重県志摩市	立命館大学 日本体育大学	中京大学 福岡大学	準決勝戦・決勝戦 雨天中止4校入賞
51	2016	H28	8.25～9.01	鹿児島県南九州市	環太平洋大学	国土館大学	常葉大学 岡山大学
52	2017	H29	9.01～04	岡山県新見市	日本体育大学	国土館大学	関西大学 城西大学
53	2018	H30	9.02～04	石川県小松市	日本体育大学	早稲田大学	中京学院大学 国土館大学
54	2019	R1	8.30～9.01	富山県富山市	日本体育大学	早稲田大学	中京学院大学 国土館大学
選 抜	2020	R2	10.31～11.01	富山県富山市	日本体育大学	福岡大学	国際武道大学 中京大学
56	2021	R3	9.11～9.13	富山県富山市	日本体育大学	福岡大学	中京大学 国際武道大学
57	2022	R4	9.10～9.12	富山県富山市	環太平洋大学	京都産業大学	早稲田大学 岐阜聖徳学園大学

回	西暦	元号	開催日	開催地	優勝	準優勝	3位
1	1966	S41	11.03～05	東京都世田谷区	日本体育大学	日本女子体育大学	東京女子体育大学
2	1967	S42	7.26～28	東京都世田谷区	日本体育大学	東京女子体育大学	日本女子体育大学
3	1968	S43	8.16～18	群馬県高崎市	東京女子体育大学	日本体育大学	大阪成蹊女子短大
4	1969	S44	7.26～28	東京都世田谷区	日本体育大学	東京女子体育大学	武庫川女子大学
5	1970	S45	11.13～15	大阪府吹田市	日本体育大学	東京女子体育大学	武庫川女子大学
6	1971	S46	8.27～29	東京都世田谷区	東京女子体育大学	日本体育大学	武庫川女子大学
7	1972	S47	8.17～19	愛知県豊橋市	日本体育大学	大阪成蹊女子短大	東京女子体育大学 武庫川女子大学 日本女子体育大学
8	1973	S48	8.28～30	群馬県草津町	東京女子体育大学	大阪成蹊女子短大	日本女子体育大学 日本体育大学
9	1974	S49	8.24～25	東京都世田谷区	東京女子体育大学	日本体育大学	日本女子体育大学
10	1975	S50	8.20～22	兵庫県姫路市	東京女子体育大学	日本体育大学	大阪成蹊女子短大
11	1976	S51	8.22～25	広島県呉市	日本体育大学	東京女子体育大学	中京大学
12	1977	S52	7.26～28	三重県熊野市	日本体育大学	東京女子体育大学	中京大学
13	1978	S53	8.15～17	山梨県甲府市	日本体育大学	東京女子体育大学	大阪成蹊女子短大
14	1979	S54	8.20～23	群馬県安中市	日本体育大学	東京女子体育大学	大阪体育大学
15	1980	S55	8.22～25	石川県金沢市	日本体育大学	大阪成蹊女子短大	中京大学
16	1981	S56	8.21～24	山口県宇部市	日本体育大学	大阪成蹊女子短大	中京大学
17	1982	S57	8.06～09	福岡県大牟田市	中京女子大学	日本女子体育大学	東京女子体育大学
18	1983	S58	8.09～12	東京都昭島市	園田学園女子大学	東京女子体育大学	大阪成蹊女子短大 日本女子体育大学
19	1984	S59	8.10～13	静岡県浜松市	大阪成蹊女子短大	大阪体育大学	武庫川女子大学
20	1985	S60	8.24～27	香川県坂出市	日本体育大学	東京女子体育大学	園田学園女子大学
21	1986	S61	8.08～11	岐阜県下呂町他	東京女子体育大学	武庫川女子大学	日本体育大学
22	1987	S62	8.14～17	山口県宇部市	日本体育大学	園田学園女子大学	東京女子体育大学 日本女子体育大学
23	1988	S63	8.19～22	福岡県大川市	園田学園女子大学	日本体育大学	日本女子体育大学 東京女子体育大学
24	1989	H1	8.26～28	千葉県千葉市	園田学園女子大学	日本女子体育大学	中京女子大学 東京女子体育大学
25	1990	H2	8.17～20	石川県金沢市	日本体育大学	東京女子体育大学	大阪成蹊女子短大 日本女子体育大学
26	1991	H3	8.09～12	愛知県豊田市	東京女子体育大学	日本体育大学	日本女子体育大学 中京大学
27	1992	H4	8.07～10	香川県観音寺市他	日本体育大学	東京女子体育大学	中京大学 園田学園女子大学
28	1993	H5	8.06～09	山口県宇部市	東京女子体育大学	日本体育大学	九州女子大学 中京大学
29	1994	H6	8.19～21	神奈川県相模原市	日本体育大学	東京女子体育大学	園田学園女子大学 仙台大学
30	1995	H7	8.11～13	広島県御調町	東京女子体育大学	日本体育大学	園田学園女子大学 中京大学
31	1996	H8	8.08～11	山口県宇部市	日本女子体育大学	日本体育大学	東京女子体育大学 中京大学
32	1997	H9	8.08～10	鹿児島県桜島町	日本体育大学	東京女子体育大学	九州女子大学 関西外国語大学
33	1998	H10	8.07～09	三重県磯部町	東京女子体育大学	日本体育大学	淑徳大学 園田学園女子大学
34	1999	H11	8.08～10	宮城県女川町	東京女子体育大学	日本女子体育大学	中京大学 武庫川女子大学
35	2000	H12	8.05～07	香川県丸亀市	東京女子体育大学	園田学園女子大学	日本体育大学 神戸親和女子大学

回	西暦	元号	開催日	開催地	優勝	準優勝	3位
36	2001	H13	8.09～11	茨城県古河市	東京女子体育大学	東海女子大学	大谷女子大学 園田学園女子大学
37	2002	H14	8.10～12	京都府宇治市	東京女子体育大学	東海学園大学	園田学園女子大学 龍谷大学
38	2003	H15	8.29～31	山口県宇部市	淑徳大学	東京女子体育大学	日本体育大学 大阪国際大学
39	2004	H16	8.26～29	静岡県富士宮市	大谷女子大学 日本体育大学	決勝戦は雨天中止 両チーム優勝	愛媛女子短期大学 東海女子大学
40	2005	H17	9.03～05	群馬県安中市	東北福祉大学	園田学園女子大学	中京大学 清和大学
41	2006	H18	8.26～28	愛知県豊橋市	早稲田大学	日本体育大学	福岡大学 淑徳大学
42	2007	H19	8.25～27	京都府福知山市	園田学園女子大学	大阪国際大学	東北福祉大学 大阪大谷大学
43	2008	H20	8.29～9.01	宮城県女川町	東北福祉大学	大阪国際大学	日本女子体育大学 東京女子体育大学
44	2009	H21	8.28～30	宮崎県宮崎市	東北福祉大学	日本体育大学	立命館大学 園田学園女子大学
45	2010	H22	9.10～12	富山県富山市	東京女子体育大学	武庫川女子大学	東北福祉大学 鈴鹿国際大学
46	2011	H23	8.27～29	山口県下関市	園田学園女子大学	鈴鹿国際大学	日本体育大学 早稲田大学
47	2012	H24	9.01～03	埼玉県毛呂山町他	園田学園女子大学	東京女子体育大学	日本体育大学 東海学園大学
48	2013	H25	9.07～10	大阪府交野市	中京大学	園田学園女子大学	大阪国際大学 環太平洋大学
49	2014	H26	8.30～9.01	岩手県花巻市	東京国際大学	日本体育大学	東京富士大学 園田学園女子大学
50	2015	H27	8.29～9.01	三重県伊勢市	中京大学 東海学園大学	東京富士大学 日本体育大学	準決勝戦・決勝戦 雨天中止4校入賞
51	2016	H28	8.29～9.01	鹿児島県南九州市	園田学園女子大学	日本体育大学	日本文理大学 東海学園大学
52	2017	H29	8.26～29	広島県東広島市他	環太平洋大学	園田学園女子大学	中京大学 日本体育大学
53	2018	H30	9.02～04	石川県金沢市	日本体育大学	園田学園女子大学	東北福祉大学 東京女子体育大学
54	2019	R1	8.30～9.01	愛知県安城市	日本体育大学	園田学園女子大学	環太平洋大学 金沢学院大学
選 抜	2020	R2	8.30～9.01	愛知県安城市	中京大学	日本体育大学	城西大学 金沢学院大学
56	2021	R3	8.30～9.01	愛知県安城市	園田学園女子大学	環太平洋大学	東海学園大学 東京女子体育大学
57	2022	R4	8.30～9.01	愛知県安城市	金沢学院大学	東北福祉大学	中京大学 環太平洋大学

令和4年度 男子加盟大学一覧

(一社) 全日本大学ソフトボール連盟

地 区	数	加 盟 大 学 名
北 海 道 ・ 東 北	6	北海道大学 盛岡大学 東北大学 宮城教育大学 仙台大学 福島大学
関 東	13	城西大学 国際武道大学 東海大学 東京理科大学 高崎経済大学 東京国際大学 埼玉大学 都留文科大学 文教大学 茨城大学 筑波大学 千葉大学 日本大学生物資源科学部
北 信 越	5	信州大学 富山大学 長岡大学 福井県立大学 諏訪東京理科大学
東 京	17	日本体育大学 早稲田大学 国士舘大学 中央大学 学習院大学 慶応義塾大学 東京学芸大学 明治大学 日本大学 立教大学 桜美林大学 東京大学 成蹊大学 東洋大学 帝京大学 明星大学 文教大学湘南
東 海	14	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中部大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学
近 畿	22	大阪経済大学 大阪工業大学 大阪公立大学 大阪産業大学 大阪体育大学 大阪大学 関西学院大学 関西大学 京都産業大学 京都大学 近畿大学生物理工学部 甲南大学 神戸学院大学 神戸大学 四天王寺大学 同志社大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 和歌山大学
中 国	11	岡山大学 岡山理科大学 環太平洋大学 鳥取大学 島根大学 近畿大学工学部 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島国際学院大学 広島修道大学
四 国	7	愛媛大学 松山大学 香川大学 徳島大学 四国大学 高知大学 高知工科大学
九 州	11	九州大学 九州共立大学 九州産業大学 西日本工業大学 福岡大学 長崎県立大学 熊本学園大学 鹿児島国際大学 沖縄国際大学 名桜大学 琉球大学

令和4年度 女子加盟大学一覧

(一社) 全日本大学ソフトボール連盟

地 区	数	加 盟 大 学 名
北 海 道 ・ 東 北	6	弘前大学 富士大学 東北福祉大学 宮城教育大学 宮城学院女子大学 仙台大学
関 東	15	山梨学院大学 東京国際大学 城西大学 東海大学 淑徳大学 新島学園短期大学 清和大学 城西国際大学 文教大学 順天堂大学 千葉大学 筑波大学 茨城大学 白鷗大学 日本大学生物資源科学部
北 信 越	2	金沢学院大学 松本大学
東 京	16	東京女子体育大学 日本体育大学 早稲田大学 東京富士大学 国士舘大学 日本女子体育大学 東京学芸大学 学習院大学 日本大学 慶応義塾大学 中央大学 東洋大学 実践女子大学 明治大学 桜美林大学 成蹊大学
東 海	12	愛知教育大学 岐阜協立大学 岐阜聖徳学園大学 至学館大学 静岡大学 星城大学 中京大学 中京学院大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 日本福祉大学
近 畿	22	大阪青山大学 大阪大谷大学 大阪経済大学 大阪公立大学 大阪国際大学 大阪体育大学 関西大学 京都産業大学 京都先端科学大学 神戸親和大学 四天王寺大学 園田女子学園大学 太成学院大学 天理大学 同志社大学 羽衣国際大学 兵庫教育大学 びわこ成蹊スポーツ大学 佛教大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学
中 国	5	I P U環太平洋大学 中国学園大学 広島大学 安田女子大学 美作大学
四 国	3	愛媛大学 香川大学 四国大学
九 州	5	九州共立大学 福岡大学 日本文理大学 熊本学園大学 長崎国際大学

男子：106 大学 2,223 名 女子：86 大学 2,103 名 合計：192 大学 4,326 名

令和4年12月31日現在

一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟 理事・監事・社員

役職	氏名	所属
代表理事	児玉 公正	大阪大谷大学
業務執行理事	丸山 悟	日本福祉大学
業務執行理事	高橋 知美	富士大学
業務執行理事	木田 京子	園田学園女子大学
業務執行理事	大塚 健樹	盛岡大学
業務執行理事	長澤 淑恵	城西大学
理事	舟山 健一	東北福祉大学
理事	佐藤 理恵	東京女子体育大学
理事	高橋 流星	日本体育大学
理事	伊勢 幸広	広島工業大学
理事	増淵 まり子	淑徳大学
理事	山本 清人	環太平洋大学
理事	濱 貴一	熊本学園大学
理事	藤本 索子	金沢学院大学
理事	二瓶 雄樹	中京大学
理事	田島 良輝	大阪経済大学
理事	渡邊 華月	トヨタ自動車
理事	井上 明子	西東京いこい法律事務所
理事	山田 優子	城西大学
理事	泉 健介	大阪大谷大学
監事	森田 啓之	兵庫教育大学
監事	平野 義明	関西大学
社員	森 英寿	富士大学
社員	高橋 光平	城西国際大学
社員	多田 邦宏	金沢学院大学
社員	秋葉 茂季	国士舘大学
社員	東 美幸	東海学園大学
社員	吉末 和也	関西大学
社員	土谷 文乃	美作大学
社員	藤本 賢一	四国大学
社員	野田 堅三	福岡大学

2023 令和5年度 全日本関係大会日程(案)

※参加申込期限は原則大会40日前で設定

回数	種 別	期 日	参加申込期限	会 場	参加数
63	実業団男子選手権	7月29日(土)～31日 監・開:28日	6月19日	和歌山県 紀の川市	32
63	実業団女子選手権	7月22日(土)～24日 監・開:21日	6月12日	鹿児島県 南九州市	20
44	クラブ男子選手権	7月29日(土)～31日 監・開:28日	6月19日	山形県 山形市・天童市	32
44	クラブ女子選手権	7月15日(土)～17日 監・開:14日	6月12日	香川県 坂出市	24
69	教員選手権	7月29日(土)～31日 監・開:28日	6月19日	鳥取県 倉吉市	32
58	高校男子選手権	8月 5日(土)～ 8日 監・開: 4日		北海道 石狩市	42
75	高校女子選手権	7月29日(土)～8月1日 監・開: 28日		北海道 石狩市	48
58	大学男子選手権	9月 9日(土)～11日 監・開: 8日	7月28日	富山県 富山市	32
58	大学女子選手権	8月25日(金)～27日 監・開:24日	7月14日	愛知県 安城市	32
69	全日本総合男子選手権	9月16日(土)～18日 監・開:15日	8月7日	滋賀県 東近江市	32
75	全日本総合女子選手権	9月16日(土)～18日 監・開:15日	8月7日	佐賀県 白石町・太良町	32
37	小学生男子大会	7月29日(土)～8月1日 監・開:28日	6月19日	福島県 福島市	48
37	小学生女子大会	7月29日(土)～8月1日 監・開:28日	6月19日	三重県 熊野市	48
45	全国中学校男子大会	8月19日(土)～21日 監・開:18日		香川県 丸亀市	16
45	全国中学校男子大会	8月19日(土)～21日 監・開:18日		香川県 丸亀市	28
28	レディース大会	9月 9日(土)～11日 監・開: 8日	7月28日	山口県 山口市	48
22	エルデスト大会	10月21日(土)～23日 監・開:20日	9月7日	群馬県 高崎市	48
20	一般男子	8月26日(土)～28日 監・開:25日	7月14日	宮城県 仙台市・東松島市	48
38	壮年大会	9月16日(土)～18日 監・開:15日	8月7日	宮崎県 宮崎市	48
32	実年大会	9月 2日(土)～ 4日 監・開:1日	7月24日	沖縄県 金武町	48
37	シニア大会	9月30日(土)～10月2日 監・開:9月29日	8月21日	新潟県 新潟市・燕市・三条市	48
18	ハイシニア大会	9月22日(金)～24日 監・開:21日	8月14日	茨城県 桜川市	48
23	中学生男子大会	8月12日(土)～14日 監・開:11日	7月21日	大阪府 大阪市	48
23	中学生女子大会	8月12日(土)～14日 監・開:11日	7月21日	大阪府 大阪市	48
78	国体 成年男子	10月 8日(日)～10日 監:7日		鹿児島県 南九州市	13
〃	成年女子	〃 〃		〃 指宿市	13
〃	少年男子	〃 〃		〃 南九州市	13
〃	少年女子	〃 〃		〃 南九州市	13
23	日本スポーツマスターズ大会(男子)	9月16日(土)～19日 監・ 日		福井県 福井市	48
23	(女子)	9月16日(土)～19日 監・ 日		福井県 永平寺町	48
35	ねんりんピック	10月29日(日)～31日 監・開:28日		愛媛県 今治市	
42	高校選抜 男子	2024年3月22日(金)～25日 監・開:21日		山口県 宇部市	48
42	高校選抜 女子	2024年3月16日(土)～19日 監・開:15日		静岡県 富士宮市	48
20	都道府県対抗全日本中学生男子大会	2024年3月24日(日)～26日 監・開:23日	2月8日	東京都 あきる野市	48
20	都道府県対抗全日本中学生女子大会	2024年3月28日(木)～30日 監・開:27日	2月16日	岐阜県 揖斐川町	48
17	春季小学生男子大会	2024年3月30日(土)～4月1日 監・開:29日	2月15日	群馬県 渋川市	48
17	春季小学生女子大会	2024年3月24日(日)～26日 監・開:23日	2月12日	京都府 宇治市	48

(注)監は監督会議、開は開会式の略

令和4年10月吉日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、(一社)全日本大学ソフトボール連盟に登録された者(理事、監督、コーチ、選手等)に限る。また、著者が複数の場合はいずれかの者が本資格を満たしていればよい。調査・研究委員会が特に認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容は、ソフトボールに関連したものとし、巻頭言、提言、総説、論文(含、抄録)、研究資料、実践研究、事例報告、卒業論文・修士論文、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内(巻頭言、提言の場合は1ページ以内)とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであっても良い。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものは全て受理とし、査読の上、採択する。なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合もある。

4. 投稿原稿の提出

1) 投稿原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、電子ファイルにて提出する。メールによる投稿の場合は、研究委員会からの返信をもって受け付けとする。投稿の締め切りは、毎年11月末日で区切るものとする。

2) 投稿先および連絡先

担当者：高橋 流星（日本体育大学）

研究委員会 E-mail:subaru-takahashi@nittai.ac.jp

Tel&FAX：03-5706-0925

5. 執筆要項

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守する。

1) 投稿原稿は原則として下記のファイル形式で作成する。

・本文ファイル：Microsoft Word 標準ファイル形式

・図・表・写真ファイル：Microsoft Word 標準ファイル形式、Excel 標準ファイル形式、PowerPoint 標準ファイル形式、JPEG、PNG など

2) 用紙設定

A4 版縦置き横書き、全角 40 字×40 行(上下余白 25mm・左右余白 25mm)、文字サイズは 10.5 ポイント、和文フォントは明朝体を基本とする。手書きは、原則、不可とする。

一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟

定 款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟と称し、
英語では Japan College Softball Federation (略称 J C S F) と表記する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を愛知県知多郡美浜町に置く。
2 この法人は、理事会の決議によって従たる事務所を必要な地に置くことができる。
これを変更又は廃止する場合も同様とする。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、全国の大学ソフトボール団体を統轄し、大学ソフトボールの普及・
発展、振興及び競技力向上を図るとともに、ソフトボールを通して学生の心身の
健全な発達及び我が国のソフトボールの発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 大学ソフトボール競技会の企画、運営及びその開催に関する事業
(2) 大学ソフトボールの普及・発展、振興及び競技力向上に関する事業
(3) ソフトボールの国際競技会に派遣するチームの編成並びに当該チーム及び選手
の派遣に関する事業
(4) ソフトボールの指導者、審判員及び記録員等の育成に関する事業
(5) ソフトボールに関する研究・調査の推進
(6) ソフトボールに関する講演会・講習会等の開催
(7) その他この法人の目的達成のために必要な一切の事業

第3章 会員

(法人の構成員)

第5条 この法人に次の会員を置く。
(1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した大学の団体又は個人で、下記にあ
たるもの
①団体会員 公益財団法人日本ソフトボール協会に登録し、当該大学の体育会、
学友会又はこれに準ずる組織に認められている団体。

②個人会員 前号の団体に所属する学生若しくは指導者又はこの法人の目的に賛同して入会した個人。

(2) 特別会員 この法人の目的に賛同し、この法人の事業に協力又は支援するために入会したスポーツ関係団体。

2 設立時社員のほか、前項の正会員のうち、その所在地により設置される地区大学ソフトボール連盟から選出されるものを、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般法人法」という。）上の社員とする。

(入会)

第6条 この法人の会員になろうとするものは、理事会の定めるところにより申込みをし、その承認を受けなければならない。

(経費の負担)

第7条 正会員は、この法人の活動に必要な経費に充てるため、毎年、社員総会において別に定められた額の登録費（以下「会費」という。）を支払わなければならない。

(退会)

第8条 正会員及び特別会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(会員の資格喪失)

第9条 会員は、次の各号の一に該当したときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき。
- (2) 除名されたとき。
- (3) 正当な理由なく2年間分以上会費を滞納したとき。
- (4) 当該会員を除くすべての社員が同意したとき。
- (5) 会員が死亡し、又は解散したとき。
- (6) 満70歳に達した日が属する事業年度が終了したとき。

(懲戒)

第10条 会員が次の各号の一に該当したときは、本条第4項に定める決議を経て、その会員を懲戒することができる。

- (1) この法人の定款又は規則その他の規程に違反したとき。
- (2) 職業行為に関し、法令に違反して、刑罰に処され、又は行政処分を受けたとき。
- (3) この法人の会費を滞納し、かつ催告を受けてなお納付しないとき。
- (4) この法人又はこの法人の会員としての信用と名誉を傷つける行為をしたとき。
- (5) その他の正当な事由があるとき。

- 2 懲戒は、次の各号に定める方法のうち、何れかの方法により行う。
- (1) 戒告
 - (2) 定款その他の規程により会員に与えられた権利の停止
 - (3) 除名（前項第3号に該当する場合を除く。）
- 3 懲戒は、その事由に該当すると認められた会員に対し、決議の前に、理事会及び理事会に先立ち懲戒案件を審査する委員会において、十分な弁明の機会を与えなければならない。また、前項第3号に定める方法による場合は、当該会員に対し、社員総会の2週間前までに、当該総会において除名を審議すること、かつ、その決議の前に弁明する機会を与えることを通知しなければならない。
- 4 懲戒は、第2項第1号又は第2号に定める方法による場合は理事会の決議により、また、同項第3号に定める方法による場合は理事会の決議を経た上、社員総会において、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって、これを決する。
- 5 会費の滞納者に対しては、別に規則をもって定める請求手続により催告を行い、催告後1年を過ぎてもなお納入がないときは、第2項第2号に定める方法による懲戒を行う。また、次項に定める当該懲戒の通知後、1年を過ぎてもなお未納の場合は、第9条第3号の規定により、会員資格を喪失するものとする。
- 6 第4項により懲戒が決議されたとき、又は前項により会員資格を喪失したときは、代表理事は、当該会員に対し書面によりその内容及び理由を通知するとともに、別に定める懲戒処分等の公示に関する取扱細則に従い、所定の事項を機関紙その他に公示しなければならない。
- 7 本条に定めるもののほか、懲戒に関し必要な事項は、理事会の決議を経て、規則をもってこれを定める。

（会員資格喪失に伴う権利及び義務）

第11条 会員が第9条の規定によりその資格を喪失したときは、この法人に対する会員としての権利を失い、義務を免れる。ただし、未履行の義務は、これを免れることができない。

- 2 この法人は、会員がその資格を喪失しても、既納の会費及びその他の拠出金品は、これを返還しない。

第4章 社員総会

（社員総会の構成）

第12条 社員総会は、すべての社員をもって構成する。

(社員総会の権限)

第 13 条 社員総会は、次の事項に限り決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 定款の変更
- (3) 会員の除名
- (4) 入会の基準及び会費の金額
- (5) 解散及び残余財産の処分
- (6) 合併、事業の全部若しくは一部の譲渡又は事業の全部の廃止
- (7) その他社員総会で決議するものとして、法令及びこの定款に定める事項

2 前項にかかわらず、個々の社員総会においては、第 15 条第 3 項の通知に記載又は記録された社員総会の目的である事項以外の事項は、決議することができない。

(社員総会の種類及び開催)

第 14 条 この法人の社員総会は、定時社員総会及び臨時社員総会の 2 種とする。

2 定時社員総会は、毎事業年度終了後 3 ヶ月以内に開催する。

3 臨時社員総会は、次の各号の一に該当するときに開催する。

- (1) 理事会において開催の決議がなされたとき。
- (2) 総社員の 10 分の 1 以上の議決権を有する社員から、社員総会の目的である事項及び招集の理由を記載した書面又は電磁的方法により、招集の請求が代表理事にあったとき。

(社員総会の招集及び議長)

第 15 条 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき代表理事が招集し、議長となる。

2 代表理事は、前条第 3 項第 2 号の請求があったときは、その請求があった日から 6 週間以内の日を社員総会の日とする社員総会の招集の通知を発しなければならない。

3 社員総会を招集するときは、社員総会の日時、場所、目的である事項その他法令で定める事項を記載した書面又は電磁的方法により、社員総会の日から 1 週間前までに通知を発しなければならない。

(社員総会の定足数)

第 16 条 社員総会は、総社員の過半数の出席がなければ開催することができない。

(議決権)

第 17 条 社員総会における議決権は、社員 1 名につき 1 個とする。

(社員総会の決議)

第 18 条 社員総会の決議は、総社員の過半数が出席し、出席した当該社員の議決権の過半数をもって決し、可否同数のときは否決とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

(1) 社員の除名

(2) 監事の解任

(3) 定款の変更

(4) 解散

(5) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第21条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(社員総会の決議の省略)

第 19 条 理事又は社員が、社員総会の目的である事項について提案した場合において、その提案について、社員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

(社員総会の議事録)

第 20 条 社員総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び出席した理事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

第5章 役員

(役員の設置)

第 21 条 この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事 3名以上 25名以内

(2) 監事 1名以上 3名以内

2 理事のうち1名を代表理事とする。

3 代表理事以外の理事のうち5名以内を業務執行理事とする。

(選任等)

第 22 条 理事及び監事は、社員総会の決議によって各々選任する。

2 代表理事及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

3 前項で選定された代表理事は会長に、業務執行理事は常任理事に就任する。

- 4 理事会は、その決議によって、第2項で選定された業務執行理事より、副会長、専務理事及び常務理事を選定することができる。ただし、副会長は2名以内、専務理事は1名、常務理事は2名以内とする。

(理事の職務及び権限)

第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款に定めるところにより、この法人の業務の執行の決定に参画する。

- 2 代表理事は、この法人を代表し、その業務を執行する。
- 3 副会長に就任した業務執行理事は、代表理事を補佐し、この法人の業務を執行する。また、代表理事に事故があるとき又は代表理事が欠けたときは、理事会が予め決定した順序によって、その業務執行に係る職務を代行する。
- 4 前項以外の業務執行理事は、代表理事及び副会長に就任した業務執行理事を補佐し、この法人の業務を執行する。また、代表理事及び副会長に就任した業務執行理事に事故があるとき又は欠けたときは、代表理事の業務執行に係る職務を代行する。
- 5 前二項の他、業務執行理事は、この法人の業務を分担執行する。
- 6 代表理事及び業務執行理事は、毎事業年度ごとに4ヶ月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第24条 監事は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 理事の職務執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成すること。
- (2) この法人の業務及び財産の状況を調査すること、並びに各事業年度に係る計算書類及び事業報告等を監査すること。
- (3) 必要に応じて理事及び使用人に対して事業の報告を求めること。
- (4) 社員総会及び理事会に出席し、必要あると認めるときは意見を述べること。
- (5) その他監事に認められた法令上の権限を行使すること。

(役員の任期)

第25条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した理事の補欠として又は増員により選任された理事の任期は、前任者の任期又は他の在任理事の任期の満了するときまでとする。
- 3 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。
- 4 任期の満了前に退任した監事の補欠として選任された監事の任期は、前任者の任

期の満了するときまでとする。

- 5 役員は、第 21 条第 1 項に定めた役員の員数が欠けた場合には、辞任又は任期満了後においても、新たに選任された者が就任するまでは、なお理事又は監事としての権利義務を有する。
- 6 役員は就任時において、その年齢が 70 歳未満でなければならない。

（役員の解任）

第 26 条 役員は、いつでも社員総会の決議によって、解任することができる。ただし、監事を解任する場合は、総社員の半数以上であつて、総社員の議決権の 3 分の 2 以上の議決に基づいて行わなければならない。

（役員の報酬等）

第 27 条 理事及び監事に対して、社員総会において定める総額の範囲内で、社員総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

（顧問）

第 28 条 この法人に顧問を複数名置くことができる。

- 2 顧問は、理事会の推薦により代表理事が委嘱する。

（顧問の職務）

第 29 条 顧問は、この法人の運営に関する事項について、代表理事の諮問に応え、代表理事に対し、又は理事会から諮問された事項について意見を述べることができる。

第 6 章 理事会

（理事会の構成）

第 30 条 この法人に理事会を置く。

- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

（理事会の権限）

第 31 条 理事会は、次の職務を行う。

- （1）社員総会の日時及び場所並びに目的である事項等の決定
- （2）規則等の制定、変更及び廃止
- （3）前各号に定めるもののほか、この法人の業務執行の決定
- （4）理事の職務の執行の監督
- （5）代表理事及び業務執行理事等の選定及び解職

(理事会の種類及び開催)

第 32 条 この法人の理事会は、通常理事会及び臨時理事会の 2 種とする。

2 通常理事会は、毎事業年度に 4 ヶ月を超える間隔で 2 回以上開催する。

3 臨時理事会は、次の各号の一に該当するときに開催する。

(1) 代表理事が必要と認めたとき。

(2) 代表理事以外の理事又は監事から、会議の目的である事項を記載した書面又は電磁的方法により、招集の請求が代表理事にあったとき。

(理事会の招集及び議長)

第 33 条 理事会は、法令に別段の定めがある場合を除き、代表理事が招集し、議長となる。

2 代表理事は、前条第 3 項第 2 号の請求があったときは、その請求があった日から 5 日以内の日を理事会の日とする臨時理事会の招集の通知を発しなければならない。

3 理事会を招集するときは、理事会の日時、場所、目的である事項を記載した書面又は電磁的方法により、理事会の日の 5 日前までに、各理事及び各監事に対して通知を発しなければならない。

4 前項の規定にかかわらず、理事及び監事の全員の同意があるときは、招集の手続を経ることなく理事会を開催することができる。

5 代表理事が欠けたとき又は代表理事に事故があるときは、業務執行理事が、理事会が予め決定した順序によって理事会を招集する。

(理事会の定足数)

第 34 条 理事会は、議決に加わることができる理事の過半数の出席がなければ開催することができない。

(理事会の決議)

第 35 条 理事会の決議は、この定款に別段の定めがあるもののほか、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行い、可否同数の時は議長の裁決するところによる。

2 前項に規定する可否同数の時の裁決を除き、議長は、理事会の決議に、理事として議決に加わることはできない。

(理事会の決議の省略)

第 36 条 理事が、理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったも

のとみなす。ただし、監事が異議を述べたときは、その限りではない。

(報告の省略)

第 37 条 理事又は監事が理事及び監事の全員に対し、理事会に報告すべき事項を通知したときは、その事項を理事会に報告することを要しない。

(理事会の議事録)

第 38 条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 出席した代表理事及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印しなければならない。ただし、代表理事の選定を行う理事会については、他の出席した理事も署名又は記名押印する。

第 7 章 資産及び会計

(事業年度)

第 39 条 この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月末日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第 40 条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、代表理事が作成し、理事会の決議を経て、社員総会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所（及び従たる事務所）に、当該事業年度が終了するまでの間、備え置きするものとする。

(事業報告及び決算)

第 41 条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、代表理事が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、その承認を受けた書類のうち、第 1 号、第 3 号及び第 4 号の書類については定時社員総会に提出し、第 1 号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 損益計算書（正味財産増減計算書）

(5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

- 2 前項の書類のほか、監査報告を主たる事務所に 5 年間、また、従たる事務所に 3 年間備え置きするとともに、定款を主たる事務所及び従たる事務所に、社員名簿

を主たる事務所に備え置きするものとする。

(剰余金の不分配)

第 42 条 この法人は、剰余金の分配を行わない。

第 8 章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第 43 条 この定款は、社員総会の決議によって変更することができる。

(解散)

第 44 条 この法人は、社員総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第 45 条 この法人が解散等により清算をする場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 5 条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第 9 章 公告の方法

(公告の方法)

第 46 条 この法人の公告は、電子公告により行う。

- 2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法により行う。

第 10 章 補則

(委任)

第 47 条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

第 11 章 事務局及び職員

(事務局及び職員)

第 48 条 この法人の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局長の選任及び解任については、理事会の決議を要する。その他の職員は、会長が任免する。

- 3 事務局の職員（事務局長を除く）には、理事会において定めた報酬等の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

附則

- 1 この法人の設立初年度の事業年度は、この法人の成立の日から令和5年3月31日までとする。

- 2 この法人の設立時理事及び設立時監事は、次に掲げる者とする。

設立時理事	丸山 悟
設立時理事	高橋 伸次
設立時理事	森田 啓之
設立時監事	平野 義明

- 3 この法人の設立時社員の氏名及び住所は、次のとおりである。

設立時社員	岩間 英明
-------	-------

「掲載省略」

設立時社員	柳田 信也
-------	-------

「掲載省略」

設立時社員	二瓶 雄樹
-------	-------

「掲載省略」

- 4 この定款に定めのない事項は、すべて一般法人法その他の法令に従う。

以上、一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟設立のため、設立時社員の定款作成代理人である弁護士小塩康祐は、電磁的記録であるこの定款を作成し、これに電子署名する。

令和4年5月2日

設立時社員 岩間 英明

設立時社員 柳田 信也

設立時社員 二瓶 雄樹

上記定款作成代理人 弁護士 小塩 康祐

編集後記

本機関誌「ウインドミル」は1997年12月に創刊され、約25年間、発行を続けてこられました。その編集長としてご尽力を頂戴いたしました水谷博先生には、本当に感謝しております。重ね重ね御礼申し上げます。

本機関誌の発刊にあたりまして、限られた時間のなかで不慣れな編集作業であり、記録などの欠ける面、誤字脱字等につきましては、ご寛容の程をお願い致します。今後は、本連盟がさらに進化、発展できるよう努力して参ります。

最後になりましたが、本機関誌発行にあたり、ご支援いただきました執筆者や読者の皆様をはじめ、貴重な記録データをご提供いただいた(公財)日本ソフトボール協会記録委員会と試合の記帳をしていただいた全国の記録委員の皆様、(株)日本体育社様には、大会等の写真のご提供も頂戴致しました。また、ミズノ株式会社様、内外ゴム株式会社様、ナガセケンコー株式会社様には、広告協賛も頂戴致しました。多くの皆様に対しまして、特に記して衷心より感謝と御礼を申し上げます。

(一社) 全日本大学ソフトボール連盟
研究委員会 委員長 高橋 流星

(一社) 全日本大学ソフトボール連盟機関誌 ウインドミル 第26号

2023年2月15日発行

発 行 者 (一社) 全日本大学ソフトボール連盟 代表理事 児玉 公正
編集責任者 研究委員会 委員長 高橋 流星
E-mail : subaru-takahashi@nittai.ac.jp

発 行 所 (一社) 全日本大学ソフトボール連盟 事務局 泉 健介
〒584-8540 大阪府富田林市錦織北3丁目11番1号
U R L : <https://jcsf.jp/>

印 刷 冊子印刷ドットコム
〒630-8126 奈良県奈良市三条栄町9-18
URL : <http://www.34.insatsu.com/>
TEL:050-353-3432 FAX:0742-35-7223



アスリートの盗撮、 写真・動画の悪用、 悪質なSNS投稿は 卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者を傷つける絶対に許されない卑劣な行為です。すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- ▶ 大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取り組みを後押しします。
- ▶ 研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- ▶ SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆様のご理解が欠かせません。

これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。 SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。

アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。
今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

<https://www.joc.or.jp/about/savesport/>



- ▶ 盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。
- ▶ SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪(名誉毀損罪)として処罰される可能性があります。
- ▶ 匿名による投稿であっても、法的手続により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。

感動！ サプライヤー ケンコーボール

1934年創業以来85年以上にわたり 一心にボールを作り続けてまいりました。
これからもスポーツライフに相應しい自信作をお届けしていきます。



(公財)日本ソフトテニス連盟公認球
ケンコーソフトテニスボール



(公財)全日本軟式野球連盟公認球
ケンコーボール



(公財)日本ソフトボール協会検定球
ケンコーソフトボール

KE/KO BALL

ケンコーボール

ナガセケンコー株式会社 www.nagase-kenko.com

[東京本社] TEL(03)3614-3501
[九州営業所] TEL(092)471-5381

[大阪営業所] TEL(06)6531-0783
[名古屋営業所] TEL(052)734-8886



NAIGAI SOFTBALL

(公財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・革製3号



NAIGAI BASEBALL

(公財)全日本軟式野球連盟公認球 M号・J号・D号・H号



想いを込める一球がある。


naigai

内外ゴム株式会社



一般社団法人
全日本大学ソフトボール連盟
Japan College Softball Federation